

令和5年度

(2023年度)

植物防疫事業成績書

(年報)

令和6年3月

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

はじめに

大分県における病虫害発生予察業務は、平成 22 年度の組織改正以降、農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームを中心に、葉根菜類・茶業チーム、果樹グループ及び花きグループと共同で実施しています。主要業務として、病虫害発生予察情報の発表、重要病虫害侵入警戒調査の実施及び病虫害診断業務等を行い、各種の情報や調査データを「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」とともに、随時ホームページにて公表しております。

昨年の梅雨入りは平年よりも 6 日早い 5 月 29 日、梅雨明けは 6 日遅い 7 月 25 日となり、同時期の降水量は平年比 105%と平年並で推移しました。そのため、葉いもちやネギ軟腐病の蔓延にも繋がりました。また、秋期は高温乾燥傾向で推移したため、10 月 31 日には、トマトキバガが県内のトマト及びミニトマトで初めて確認されるとともに、斑点米カメムシ類、アザミウマ類及びイチゴうどんこ病等が多く発生しました。

このため、トマトキバガについて、9 月 22 日に技術情報を、11 月 2 日に注意報を発出して注意を促しました。また、いもち病、ネギ軟腐病、アザミウマ類、斑点米及び果樹カメムシ類、並びにイチゴうどんこ病及び灰色かび病を対象に注意報や技術情報を発出し、10 月 2 日に秋期の高温傾向における防除対策について、技術情報による啓発を行ないました。併せて、5 月 1 日にスモミハバチが県内で初確認され、特殊報を発出しました。さらに、微小害虫やウイルス病対策のため、JPP-NET 病虫害発生予測データベース（日本植物防疫協会）によるトビイロウンカの防除適期予測や、薬剤感受性検定に基づいた防除指導に加え、雑草管理及び残渣処理等による耕種的防除や、天敵及び防虫ネットの利用等、防除だけでなく予防や発生予察にも重点を置いた総合防除（IPM）による指導を、関係機関との連携により進めてまいりました。

その結果、水稻は、一部地域で斑点米カメムシ類による品質低下が見られたものの、穂いもちやトビイロウンカ等の発生が少なく、作況指数 101 と県域での顕著な被害には至りませんでした。また、園芸品目では、ピーマン黄化えそ病の発生株数が、前年比 17%に激減するとともに、全国的問題となっているサツマイモ基腐病やミカンコミバエについて、九州唯一の未発生県を維持するなど、現地での適切な防除対策が実を結びつつあります。反面、トマトキバガ等の新規病虫害の発生や、農薬に対する耐性や抵抗性の発達した病虫害の蔓延に加え、ナシ火傷病の中国での発生により、国内への侵入が懸念されるなど、難防除病虫害の防除対策は道半ばであります。以上の状況から、生産現場との防除意識の共有を図りつつ、発生情報の把握や伝達方法の改善など、防除指導体制の一層の強化を進めてまいります。

近年の地球温暖化等に端を発した気象変動や国際的な人流及び物流の増加に伴い、病虫害の発生動向も変容しており、令和 3 年 7 月には 2050 年までに化学農薬の使用量 50%低減等を目標とする「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」が施行されました。また、昨年 4 月における「植物防疫法」改正に伴い、本年 3 月には「大分県病虫害総合防除計画」が策定されました。

このような情勢を踏まえ、今後も、化学農薬への過度な依存を伴わない総合防除体系を、園芸品目を中心に確立・推進していくとともに、防除暦を始めとする従来の統一的な防除対策に加え、生産者自らが、それぞれの産地や圃場における栽培環境や微気象に応じて防除時期や手段を調整できるカスタムメイド型の防除対策への転換に向けて、発生予察の改善や防除判断基準の構築も図ることで、県農業の再生や農作物の安定供給に寄与したいと考えております。

ここに、関係機関、団体およびフェロモントラップ調査員各位のご協力を得て、令和 5 年度に実施した植物防疫事業の実績を取りまとめましたので、ご活用頂ければ幸いです。

令和 6 年 3 月

大分県農林水産研究指導センター
農業研究部長 藤原 博文

目 次

I 組織

1 職員の配置と活動状況

(1) 職員の状況	1
(2) 活動状況	1
(3) 重点指導事項	1
(4) 病害虫発生予察調査員	2

II 管轄区域

1 管轄市町村	3
2 管轄市町村位置図	3
3 対象耕地面積	4

III 事業実施概要

1 実施状況	5
2 病害虫発生予察事業	
(1) 発生を認めた病害虫	7
(2) 新たに発生が認められた病害虫等	10
(3) 病害虫診断依頼結果	10
(4) 農作物有害動植物に対する薬剤感受性検定実施状況	11
(5) 発生予察情報	15
(6) 防除対策推進上の問題点及びその対策	35
(7) 主要作物の生育概況	37
(8) 普通作物病害虫の発生及び防除状況	39
(9) 果樹・茶病害虫の発生及び防除状況	46
(10) 野菜病害虫の発生及び防除状況	48
(11) 予察圃場等に関する調査	50
3 重要病害虫侵入警戒調査事業	68

IV 参考資料

1 令和5年気象概況

(1) 月別気象概況（大分地方気象台観測）	71
(2) 大分地方気象台における気象表	73
(3) 農業研究部における半旬別気象表	74

2 大分県における令和4年産主要作物の栽培面積

	76
--	----

I 組 織

1 職員の配置と活動状況

(1) 職員の状況

職 名	氏 名	担当部門等	摘要
農業研究部 部長	藤原 博文	病虫害防除所長	兼務
病虫害対策チーム 専門研究員 (TL)	山崎 修一	病虫害総括	兼務
主任研究員	玉嶋 勝範	普通作	兼務
主任研究員	玉野井 昭	病害・野菜	兼務
研究員	平木 薫	虫害・野菜	兼務
研究員	伊東 拓真	虫害・野菜	兼務
研究員	津田 裕樹	普通作・野菜	兼務
研究員	山元 美祐	病害・野菜	兼務
研究員	石本 侑梨	野菜・果樹	兼務
業務技師	小田 宏幸	普通作・野菜	兼務
葉根菜類・茶業チーム 研究員	川口 揚豊	茶	兼務
果樹グループ 温州ミカンチーム 研究員	永松 麻友香	常緑果樹	兼務
カボス・中晩柑チーム 主任研究員	野村 雄太	常緑果樹	兼務
落葉果樹チーム 主任研究員	小手川 亮平	落葉果樹	兼務
花きグループ 花きチーム 主任研究員	濱野 琴美	花き	兼務

(2) 活動状況 (病虫害対策チーム)

植物 検疫	防除 企画	防除指導 及び協力	発生 予察	侵入 調査	その他防除 関係事項※	計	備考
人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	※病虫害防除対策 にかかる試験研究 用務、農薬登録に かかる薬効薬害試 験用務等
140	100	320	470	105	1,315	2,450	
%	%	%	%	%	%	%	
5.7	4.1	13.1	19.2	4.3	53.7	100	

(3) 重点指導事項

- ア 病虫害発生予察事業の充実と情報伝達の迅速化、多様化
- イ 適期防除の推進及び農薬適正使用の徹底
- ウ 新規病虫害、侵入警戒有害動植物及び検疫有害動植物を含む重要病虫害防除の徹底
- エ 改正植物防疫法に基づく総合防除の推進
- オ みどりの食料システム法に基づく環境と調和のとれた食料システムの推進

(4) 病害虫発生予察調査員

各地のフェロモントラップの誘殺状況については「大分県病害虫発生予察調査業務」として業務委託契約を締結した。契約期間は令和5年4月3日から11月30日までとし、5日毎の誘殺状況について10日に1回報告を受けた。

ア 振興局別配置状況 (20名)

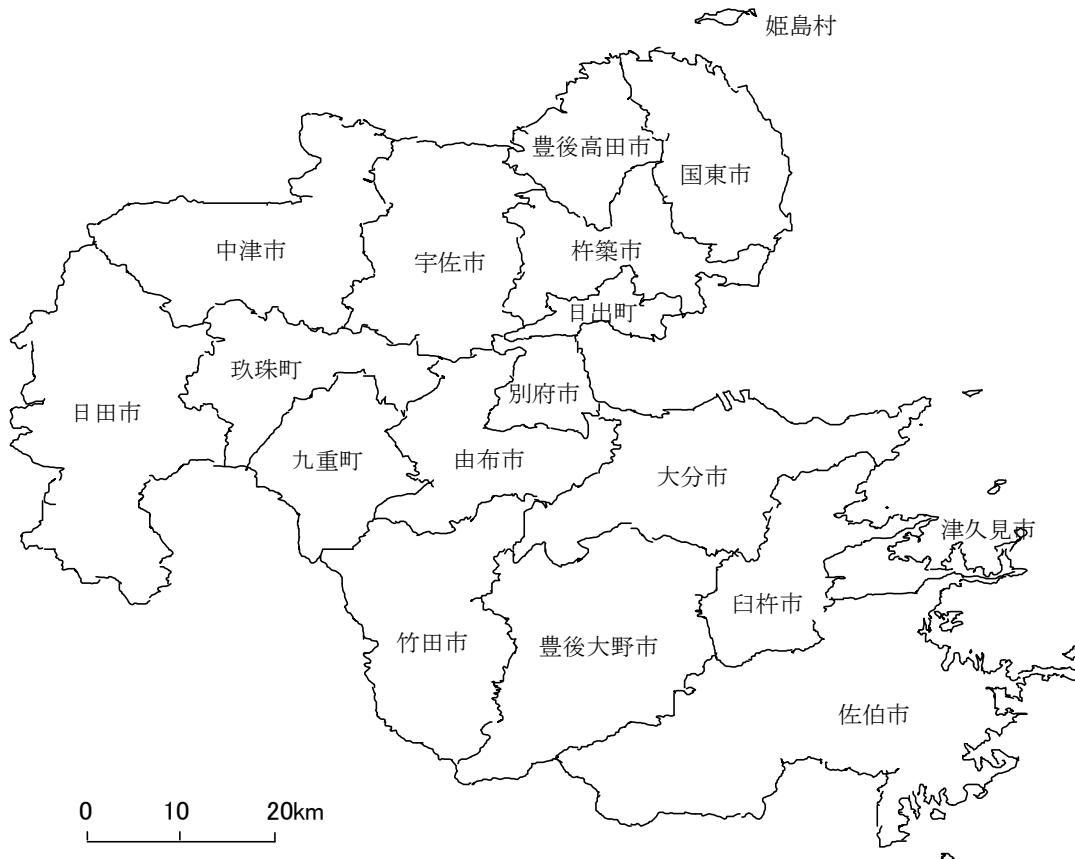
振興局名	市町村名	氏名	担当作物	対象害虫
東 部	国 東 市	大塚 正征	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
	国 東 市	伊東 理	野菜(イチゴ)	ハスモンヨトウ
	日 出 町	谷 俊幸	果樹(ナシ)	果樹カメムシ類
	杵 築 市	(株) カヤノ農産	特用作物(チャ)	チャノホソガ
中 部	由 布 市	土師 則昭	果樹(ナシ)	シンクイムシ類
	臼 杵 市	染矢 健一	野菜(ピーマン)	タバコガ類
	由 布 市	さざんか(農)	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
南 部	佐 伯 市	井上 真二	花き(キク)	ハスモンヨトウ
	佐 伯 市	小林 宏三	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
豊 肥	豊後大野市	福井 敏之	野菜(ピーマン)	タバコガ類
西 部	九 重 町	井上 徹	果樹(ナシ)	果樹カメムシ類
	日 田 市	(農)大肥郷ふるさと	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
	日 田 市	穴井 睦治	果樹(ナシ)	シンクイムシ類
北 部	豊後高田市	石垣 納康	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
	豊後高田市	沖本 康輔	野菜(ネギ)	シロイチモジヨトウ
	中 津 市	松田 秀治	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
	中 津 市	松枝 茂	果樹(ナシ)	果樹カメムシ類
	宇 佐 市	川上 博史	野菜(イチゴ)	ハスモンヨトウ
	宇 佐 市	井上 敏宏	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
	宇 佐 市	藤原 和巳	野菜(ネギ)	シロイチモジヨトウ

II 管轄区域

1 管轄市町村

振興局名	市町村数	市 町 村 名
東 部	5	別府市、杵築市、国東市、日出町、姫島村
中 部	4	大分市、臼杵市、津久見市、由布市
南 部	1	佐伯市
豊 肥	2	竹田市、豊後大野市
西 部	3	日田市、九重町、玖珠町
北 部	3	中津市、豊後高田市、宇佐市
計	18	

2 管轄市町村位置図



3 対象耕地面積(令和5年度)

単位：ha

振興局名	区分	田	畑	計
	市町村名			
東 部	別 府 市	273	63	336
	杵 築 市	2,520	829	3,350
	国 東 市	2,860	854	3,710
	日 出 町	451	265	716
	姫 島 村	7	27	34
	計	6,111	2,038	8,146
中 部	大 分 市	2,830	966	3,800
	臼 杵 市	1,150	1,190	2,340
	津久見市	0	279	279
	由 布 市	2,520	685	3,210
	計	6,500	3,120	9,629
南 部	佐 伯 市	1,340	495	1,830
	計	1,340	495	1,830
豊 肥	豊後大野市	4,060	2,000	6,060
	竹 田 市	4,380	2,070	6,440
	計	8,440	4,070	14,330
西 部	日 田 市	1,750	1,520	3,270
	九 重 町	1,280	683	1,960
	玖 珠 町	1,510	528	2,040
	計	4,540	2,731	7,270
北 部	中 津 市	2,970	821	3,790
	豊後高田市	1,790	1,200	2,990
	宇 佐 市	6,800	1,080	7,880
	計	11,560	3,101	14,660
県	計	38,491	15,555	54,035

注) ラウンドのため計と内訳は一致しない場合がある。

(出典：令和5年度農林水産省作物統計(市町村別データ))

III 事業実施概要

1 実施状況

病害虫の発生予察は、植物防疫事業実施要綱に基づき、病害虫、環境条件及び農作物の体質等に関する調査結果、並びに気象予報及び作物の生産予想等の情報に基づいて行なった。

病害虫の発生調査は、定点における調査と巡回による調査を普通作物、野菜類、果樹及び茶樹について実施した。定点における調査は、県予察圃場、予察灯及びフェロモントラップ等によって行なった。また、巡回による調査は毎月中旬に1回実施するとともに、水稻では8月上旬に追加調査を行なった。調査対象病害虫は、指定有害動植物を中心に大分県で重要な病害虫とした。

侵入調査事業にかかる各種トラップ調査、圃場調査及び情報収集を実施した。

令和2年度から病害虫防除員を廃止して「病害虫発生予察調査業務」の受託者を公募し、フェロモントラップの誘殺データ収集を行なった。

各種調査結果に基づき、発生予察情報（発生予報、警報、注意報、特殊報及び病害虫防除技術情報）を発表し、県ホームページに各種情報を掲載した。特に、注意報等の重要な情報は、マスコミを通じて広く周知を図った。

「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」にかかる対象病害虫の発生生態及び防除対策の記載内容について、大分県総合防除計画の策定に併せて抜本的に改訂した。

なお、発生予察調査に基づく病害虫発生現況については、農林水産省あてに発生予察集計プログラムを用いて報告し、併せて（一社）日本植物防疫協会が運用している「植物防疫情報総合ネットワーク（JPP-NET）」に加入し、関係機関に情報を提供した。加えて、令和元年度より2年間におけるトビイロウンカによる甚大な被害を受け、令和3年度より、JPP-NET 病害虫発生予測データベース及びアメダスデータに基づいた防除適期予測を開始した。

農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫対策チーム ホームページ

アドレス <http://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>

大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針

アドレス <http://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/boujoshishin.html>

(1) 県予察圃場及び予察灯

ア 県予察圃場

設置場所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8

対象作物：水稻、麦類、大豆

イ 予察灯

設置場所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8

対象害虫：セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

光源：60W 白熱灯

(2) 巡回調査の地点数及び圃場数

振興局名	区分		水稻		早期水稻		麦類		大豆		果樹・茶		野菜		計	
	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場
東 部	3	6	2	4	3	3	1	1	8	8	2	2	19	24		
中 部	3	6			2	2			13	14	7	7	25	29		
南 部	1	2	2	4					2	2	2	2	7	10		
豊 肥	5	10			2	2	2	2	4	4	15	16	28	34		
西 部	3	6							12	12	6	8	21	26		
北 部	5	10	1	2	15	16	6	7	11	11	7	11	45	57		
県 計	20	40	5	10	22	23	9	10	50	51	39	46	145	180		

(3) 調査対象病害虫
ア 指定病害虫

区 分	対象作物名	病 害 虫 名
普通作物	水 稲	いもち病、紋枯病、ばか苗病、稲こうじ病、もみ枯細菌病、縞葉枯病、ごま葉枯病、白葉枯病、ツマグロヨコバイ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、斑点米カメムシ類(ミナミアオカメムシ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメ)、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、イネミズゾウムシ
	麦 類 大 豆	うどんこ病、赤かび病、さび病類 紫斑病、アブラムシ類(ダイズアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ)、吸実性カメムシ類(ホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ、イチモンジカメムシ)、ハスモンヨトウ、フタスジヒメハムシ、マメシンクイガ
果樹等作物	かんきつ	そうか病、黒点病、かいよう病、ハダニ類(ミカンハダニ)、アブラムシ類、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)、
	な し	黒星病、赤星病、ハダニ類(ミカンハダニ、ナミハダニ、カンザワハダニ)、アブラムシ類、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)、シンクイムシ類(ナシヒメシンクイ)、ハマキムシ類、カイガラムシ類
	ぶ ど う 茶	べと病、灰色かび病、晩腐病、アザミウマ類 炭疽病、ハダニ類、ハマキムシ類、チャノホソガ、アザミウマ類、カイガラムシ類、チャトゲコナジラミ、チャノミドリヒメヨコバイ
野 菜 類	ト マ ト	疫病、灰色かび病、葉かび病、すすかび病、うどんこ病、黄化葉巻病、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ
	ピーマン ね ぎ	うどんこ病、アブラムシ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ さび病、べと病、黒斑病、アブラムシ類、アザミウマ類、ネギコガ、ネギハモグリバエ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
	い ち ご	灰色かび病、うどんこ病、炭疽病、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、ハスモンヨトウ、コナジラミ類

(4) 発生予察情報の種類

発生予報：病害虫の発生予想を定期的に発表するものであり、「病害虫発生予察情報」として月に1回発表する。

警 報：重要な病害虫が大発生することが予想され、かつ早急に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表する。

注 意 報：警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予想され、かつ早目に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表する。

特 殊 報：新規に病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発生活長に特異な現象が認められた場合に発表する。

病害虫防除技術情報：植物防疫事業実施要領に定められていない県独自の情報で、注意すべき病害虫の発生が見られる場合や作物栽培上重要となる防除対策を啓発する場合などに発表する。

(5) 侵入調査事業

侵入警戒有害動植物のうち25種についてトラップ調査、圃場調査及び情報収集を実施した。

2 病害虫発生予察事業

(1) 発生を認めた病害虫

作 目 名		病 害 虫 名
普 通	水 稲	<p>〈育苗期〉</p> <p>(病害) もみ枯細菌病、苗立枯病、苗いもち、ばか苗病</p> <p>(害虫) ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、イネミズゾウムシ</p> <p>〈本田〉</p> <p>(病害) 縞葉枯病、萎縮病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内穎褐変病、いもち病(葉いもち、穂いもち)、紋枯病、ばか苗病、ごま葉枯病、稲こうじ病、心枯線虫病</p> <p>(害虫) セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類(イネカメムシ含む)イネクロカメムシ、イネゾウムシ イネドロオイムシ(イネクビホソハムシ) イネミズゾウムシ、イネツトムシ(イチモンジセセリ) コブノメイガ、イネアオムシ(フタオビコヤガ)、イナゴ類 スクミリンゴガイ、ニカメイガ</p>
	麦 類	<p>(病害)</p> <p>小麦 縞萎縮病、赤かび病、赤さび病、黄さび病、裸黒穂病、黄斑病、うどんこ病</p> <p>大麦 縞萎縮病、黒節病、小さび病、うどんこ病、赤かび病、斑葉病、裸黒穂病、網斑病</p> <p>(害虫) アブラムシ類、ハモグリバエ類</p>
作	大 豆	<p>(病害) モザイク病、紫斑病、べと病、さび病、炭疽病、葉焼病</p> <p>(害虫) ハダニ類、アブラムシ類、カメムシ類、コガネムシ類 フタスジヒメハムシ、ウコンノメイガ、ミツモンキンウワバ ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ダイズサヤタマバエ ネキリムシ類、シロイチモジマダラメイガ マメシンクイガ、ハモグリガ類</p>

作 目 名		病 害 虫 名
果 樹 類	かんきつ類	(病害) そうか病、黒点病、小黒点病、かいよう病、緑かび病、青かび病、灰色かび病、炭疽病 (害虫) ミカンハダニ、ミカンサビダニ、チャノホコリダニ、カンザワハダニ、ミカンハモグリガ、ゴマダラカミキリ、ミカンバエ、アザミウマ類、アブラムシ類、カイガラムシ類、吸蛾類、果樹カメムシ類、アゲハ類、ヨコバイ類、ハマキムシ類、ケシキスイ類、コアオハナムグリ、カメムシ類、クワゴマダラヒトリ、ミカンナガタマムシ、カネタタキ、アオバハゴロモ、クワノミハムシ、ルビーロウムシ
	なし	(病害) 黒斑病、黒星病、赤星病、輪紋病、うどんこ病、炭疽病、胴枯病 (害虫) ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、ハダニ類、ニセナシサビダニ、カイガラムシ類、果樹カメムシ類、ナンチビガ、アブラムシ類、吸蛾類
	ぶどう	(病害) 晩腐病、さび病、褐斑病、黒とう病、べと病、灰色かび病、うどんこ病、枝膨病 (害虫) ハダニ類、サビダニ類、ハマキムシ類、ブドウトラカミキリ、フタテンヒメヨコバイ、アザミウマ類、コガネムシ類、吸蛾類、カイガラムシ類、ブドウスカシバ、クビアカスカシバ、コウモリガ、ブドウトリバ、サルハムシ類
茶	茶	(病害) 炭疽病、もち病、網もち病、輪斑病、新梢枯死症 (害虫) チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ、カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシ、カメムシ類、チャトゲコナジラミ、マダラカサハラハムシ、チャノナガサビダニ、チャノホコリダニ、アオバハゴロモ、コミカンアブラムシ

作 目 名		病 害 虫 名
野 菜 類	ト マ ト	<p>(病害) モザイク病、黄化葉巻病、黄化萎縮病、黄化病、青枯病、かいよう病、斑点細菌病、茎えそ細菌病、軟腐病、萎凋病、疫病、菌核病、うどんこ病、灰色かび病、葉かび病、斑点病、輪紋病、根腐萎凋病、褐色輪紋病、すすかび病、褐色根腐病黒点根腐病</p> <p>(害虫) ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、ヒラズハナアザミウマ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、マメハモグリバエ、トマトハモグリバエ、トマトサビダニ、ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ、クロテンコナカイガラムシ、ハモグリバエ類 ジャガイモヒゲナガアブラムシ</p>
	ピーマン (夏秋)	<p>(病害) モザイク病、黄化えそ病、えそ輪点病、青枯病、軟腐病、斑点細菌病、うどんこ病、疫病、菌核病、白絹病、灰色かび病、斑点病、黒枯病、立枯病、炭疽病</p> <p>(害虫) ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、カンザワハダニ、ナミハダニ、チャノホコリダニ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、タバコガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、イラクサギンウワバ、チャハマキ、アズキノメイガ、クロモンキノメイガ、オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、ホオズキカメムシ、チャバネアオカメムシ、コガネムシ類、ナメクジ類 アブラムシ類、カメムシ類</p>
	いちご	<p>(病害) 萎黄病、うどんこ病、菌核病、じゃのめ病、炭疽病、灰色かび病輪斑病、芽枯病、疫病、根腐病、黒色根腐病</p> <p>(害虫) ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、コガネムシ類、チャノホコリダニ、イチゴハムシ、ヒラズハナアザミウマ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ、ナミハダニ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、イチゴメセンチュウ、クルミネグサレセンチュウ、チビクロバネキノコバエ ヨコバイ類、コナジラミ類、アザミウマ類</p>
	ね ぎ (夏) (秋) (冬)	<p>(病害) 軟腐病、黒斑病、さび病、白色疫病、ボトリチス葉枯症、疫病、べと病、小菌核腐敗病、苗立枯病、根腐病、白絹病、黄斑病、紅色根腐病、萎凋病、黒腐菌核病、褐色腐敗病</p> <p>(害虫) ネギアブラムシ、シロイチモジヨトウ、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ、ネギコガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、ロビンネダニ、ネダニモドキ属の一種</p>

(2) 新たに発生が認められた病害虫等

作物名	病害虫名	発生面積	初確認時期	発生傾向、被害の概要等
スモモ (露地)	スモモミハバチ <i>Monocellicampa pruni</i> Wei	28a	令和5年 5月1日	県北部の露地栽培スモモの幼果内部にハバチ類幼虫の食害が確認された。県内各産地に粘着トラップを設置し、誘殺された成虫を門司植物防疫所に同定依頼した結果、県内初確認のスモモミハバチと同定された。

(3) 病害虫診断依頼結果

表1 各作物の原因別診断結果(令和5年1月~12月)

作目	診断依頼件数	原因別診断依頼件数							
		ウイルス	細菌	糸状菌	線虫	害虫	生理障害等	原因不明	
普通作物	水稲	2	0	0	0	0	0	2	0
	小麦	2	0	0	2	0	0	0	0
	大麦	3	0	1	0	0	0	1	1
	大豆	1	0	0	2	0	0	0	0
	他	1	0	0	1	0	0	0	0
	小計	10	0	1	5	0	0	3	1
野菜類	イチゴ	9	0	0	4	0	0	4	1
	トマト	11	2	0	3	0	0	6	0
	ミニトマト	1	0	0	0	0	0	1	0
	ネギ	14	0	2	6	0	0	8	0
	(白ネギ)	0	0	0	0	0	0	0	0
	(小ネギ)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ピーマン	9	1	0	3	0	0	4	1
	ニラ	5	0	0	2	0	0	3	0
	他	16	0	0	5	0	0	8	3
	小計	66	3	2	23	0	0	34	5
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	74	3	3	28	0	0	35	6	

注)1件で2つ以上原因のある依頼が存在するため、診断依頼件数と原因別診断件数の合計は一致しない。

表2 月別診断依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
診断件数	1	3	2	7	5	17	13	10	13	3	0	0	74

(4) 農作物有害動植物に対する薬剤感受性検定実施状況

ア 病原菌

作物名	病害虫名	薬剤名	検定結果	検定方法	防除効果	指導状況	備考
ピーマン	斑点病	テオファネートメチル	培地検定：菌糸伸長抑制率 0~30.4% 生物検定：防除価 13.1	【培地検定】 作物登録のある薬剤の常用濃度を対象に、FRAC：7はYB培地、FRAC：11は没食子酸n-プロピル4mMを添加したPDA培地（以下、PDA+PG培地）、その他はPDA培地を使用。菌株は、単菌糸分離を行い、PDA斜面培地に保存した27菌株を用いた。PDA平板培地で約14日間の前培養を実施した後、菌叢外縁部を4mmコルクボーラーで打ち抜き、菌叢面を下にして検定培地上に静置（1菌株3反復）。検定培地は25℃暗黒条件で培養し、PDA培地は4日後、YB及びPDA+PG培地は7日後にデジタルノギスで菌叢直径を計測し、菌糸伸長抑制率（=（1-薬剤区菌叢直径/無処理区菌叢直径）×100）を算出。 【生物検定】 実生苗（品種：TSRさらら、草丈20~25cm、30~40葉）を用い、1薬剤3株を供試。作物登録のある薬剤を常用濃度で調整し、ハンドスプレーで苗全体に散布後、2~3時間風乾。接種源は、主要産地の1菌株（220914-UNF-YK-2）を用い、25℃暗黒条件で約20日間の前培養（PDA培地）を行い、菌叢部分を培地ごとくり抜き、ミキサーで滅菌水とともに磨砕し、菌糸懸濁液を作成。薬剤風乾後の苗にハンドスプレーで接種し、感染促進のため、4日間はチャック付ビニール袋に入れ、グロースチャンパー内（25℃、16L8D）に静置。その後、チャック付ビニール袋を除去し、さらに14日間グロースチャンパー内に静置。接種18日後に各株の全展開葉を指数別に調査し、3株の合計葉数から発病度及び防除価を算出。	効果の低下している薬剤に関しては圃場での防除効果が得られていない可能性があるため、使用する際は注意する。	検定結果の周知	他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	ベノミル	培地検定：菌糸伸長抑制率 12.3~53.1% 生物検定：防除価 36.7				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	プロシミドン	培地検定：菌糸伸長抑制率 0~92.9% 生物検定：防除価 77.1				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	マイクロブタニル	培地検定：菌糸伸長抑制率 92.0~100% 生物検定：防除価 99.2				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	トリフルミゾール	培地検定：菌糸伸長抑制率 100% 生物検定：防除価 81.1				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	トリホリン	培地検定：菌糸伸長抑制率 50.0~93.5% 生物検定：防除価 75.4				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	フルジオキシニル	培地検定：菌糸伸長抑制率 66.7~80.2% 生物検定：防除価 62.9				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	ピリオフェノン	培地検定：菌糸伸長抑制率 0~61.7% 生物検定：防除価 51.3				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	イブフルフェノキン	培地検定：菌糸伸長抑制率 24.5~90.7% 生物検定：防除価 27.9				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	水酸化第二銅	培地検定：菌糸伸長抑制率 71.9~100% 生物検定：防除価 30.8				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	TPN	培地検定：菌糸伸長抑制率 59.7~100% 生物検定：防除価 66.7				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	シフルフェナミド（生物検定はトリフルミゾールとの混合剤）	培地検定：菌糸伸長抑制率 100% 生物検定：防除価 84.9				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	ピラジフルミド	培地検定：菌糸伸長抑制率 0~19.6% 生物検定：防除価 15.8				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	ボスカリド	培地検定：菌糸伸長抑制率 0~10.0% 生物検定：防除価 5.5				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	ペンチオピラド	培地検定：菌糸伸長抑制率 0~22.3% 生物検定：防除価 0				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	クレソキシムメチル	培地検定：菌糸伸長抑制率 0~33.3% 生物検定：防除価 0				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	アゾキシストロビン	培地検定：菌糸伸長抑制率 19.9~81.7% 生物検定：防除価 0				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	ピラクロストロビン（生物検定はボスカリドとの混合剤）	培地検定：菌糸伸長抑制率 10.2~73.2% 生物検定：防除価 5.9				他病害との同時防除を想定
ピーマン	斑点病	マンデストロビン	培地検定：菌糸伸長抑制率 7.7~41.7% 生物検定：防除価 0				他病害との同時防除を想定

ピーマン	黒枯病	チオファネートメチル	培地検定：菌糸伸長抑制率 100%	<p>作物登録のある薬剤の常用濃度を対象に、FRAC：7はYBA培地、FRAC：11は没食子酸n-プロピル4mMを添加したPDA培地（以下、PDA+PG培地）、その他はPDA培地を使用。菌株は、単菌糸分離を行い、PDA斜面培地に保存した4菌株を用いた。PDA平板培地で約14日間の前培養を実施した後、菌叢外縁部を4mmコルクボーラーで打ち抜き、菌叢面を下にして検定培地上に静置（1菌株3反復）。検定培地は25℃暗黒条件で培養し、PDA及びYBA培地は4日後、PDA+PG培地は6日後にデジタルノギスで菌叢直径を計測し、菌糸伸長抑制率（=（1-薬剤区菌叢直径/無処理区菌叢直径）×100）を算出。</p>	<p>効果の低下している薬剤に関しては圃場での防除効果が得られていない可能性があるため、使用する際は注意する。</p>	検定結果の周知
ピーマン	黒枯病	ベノミル	培地検定：菌糸伸長抑制率 100%			他病害との同時防除を想定
ピーマン	黒枯病	プロシミドン	培地検定：菌糸伸長抑制率 54.1～62.2%			
ピーマン	黒枯病	ミクロブタニル	培地検定：菌糸伸長抑制率 100%			他病害との同時防除を想定
ピーマン	黒枯病	トリフルミゾール	培地検定：菌糸伸長抑制率 6.3～26.0%			他病害との同時防除を想定
ピーマン	黒枯病	トリホリン	培地検定：菌糸伸長抑制率 16.3～24.9%			他病害との同時防除を想定
ピーマン	黒枯病	フルジオキシニル	培地検定：菌糸伸長抑制率 67.1～78.9%			他病害との同時防除を想定
ピーマン	黒枯病	ピリオフェノン	培地検定：菌糸伸長抑制率 0%			他病害との同時防除を想定
ピーマン	黒枯病	イプフルフェノキン	培地検定：菌糸伸長抑制率 46.1～61.7%			他病害との同時防除を想定
ピーマン	黒枯病	水酸化第二銅	培地検定：菌糸伸長抑制率 0%			他病害との同時防除を想定
ピーマン	黒枯病	TPN	培地検定：菌糸伸長抑制率 51.4～82.2%			
ピーマン	黒枯病	シフルフェナミド	培地検定：菌糸伸長抑制率 0%			他病害との同時防除を想定
ピーマン	黒枯病	ピラジフルミド	培地検定：菌糸伸長抑制率 29.4～38.8%			
ピーマン	黒枯病	ボスカリド	培地検定：菌糸伸長抑制率 24.0～33.9%			
ピーマン	黒枯病	ペンチオピラド	培地検定：菌糸伸長抑制率 48.5～52.9%			
ピーマン	黒枯病	クレソキシムメチル	培地検定：菌糸伸長抑制率 0～5.2%			
ピーマン	黒枯病	アゾキシストロビン	培地検定：菌糸伸長抑制率 16.9～24.5%			
ピーマン	黒枯病	ピラクロストロビン	培地検定：菌糸伸長抑制率 26.0～37.0%			
ピーマン	黒枯病	マンデストロビン	培地検定：菌糸伸長抑制率 1.1～12.1%			他病害との同時防除を想定

イ 害虫

作物名	病害虫名	薬剤名	検定結果	検定方法	防除効果	指導状況	備考
白ネギ	ネギアザミウマ	MEP乳剤	(補正死虫率) 個体群a : 100% 個体群b : 100%	豊後高田市呉崎(個体群a)および竹田市菅生(個体群b)の現地圃場から採取した計2個体群で感受性検定を行った。 供試薬剤を常用濃度に希釈した薬液に正方形(1辺10mm)に切ったインゲンマメ葉片を30秒間浸漬し、風乾した。小型の円筒形ガラスカップ(胴外径30mm、全長45mm)に希釈した薬剤を入れた後に除去し、風乾した。薬液には展着剤として、ポリエチレングリコールオクチルフェニルエーテル(製品名:トリトンX-100)2,000倍を加用した。ガラスカップに長方形(長辺30mm、短辺10mm)に切り取ったろ紙、風乾したインゲンマメ葉片、供試成虫を入れ、薄膜フィルムで密封した後、25℃16L8D条件下に静置した。 48時間後に生死の判定を行い、補正死虫率を算出した。試験は3反復で行った。 <農薬の濃度> 各薬剤は登録範囲の最高濃度で希釈を行った。	抵抗性が出現している薬剤を使用している圃場では、防除効果が得られていない。	・検定結果の周知 ・ローテーション防除の徹底	
白ネギ	ネギアザミウマ	ダイアジノン水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 75.0% 個体群b : 49.1%				
白ネギ	ネギアザミウマ	シペルメトリン乳剤	(補正死虫率) 個体群a : 22.6% 個体群b : 100%				
白ネギ	ネギアザミウマ	ジノテフラン水溶剤	(補正死虫率) 個体群a : 33.4% 個体群b : 50.0%				
白ネギ	ネギアザミウマ	クロチアニジン水溶剤	(補正死虫率) 個体群a : 58.1% 個体群b : 79.2%				
白ネギ	ネギアザミウマ	スピネトラム水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 85.3% 個体群b : 100%				
白ネギ	ネギアザミウマ	スピノサド水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 85.3% 個体群b : 76.6%				
白ネギ	ネギアザミウマ	レピメクチン乳剤	(補正死虫率) 個体群a : 12.7% 個体群b : 53.1%				
白ネギ	ネギアザミウマ	エマメクチン安息香酸塩乳剤	(補正死虫率) 個体群a : 35.1% 個体群b : 37.5%				
白ネギ	ネギアザミウマ	ピリフルキナゾン水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 0.3% 個体群b : 0%				
白ネギ	ネギアザミウマ	チオシクラム水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 100% 個体群b : 100%				

作物名	病害虫名	薬剤名	検定結果	検定方法	防除効果	指導状況	備考
白ネギ	ネギアザミウマ	トルフェンピラド乳剤	(補正死虫率) 個体群a : 96.7% 個体群b : 100%	豊後高田市呉崎(個体群a)および竹田市菅生(個体群b)の現地圃場から採取した計2個体群で感受性検定を行った。 供試薬剤を常用濃度に希釈した薬液に正方形(1辺10mm)に切ったインゲンマメ葉片を30秒間浸漬し、風乾した。小型の円筒形ガラスカップ(胴外径30mm、全長45mm)に希釈した薬剤を入れた後に除去し、風乾した。薬液には展着剤として、ポリエチレングリコールオクチルフェニルエーテル(製品名:トリトンX-100)2,000倍を加用した。ガラスカップに長方形(長辺30mm、短辺10mm)に切り取ったろ紙、風乾したインゲンマメ葉片、供試成虫を入れ、薄膜フィルムで密封した後、25℃16L8D条件下に静置した。 48時間後に生死の判定を行い、補正死虫率を算出した。試験は3反復で行った。 <農薬の濃度> 各薬剤は登録範囲の最高濃度で希釈を行った。	抵抗性が出現している薬剤を使用している圃場では、防除効果が得られていない。	・検定結果の周知 ・ローテーション防除の徹底	
白ネギ	ネギアザミウマ	トルフェンピラドメタフルミゾン水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 34.8% 個体群b : 52.6%				
白ネギ	ネギアザミウマ	シアントラニリプロール水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 46.7% 個体群b : 100%				
白ネギ	ネギアザミウマ	テトラニリプロール水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 4.4% 個体群b : 27.9%				
白ネギ	ネギアザミウマ	フロニカミド水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 39.5% 個体群b : 44.0%				
白ネギ	ネギアザミウマ	フルキサメタミド乳剤	(補正死虫率) 個体群a : 100% 個体群b : 100%				
白ネギ	ネギアザミウマ	ピリダリル水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 0.7% 個体群b : 0%				
白ネギ	ネギアザミウマ	エトフェンブロックス乳剤	(補正死虫率) 個体群a : 38.1% 個体群b : 0%				
白ネギ	ネギアザミウマ	クロルフェナピル水和剤	(補正死虫率) 個体群a : 22.6% 個体群b : 54.5%				

(5) 発生予察情報

ア 発表状況

情報の種類	発行回数	発行部数	情報提供先
予報	12	2,772	農林水産省関係機関、国立研究法人、九州各 県病害虫防除所、九州各県農業試験場、県農林 水産部関係機関、県振興局、県内市町村、農業 関係団体（農業協同組合）、各共済組合、農薬 卸商組合、農薬小売組合、病害虫発生予察調査 員、報道機関等。
警報	0	0	
注意報	7	1,617	
特殊報	1	231	
技術情報	9	2,079	
その他	0	0	
計	29	6,699	

注) 平成23年度から情報発信の一部をEメールにて行っている。

イ 警報、注意報、特殊報等の内容

注意報

情報号数	発表年月日	対象作物	対象病害虫
第1号	令和5年8月8日	普通期水稲	斑点米カメムシ類
第2号	令和5年8月8日	〃	いもち病(穂いもち)
第3号	令和5年8月25日	ピーマン	アザミウマ類
第4号	令和5年11月2日	トマト、ミニトマト	トマトキバガ
第5号	令和6年1月25日	イチゴ	うどんこ病
第6号	令和6年3月13日	イチゴ	アザミウマ類
第7号	令和6年3月25日	ネギ	べと病

特殊報

情報号数	発表年月日	対象作物	対象病害虫
第1号	令和5年5月1日	スモモ(露地)	スモモミハバチ

病害虫防除技術情報

情報号数	発表年月日	対象作物	対象病害虫
第1号	令和5年4月3日	イチゴ	アザミウマ類
第2号	令和5年7月12日	水稲	トビイロウンカ
第3号	令和5年7月21日	ねぎ	軟腐病
第4号	令和5年8月8日	普通期水稲	コブノメイガ
第5号	令和5年9月22日	トマト、ミニトマト	トマトキバガ
第6号	令和5年10月2日	ねぎ、トマト、イチゴ	べと病、すすかび病、うどんこ病、 灰色かび病、シロイチモジヨトウ、 ハダニ類、アザミウマ類
第7号	令和6年1月25日	イチゴ	アザミウマ類
第8号	令和6年3月1日	イチゴ	灰色かび病
第9号	令和6年3月1日	果樹全般(ウメ、モモ、 スモモ、キウイフルーツ、 ツ、ナシ、カンキツ等)	果樹カメムシ類(チャバネ アオカメムシ)

令和5年度 病虫害発生予察 注意報 第1号

令和5年8月8日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病虫害 斑点米カメムシ類
- 2 対象作物 普通期水稻
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い
- 6 発表の根拠

- (1) 7月31日～8月3日に実施した普通期水稻(40圃場)の巡回調査において、畦畔雑草のすくい取りを行った結果、斑点米カメムシ類(ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類、ミナミアオカメムシ)は1か所あたり成虫計7.8頭(平年:2.4頭)で、過去10年間で最も多かった。
- (2) 最近、九州北部地域で増加傾向にあるイネカメムシが、7月の巡回調査において県東部の早期水稻で多発圃場が確認され、今回のすくい取り調査においても県北部で1か所確認された。
- (3) 斑点米カメムシ類は高温乾燥条件で多発するが、福岡管区气象台が8月3日に発表した1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多く、気温は高い確率50%と予測されており、発生の好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) 斑点米カメムシ類は、水稻の出穂前に圃場周辺に生育するイネ科雑草の穂で増殖し、水稻の出穂後に成虫が圃場に侵入して穂を加害するとともに、成虫が産卵しふ化した幼虫による穂の加害により斑点米が発生する。出穂の2週間前までに圃場周辺の草刈りを行い、出穂直前の草刈りは斑点米カメムシ類が圃場に侵入するのを助長するので避ける。農薬は、穂揃期とその7～10日後の2回散布を基本とする。
- (2) 周辺の圃場より出穂が早い圃場においては、斑点米カメムシ類の圃場への侵入が特に多くなるので、防除を徹底する。
- (3) イネカメムシは出穂前から圃場に侵入するので、本種の発生が確認されている地域(県北東部)では、出穂直前に1回目の農薬散布を行う。
- (4) 1回目の農薬散布は、出穂期前後の基幹防除を有効に活用する。
- (5) 防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守して使用する。

病虫害対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



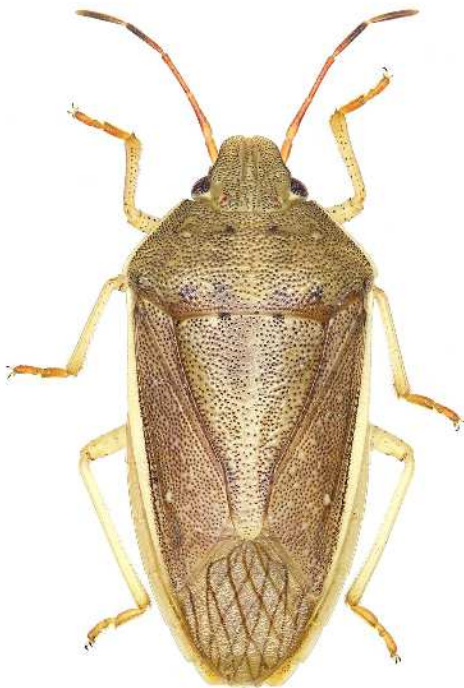
主な斑点米カメムシ類と斑点米



ホソハリカメムシ (体長 9~11mm)



クモハリカメムシ (体長 15~17mm)



イネカメムシ (体長 12~13mm)



斑点米 (カメムシによる吸汁痕)

令和5年度 病害虫発生予察 注意報 第2号

令和5年8月8日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 いもち病（穂いもち）
- 2 対象作物 普通期水稻
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 やや多い
- 6 発表の根拠

(1) 7月31日～8月3日に実施した巡回調査では、葉いもちの発生圃場率、平均発病度ともに平年よりやや高かった。

発生圃場率：47.5%（平年：38.9%、前年：40.0%）

平均発病度：5.8%（平年：4.5%、前年：3.2%）

(2) 農業研究部の予察田（豊後大野市三重町赤嶺）における8月4日の調査で葉いもちの発生は、ひとめぼれで発病株率は平年より高く、平均発病度は平年並であった。また、ヒノヒカリで発病株率、平均発病度ともに平年より高かった。

発病株率

ひとめぼれ 100%（平年63.8%、前年84.0%）

ヒノヒカリ 94.7%（平年65.8%、前年48.0%）

平均発病度

ひとめぼれ 25.0%（平年25.7%、前年84.0%）

ヒノヒカリ 23.7%（平年16.6%、前年4.8%）

(3) イネ葉いもち発生予測モデル（BLASTAM）によると各アメダス観測地点での葉いもち感染好適条件や準好適条件は、7月上旬に県内広範囲で感染好適日が出現している。また、7月中下旬には県内広範囲で準好適条件も出現しており、葉いもちの多発生につながったと考えられる（表1）。

(4) 本病は、冷涼、少照条件が発病に好適であり、特に、出穂期と曇雨天が重なった場合には、葉いもちが伝染源となり、穂いもちが多発すると予想される。福岡管区気象台が8月3日に発表した1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多く、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は、平年並が30%であり、少ない確率が40%と予想されている。

表1 BLASTAMによる感染好適条件の出現状況 (7/1~8/5)

日付	国見	中津	豊後高田	院内	杵築	日田	玖珠	湯布院	大分	犬飼	竹田	佐伯	宇目	蒲江
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/2	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
7/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/5	-	-	-	3	-	3	●	-	-	-	●	-	●	●
7/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/9	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
7/10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
7/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/16	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
7/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/18	-	?	-	3	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
7/19	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
7/20	3	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
7/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/22	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
7/23	-	-	-	-	-	-	2	●	-	-	2	-	-	-
7/24	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-
7/25	-	2	-	-	-	2	-	-	3	-	-	-	-	-
7/26	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
7/27	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
7/28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/31	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-
8/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8/2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8/3	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
8/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-

注) ●が好適条件、数字は準好適条件の出現を表す。?は判定不能。

感染好適条件出現の約1週間後に初発病斑が認められ、約2週間後に病斑が目立ってくる。

7 防除対策

- (1) 葉いもちの発生が多い場合は、直ちに防除を行い、穂肥を控えめに施用する。
- (2) 穂いもちの防除は、穂ばらみ期と穂揃期の液剤または粉剤による2回散布、あるいは、出穂約2週間前の粒剤施用と穂揃期の液剤または粉剤散布を基本とする。出穂期を見極め、防除適期を失しないよう注意する。
- (3) 穂肥の過剰投与は、本病の発病を助長させるため、注意が必要である。
- (4) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）に注意する。

（ホームページアドレス <https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>）



令和5年度 病害虫発生予察 注意報 第3号

令和5年8月25日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 アザミウマ類 (ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)
- 2 対象作物 ピーマン
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

- (1) 8月17～21日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均寄生花率ともに平年より高く(図1)、過去10年間で最も高かった。

発生圃場率：87.5% (平年：39.2%、前年：75.0%)
平均寄生花率：62.3% (平年：7.3%、前年：22.8%)

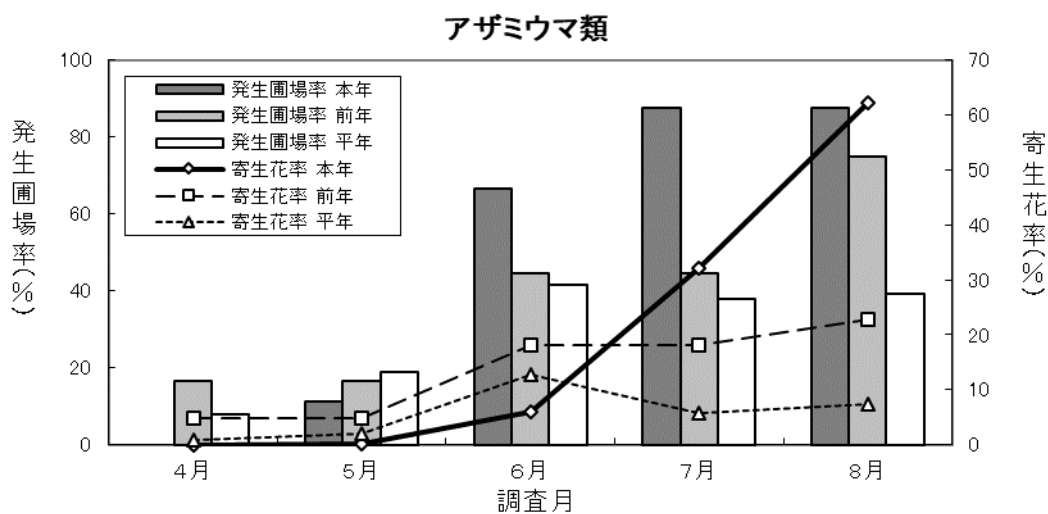


図1 病害虫発生予察巡回調査でのピーマンにおけるアザミウマ類の発生推移 (令和5年4月～8月)

- (2) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区气象台が8月24日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並20%、高い確率70%、降水量は少ない確率20%、平年並40%と予測されており、引き続き好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) アザミウマ類の薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」
(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>) の「ピーマン」項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



- (2) ミカンキイロアザミウマおよびヒラズハナアザミウマはピーマン黄化えそ病 (TSWV) を媒介するため、発病株は抜き取り、圃場外に持ち出して埋設するなど適切に処分する。また、TSWV は汁液伝染するため、発病株の抜き取りなどは作業の最後に行なうとともに手洗いを励行する。
- (3) 圃場内および周辺の雑草はアザミウマ類の増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、施設外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、施設内のピーマンに対して防除を実施した後、薬剤の効果が残っている内に速やかに除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特にハウスの風上側の除草を心がける。収穫残渣についてもアザミウマ類の増殖源となるため、埋設するなど適切に処分する。
- (4) アザミウマ類は、ピーマン以外にも花き類、トマト、イチゴなど、多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。
- (5) 次作以降のアザミウマ類及び黄化えそ病 (TSWV) の蔓延を防ぐため、ピーマンの収穫終了後、年内までに残渣の処分や施設周辺の除草を徹底する。

令和5年度 病害虫発生予察 注意報 第4号

令和5年11月2日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 トマトキバガ
- 2 対象作物 トマト、ミニトマト
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 農作物（トマト、ミニトマト）で初確認
- 5 発生量 前年より多い（フェロモントラップ調査結果に基づく）
- 6 発表の根拠

(1) 10月31日に実施したトマト及びミニトマト圃場調査の結果、本虫による葉及び果実への加害が確認された。

(2) 9月28日～10月18日に県内9地点で実施したフェロモントラップによる雄成虫調査の結果、前年より多く誘殺された。

雄成虫誘殺数：328頭（前年：2頭）

※県内9カ所の合計値

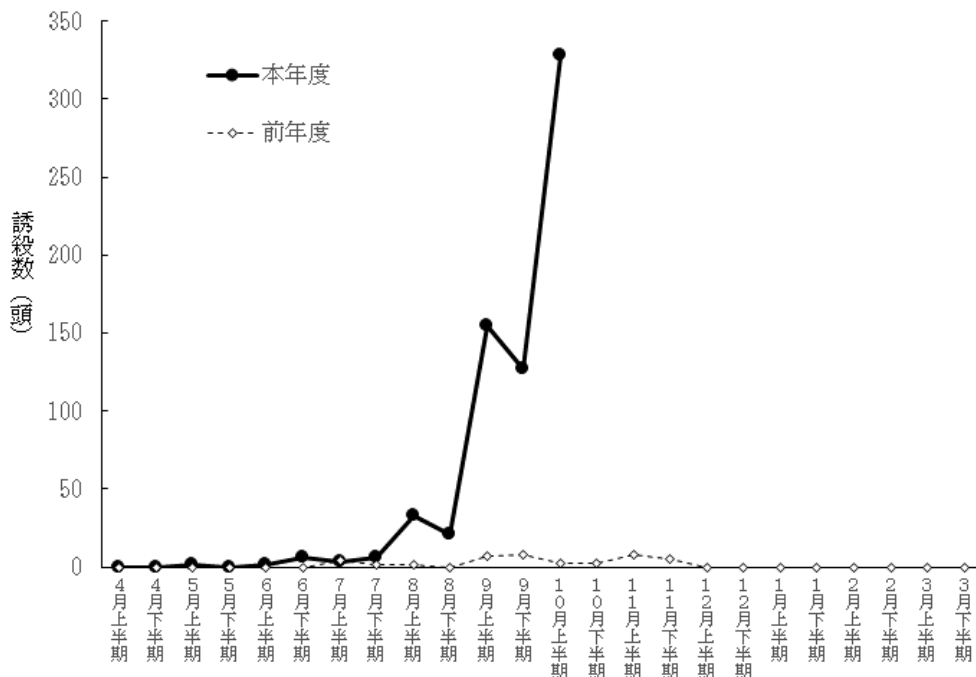


図1 フェロモントラップによる雄成虫誘殺数の推移

(3) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区气象台が10月19日に発表した1か月予報では、平均気温は、平年並30%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されており、引き続き好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) トマト及びミニトマトにおいて、本虫に対する登録農薬は別添のとおりである。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRAC コードが異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (2) 被害葉及び被害果の発生は、別添「トマトにおけるトマトキバガの発生状況」を参考に確認する。葉の食害は、図2のように幼虫が緑色の部分を食べ薄皮だけが残って白くなる。果実の食害は、図5のように穴が開き傷ができる。また、幼虫は体長8mm程度となり、図3と6のように頭部の後に黒い模様があるのが特徴である。
- (3) 被害葉及び被害果を見つけた場合、圃場外への分散を防ぐため、速やかに薬剤防除を行った上で、圃場内から持ち出すとともに、暖冬傾向により越冬する可能性もあることから野外に放置せずに適切に処分する。
- (4) 次作以降の蔓延を防ぐため、トマト及びミニトマトの収穫終了後、最終の薬剤防除を行った上、年内までに残渣の処分や施設周辺の除草を徹底する。
- (5) 国内で発生が確認された作物はトマト及びミニトマトのみであるが、海外では、ナス、タバコ、バレイショ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。トマト及びミニトマト以外の農作物に本虫が発生した場合には登録農薬がないので、管轄の県振興局生産流通部に相談する。

【連絡先】

大分県農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫対策チーム
住所 豊後大野市三重町赤嶺 2328-8
電話 0974-28-2078

トマトにおけるトマトキバガの発生状況

【大分県農林水産研究指導センター農業研究部 原図】



図1 トマトキバガ成虫



図2 トマトキバガ幼虫による被害葉



図3 被害葉の中のトマトキバガ幼虫



図4 トマトキバガの蛹（繭の中）



図5 幼虫によるトマト果実の食害



図6 トマト果実内のトマトキバガ幼虫

令和5年度 病害虫発生予察 注意報 第5号

令和6年1月25日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 うどんこ病
- 2 対象作物 イチゴ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 やや多い

6 発表の根拠

(1) 1月16～19日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率、平均発病葉率、平均発病果率ともに平年より高かった(図1、図2)。

- 発生圃場率：20.0% (平年：6.1%、前年：10.0%)
- 平均発病株率：6.0% (平年：0.9%、前年：2.8%)
- 平均発病葉率：1.7% (平年：0.2%、前年：0.9%)
- 平均発病果率：0.3% (平年：0.1%、前年：0.1%)

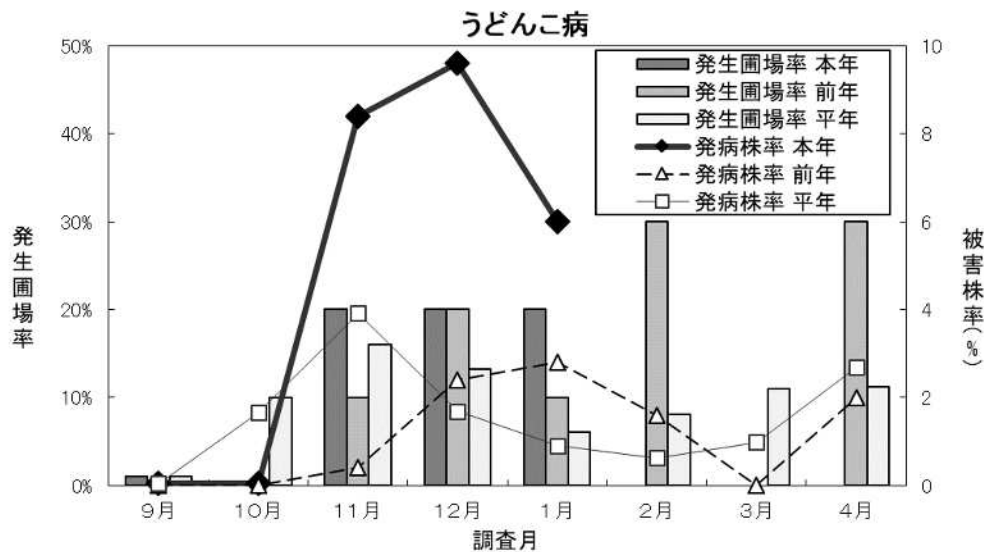


図1 病害虫発生予察巡回調査でのイチゴにおけるうどんこ病の発生圃場率 (令和5年9月～令和6年1月)

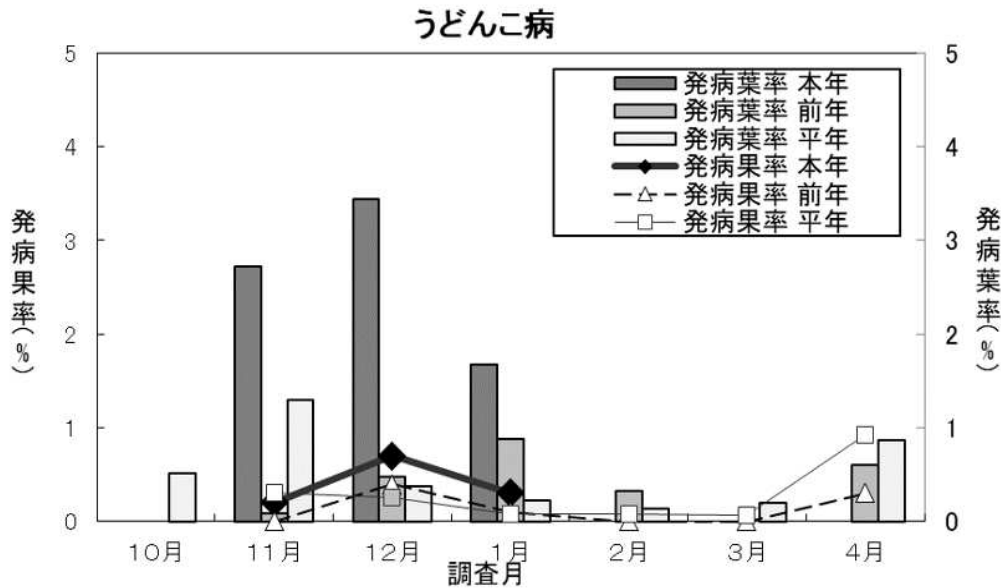


図2 病虫害発生予察巡回調査でのイチゴにおけるうどんこ病の発病率、発病果率 (令和5年10月～令和6年1月)

- (2) 本病は気温 20℃程度が最も発生しやすいが、福岡管区气象台が1月18日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並 30%、高い確率 60%と予測されており、引き続き好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) 本病は、樹勢低下により発病が助長されるため、適切な肥培および灌水管理に務めるとともに、適期収穫を徹底する。
- (2) 圃場内の観察を徹底するなど、本病の早期発見に努め、予防散布や初期散布に重点を置くとともに、葉裏まで十分薬剤がかかるよう散布圧などに留意して防除を行う。
- (3) 本病は、発病後の進展が早く、防除遅れが生じやすいため、発病初期から治療効果の高い薬剤を中心に散布する。
- (4) 本病の耐性菌を防ぐために、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>) の「イチゴ」項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病虫害対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



令和5年度 病害虫発生予察 注意報 第6号

令和6年3月13日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 アザミウマ類
- 2 対象作物 イチゴ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 やや多い

6 発表の根拠

- (1) 3月11～12日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均寄生花率ともに前年より高かった(図1)。

発生圃場率：70.0% (平年：22.0%、前年：50.0%)
平均寄生花率：5.8% (平年：2.0%、前年：6.6%)

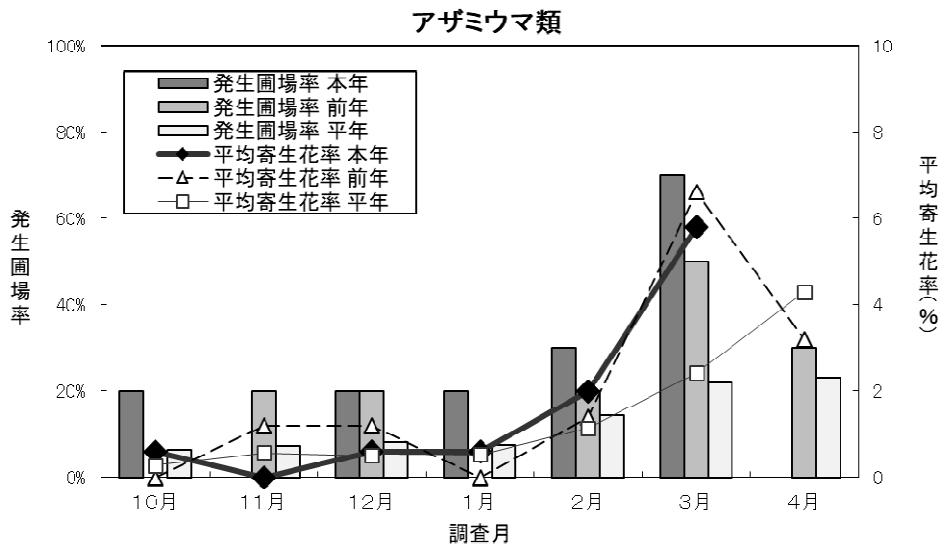


図1 病害虫発生予察巡回調査でのイチゴにおけるアザミウマ類の発生推移
(令和5年10月～令和6年3月)

- (2) 今年度は秋口から高温、乾燥が続いており、アザミウマ類の発生量が多く推移していた(令和5年度病害虫防除技術情報第6号及び7号)。12月以降も高温傾向は継続しており、九州北部地方の1ヶ月予報(3月7日福岡管区気象台発表)では、平均気温は、平年並30%、高い確率60%、平均降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予測されており、引き続き好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) 本虫は高温乾燥条件下で多発しやすく、今後気温の上昇に伴って施設外からの飛び込みが増加すると考えられる。寄生密度が上昇すると防除が困難となるため、青色または黄色の粘着トラップを設置して、早期発見に努めて速やかに防除を実施する。
- (2) 収穫残渣は、アザミウマ類の増殖源となるため、野積みせずに埋設するなど、適切に処分する。
- (3) 今年度はアザミウマ類の増殖源である雑草の発生量が多く、風による飛来が想定されるため、ハウスの風上側の除草を心がける。ただし、春先にハウスサイドや天窓を開ける前に除草を行うと、ハウス開口部からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、除草後少なくとも2週間以上経過した後には開けるか、ハウス内のイチゴに対して防除を実施した後に除草を行うよう留意する。
- (4) アザミウマ類は、イチゴ以外にも花き類、トマト、ピーマンなど、多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。
- (5) アザミウマ類の薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避ける。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「いちご」「野菜類」の項目を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/yasai.html>



病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

令和5年度 病虫害発生予察 注意報 第7号

令和6年3月25日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病虫害 ベと病
- 2 対象作物 ネギ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

(1) 3月18～19日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率ともに平年より高かった(図1)。

発生圃場率：75.0% (平年：11.3%、前年：0%)
平均発病株率：35.5% (平年：3.2%、前年：0%)

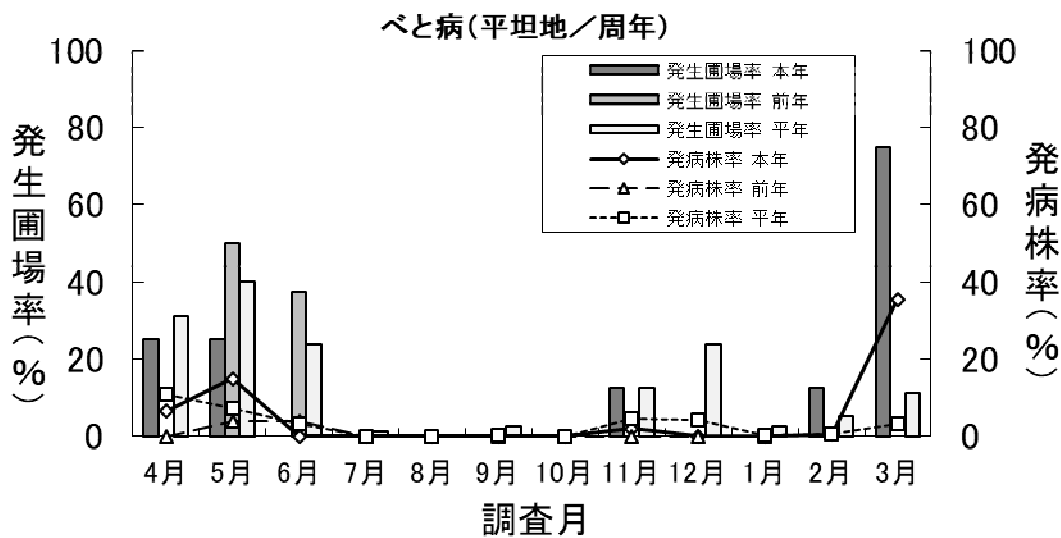


図1 病虫害発生予察巡回調査でのネギにおけるべと病の発生推移(平坦地)
(令和5年4月～令和6年3月)

- (2) 今年度は秋口から高温が続いており、本病の発生が平年より早まることが懸念されていた(令和5年度病虫害防除技術情報第6号)。12月以降も高温傾向が継続し、2月中旬から3月中旬にかけてまとまった降雨も観測されたことから、本病の発生が助長された。
- (3) 九州北部地方の1ヶ月予報(3月21日福岡管区气象台発表)では、平均気

温は、平年並 20%、高い確率 70%、降水量は、平年並 30%、多い確率 60%と予測されており、引き続き好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) 発生が認められていない圃場でも感染の可能性があり、発生に好適な気象条件（平均気温 13～20℃、降雨）が続くと急激にまん延するため、発病前の予防散布を行う。
- (2) 薬剤散布は、曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- (3) 薬剤散布の際は、展着剤を加用し、株元にもしっかりと散布する。
- (4) 多湿条件や多肥、肥料不足は発生を助長するので排水対策を施すとともに、適正な肥培管理に努める。
- (5) 使用薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/yasai.html>



病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

令和5年度病害虫発生予察 特殊報第1号

令和5年5月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

1 害虫名 和名：スモモミハバチ
学名：*Monocellicampa pruni* Wei

2 発生作物 スモモ（露地）

3 発生経過

令和4年5月16日に県北部の露地栽培スモモにおいて、幼果内部をハバチ類幼虫が食害する被害が確認された（図1、3、4、6）。同様の被害が県内各地で確認されたため、令和5年3月より各スモモ産地に粘着トラップを設置し、誘殺された成虫（図2）を門司植物防疫所に送付し、同定を依頼したところ、スモモミハバチ（*Monocellicampa pruni* Wei）と判明した。

4 国内での発生状況

令和元年度に山口県で初確認され、令和2年度には広島県でも発生が確認されている。

5 県内の発生状況

- 1) 初確認年月日：令和5年3月30日
- 2) 発生確認地域：北部、中部、豊肥
- 3) 発生確認面積：28a

6 発生生態と被害状況

1) 形態

老齢幼虫は、体長10mm程度。全体的に白色で、腹脚は退化してほぼ突起状となる（図1）。成虫の体長は6mm程度と小型である。体色は全体的に黒色であり、翅も暗色である（図2）。

2) 生態

寄主はスモモのみで、年に1回発生する。中国では開花初期に一斉に羽化し、幼果のがくや花托の表皮に産卵することが知られる。孵化した幼虫は果実内部に食入し、仁を食べて内部に糞を蓄積する（図3、5、6）。近縁のナシミハバチと異なり、複数の果実を渡り歩いて食害することはなく、幼虫の成育は1つの果実内部で完結する。約30日後に果実に穴（図4）を開けて脱出し、土中で土繭を作って夏、秋を経過し翌春に蛹化する。分布は中国及び韓国との報告がある。

3) 被害状況

幼虫は幼果内部を食害する。糞は果実内部に溜まり、外へは排出されない。被害果を割ると、内部の空洞に幼虫と比較的乾燥した細粒状の糞が見られる(図3、6)。被害果径は大きくとも1 cm程度と小さく、5月上中旬には正常果と生育に大きな差が出るため、見分けることができる。また、被害果は無防除園に多くみられる。

7 防除対策

1) 開花終了後直ちにスモモミハバチに対して登録のある薬剤で防除を行う。

(引用・参考文献)

1. 2020年3月16日 山口県病虫害防除所 令和元年度病虫害発生予察特殊報第3号
2. 2020年5月29日 広島県西部農業技術指導所 令和2年度病虫害発生予察情報特殊報第1号



図1 老齢幼虫 (令和4年5月16日採集)



図2 粘着トラップに捕獲された成虫
(令和5年3月30日採集)



図3 幼虫と幼果内部の食害状況
(令和5年4月11日採集)



図4 幼虫の脱出孔
(令和4年5月16日採集)



図5 幼果への食入孔
(令和5年4月25日採集)



図6 食入孔の断面
(令和5年4月25日採集)

大分県農林水産研究指導センター農業研究部落葉果樹チーム 原図

(6) 防除対策推進上の問題点及びその対策

農作物名	病害虫名	問題点	対策
水稲	スクミリンゴガイ	① 薬剤防除および移植後3週間の水管理の不徹底がある。	① メタルデヒド剤、燐酸第二鉄粒剤の本田施用、溝切り、浅水管理等による耕種的防除
	いもち病	① 種子消毒および本田期防除の不徹底がある。 ② 無人ヘリヤドローンを用いた一斉防除が増え、天候により防除が遅れたり、異なる品種が同一地域に栽培されていることから、適期に防除できない圃場が散在する。 ③ 平成24年度にQoI剤耐性菌の発生が県内全域で確認され、代替薬剤を含めて防除効果は引き続き検証する必要がある。 ④ 「つや姫」「モミロマン」を侵すレースが確認されている。	① BLASTMによる感染好適条件の情報発信 ② 穂ばらみ期防除の必要性を研修会等で説明し、品種ごとに適期防除を行うよう促進 ③ QoI剤の感受性低下が認められる地域では、他の薬剤の使用を推進 ④ いもち病を含めた苗箱施薬剤の使用を推進
	紋枯病	① 苗箱施薬剤は普及しているが、近年夏季の気温が高く、中山間地を含め、8月中下旬に垂直進展する事例が見られる。	① フルトラニル、バリダマイシン剤等による苗箱施薬の徹底と追加防除の徹底
	稲こうじ病	① 近年発生が多い病害であるが、昨年に引き続き本年は発生が少なかった。 ② 近年土壌伝染することが解明され、発病には穂ばらみ期以降の気温、降水量等天候が関係している。	① 発生が多い圃場では銅剤やシメコナゾール剤の使用を推進 ② 出穂20～10日前に銅剤による防除を徹底
	トビイロウンカ	① 複数の薬剤で感受性低下が発生している。 ② 長期残効のトリフルメゾピリムを含有している苗箱施薬剤が普及しているが、価格が高いこともあり一部で使用されていない。 ③ 無人ヘリ等の防除では、慣行防除以外の追加防除が行われていない場合がある。 ④ 新規需要米の普及によって防除を行わない場合があり、品種によっては増殖しやすいものがある。 ⑤ 海外飛来性の害虫であり、年により発生時期が異なるが、本年は発生が少なく、トリフルメゾピリム剤を使用していないごく一部の圃場で坪枯れが確認された。	① チアメトキサム、クロチアニジン、エチプロール、ジノテフラン剤では薬剤感受性のモニタリングを実施 ② トリフルメゾピリム剤の使用を推進 ③ 防除の徹底を周知 ④ 各振興局に対し情報提供するとともに、新規需要米においても苗箱施薬剤の使用を推進 ⑤ 本種の飛来状況について、各振興局に対し情報を発信
麦類	赤かび病	① 防除薬剤の中には効果の低いものがあり、かび毒の低減効果の高い薬剤が求められている。 ② 本病の感染時期は開花期後の葍の抽出時期であり、防除適期はごく短期間であり、天候により防除適期に薬剤散布ができない場合がある。	① 防除効果の高い薬剤の情報提供および新規薬剤の登録試験 ② 防除適期の情報提供を実施 防除効果が高く、収穫前使用日数の短い剤の探索・農薬登録
	紫斑病	① カメムシに重点を置いた同時防除により、防除適期を逸する事例がある。 ② 追加防除の判断が困難である。	① 適正防除時期の情報発信 ② 2回散布を基本に防除の徹底
大豆	ハスモンヨトウ	① 発生は平年より少なく推移したが、9月下旬の高温によりその後も発生が続いた。	① 薬剤感受性低下の発生前に有効な薬剤の探索 ハスモンヨトウの老齢幼虫は薬剤の効果が悪いため、8月下旬～9月に卵塊や若齢幼虫による被害葉（白変葉）が確認されたら防除するように指導
トマト	すすかび病	① 本病に対する有効な薬剤が少ない。	① 5～7月に予防殺菌剤を中心とした体系の構築 ② 薬剤感受性モニタリングの実施、有効な薬剤の登録促進
	うどんこ病	① 登録薬剤が少ない。	① 発生前からの予防散布の実施 ② 新規薬剤の登録促進、薬剤感受性モニタリングの実施
	かいよう病	① 土壌消毒を行っていない圃場を中心に発生がある。 ② 本病に有効な登録薬剤が少ない。	① 土壌消毒、残さ処理、発病株の除去、マルチ等による物理的防除 ② カスガマイシン剤の散布
	青枯病	① 連作と土壌消毒の不徹底。 ② 高い抵抗性を示す台木を使用しても発生が認められた。	① 土壌消毒の実施 ② 管理作業による媒介防止
	ネコブセンチュウ	① 土壌消毒の不徹底。 ② 本虫を対象に土壌消毒を実施したにもかかわらず、作期後半の秋期に発生が認められる事例がある。 ③ 台木の抵抗性が打破されていることが明らかとなった。	① 土壌消毒の実施 ② 殺センチュウ剤の処理、新規薬剤の登録促進 ③ 抵抗性台木による耕種的防除
ピーマン	軟腐病	① タバコガ類被害と併発する恐れがある。 ② 登録薬剤が少ない。	① タバコガ類の薬剤防除と防虫ネット被覆、圃場内清掃の徹底 ② 新規薬剤の登録促進
	うどんこ病	① 内部寄生菌のため、薬剤による治療効果が低い。	① 発病前から硫黄粉剤の定期的な予防散布
	ワタアブラムシ	① 防除不足による圃場での発生が見受けられた。	① 適期の防除を実施 ② 新規薬剤の登録促進 ③ 有効な薬剤の探索
	ミカンキイロアザミウマ	① スピノサド剤を含め薬剤全般での感受性低下。 ② TSWVおよびCSNVを媒介する。特にTSWVは定植直後に多発生したことから、防除の徹底が必要。	① 新規薬剤の登録促進、有効な薬剤の探索 ② スワルスキーカブリダニの普及 ③ 越冬場所となる残さ処理の徹底
	タバコガ類	① 期間を通して、平年よりも発生が少なかった。 ② 防虫ネットを設置していない圃場や露地栽培を中心に発生。	① 次年度の越冬蛹を残さないよう圃場の清掃 ② 防虫ネットの全面被覆および部分展張被覆の普及

	病害虫名	問題点	対 策
ネギ	軟腐病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 春期に定植する栽培体系で多発する。 ③ 発生は年次変動が大きく、夏期に台風・長雨に遭遇すると発生が急増するため、適期防除が困難である。	① 排水対策の実施 ② プロベナゾール粒剤の有効活用とオキシロニック酸の追加防除 ③ 薬剤の登録促進
	小菌核腐敗病	① 生育期における発病の確認が難しく、発生初期の防除が困難である。 ② 11～12月に多雨で経過すると発病が促進される。	① 土寄前のイプロジオン剤の処理の周知 ② 収穫残さ処理の徹底
	白絹病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 県内主要産地でフルトラニル耐性菌が発生している。	① 新規薬剤の登録促進 ② 防除体系や防除薬剤の見直し
	べと病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 発生予測が困難である。	① 新規薬剤の登録促進、防除体系や防除時期の見直し ② 他県が開発したネギべと病発生予測モデルの適合性確認 ③ 発病前のマンゼブ剤予防散布の実施
	さび病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 暖冬傾向の年では発病好適期間が長くなる傾向にある。	① 新規薬剤の登録促進 ② 防除体系や防除時期の再検討、発生前からの予防散布の実施
	ネダニ類	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② ロビンネダニとネダニモドキ属の2種が発生しており、発生実態については不明な点が多い。 ③ 土壌病害対策も含めた有効な体系防除が確立されていない。	① 新規薬剤の登録促進 ② 有効な薬剤のスクリーニング ③ 防除体系や防除時期の見直し
イチゴ	うどんこ病	① 発生前の予防散布や発生初期防除が遅れた圃場において発生し、特に春期において多発する。	① 発病前からの予防散布の実施 ② 育苗期における防除の徹底
	萎黄病	① 健全苗への更新が不十分な場合に発生がある。 ② 高設栽培における培土消毒が不十分な場合に発生がある。	① 健全苗の確保 ② 陽熱処理や薬剤による培土消毒の徹底
	炭疽病	① 育苗時の防除が不十分な場合に発生がある。 ② 高設栽培における培土消毒が不十分な場合に発生がある。	① 原苗供給段階での全株簡易検定の実施等による健全苗の確保 ② 確保 ③ 育苗時の雨よけ栽培や底面給水施設の利用、防除の徹底 陽熱処理や薬剤による培土消毒の徹底
	ハダニ類	① 育苗期の防除が不十分なために本圃に持ち込む事例が多く認められる。 ② 薬剤感受性が低下しやすく、効果的な薬剤が少ない。	① 薬剤感受性試験の実施、新規薬剤の登録促進 ② ミヤコカブリダニ剤、チリカブリダニ剤などの天敵資材、気門封鎖剤を活用した密度抑制 ③ 育苗期～収穫開始期における防除体系の構築
	チバクロバネキノコバエ	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 収穫開始期に多発し、生態は不明な点が多い。 ③ 有効な体系防除が確立されていない。	① 新規薬剤の登録促進 ② 有効な薬剤のスクリーニング ③ 育苗期～定植初期における防除体系の見直し
柑橘類	かいよう病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 薬剤防除と併せて防風対策と罹病枝除去が有効だが、生産者の高齢化により十分な対応が困難。 ③ 台風などの強風雨に遭遇すると発生が急増するが、効果が高いとされる襲来前の防除は時間的余裕がなく事実上困難。	① 発芽前および新梢伸長期など初期防除の徹底 ② 罹病性の低い品種でも多発圃場周辺では発生に注意 ③ 防風対策と台風襲来前防除の徹底 ④ 伝染源となる罹病枝(特に夏秋枝)の除去 ⑤ 効果的な薬剤の登録促進
	黒点病	① 幼果期以降に降雨が多いと発病が増加。 ② 温暖化による秋期の気温上昇、降水量の増加により後期黒点病の発生が多くなっている。9月以降の発生が懸念される場合、秋季防除の実施が必要。 ③ 生産者の高齢化により、管理不徹底園が増加し、伝染源となる枯れ枝が多くなっている。 ④ マンゼブ剤、マンネブ剤ともに「かんきつ」登録での使用時期が収穫90日前までとなっており、収穫時期の早い露地カボスでは使用できる薬剤が少ない。	① マンゼブ、マンネブ、フルアジナム、クレソキシムメチル、テブコナゾール・トリフロキシストロビン、有機銅剤による定期防除 ② 枯れ枝剪除の徹底 ③ 前回防除からの累積降水量250mm前後または散布後1ヵ月を目安に次回防除を実施 ④ 効果的な薬剤の登録促進
ナシ	黒星病	① DMI剤、ストロビリン系薬剤の使用回数を制限しているが、発生が多い年は制限を超える場合がある。 ② 登録薬剤や使用回数が不足している。 ③ 発病が拡大すると薬剤防除では抑えられないため、生育初期の予防散布が重要である。	① 適期防除の実施 ② 薬剤の登録促進と効果的な防除体系の再検討 ③ 精度の高い発生予察技術の確立 ④ 薬剤耐性菌検定の実施
果樹類	果樹カメムシ類	① 多発生時は地域内一斉防除が効果的だが、実施は困難。 ② 飛来が多数回の場合、使用回数等の関係から農薬の選択が難しい。 ③ 地域による飛来時期や程度の差が大きく、発生予察が困難であり、生産者の高齢化により、十分な対応が取れない。	① 園内の見回り徹底および飛来の早期発見 ② 越冬量調査、ヒノキ毬果の口針鞘数調査等、発生予察に役立つ情報の迅速提供 ③ 効果的な発生予察方法の確立 ④ 効果的かつ省力的な防除技術の開発、薬剤の登録促進
チャ	炭疽病	① 普及している乗用型防除機の噴口では、葉層内部まで薬液が届かず防除効果が低い。 ② 生産者の高齢化により管理不徹底園が増加し伝染源となっている。	① 有効な体系防除技術の確立、土着天敵等を活かした防除体系の検討 ② 深刈り更新やすそ刈りによる寄生葉の除去を指導 荒廃園の伐採、抜根対策
	チャトゲコナジラミ	① 葉裏へ十分薬剤がかかると防除効果があがらない。 ② 県内では分布域が拡大しており、荒廃園で発生した場合防除対策が困難である。	① 有効な体系防除技術の確立、土着天敵等を活かした防除体系の検討 ② 荒廃園の伐採、抜根対策
マイナー作物	一般的な病害虫(全般)	① 登録薬剤数が少ないか無く、薬剤の選定に苦慮している。	① 農薬の登録拡大 ② IPMによる防除対策の検討

(7) 主要作物の生育概況

ア 水稲

分けつ期の6月下旬から7月上旬が平年に比べ日照不足で推移し、分けつが抑制され穂数が「少ない」ことにより、全もみ数は「少ない」となり、9月以降、おおむね天候に恵まれ、登熟が「良」となったことから、10a当たり収量は、491kg（作況指数101）となり、この結果、収穫量（子実用）は8万9,900tとなった。また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、8万8,900tとなった（九州農政局、令和5年産水稲の収穫量（九州）から抜粋）。

イ 麦類

本年度の作柄は、令和4年11月18日播種の適期播では、大麦が平年比102と平年並、小麦は平年比114と多収であった。令和4年12月15日播種の晩播では、大麦が平年比91と低収、小麦は平年比110と多収であった。適期播は生育期間を通じて暖冬傾向で推移したため生育は旺盛となった。大麦は一穂粒数が平年よりやや多かったが、千粒重は平年より軽く屑麦重歩合が平年より高かったため、子実重は平年並となった。小麦は千粒重が平年よりやや軽かったが、一穂粒数が平年より多かったため、多収となった。晩播は12月の低温による影響で、初期の生育が緩慢となっていたが、その後は暖冬傾向で推移したため生育は旺盛となった。大麦は穂数、一穂粒数が平年よりやや多かったが、千粒重は平年より軽く、屑麦重歩合が平年より高かったため低収となった。小麦は穂数、一穂粒数が平年より多く、千粒重は平年並であったため多収となった。（水田農業グループ資料から抜粋）。

ウ 大豆

7月18日播種の標準播区は、7月1～2半旬の降水量が多く、圃場が乾かない状態が続いたため、播種は平年より8日遅れた。出芽は良好であり、出芽期は7月23日であった。開花期は8月27日で平年より5日遅かった。成熟期は11月3日で平年より7日早かった。成熟期の主茎長は平年より短く、主茎節数は少なく、分枝数はやや少なかった。稔実莢数はやや少なく百粒重は平年並であり、子実重は24.2kg/a（平年比87）で平年より低収であった。7月25日播種の晩播区は、播種後に激しい降雨があり、翌日から無降雨の日が続いたため（13日間）、クラストが硬化し出芽が不均一となった。出芽期は7月31日であった。開花期は8月31日で平年より3日早かった。成熟期は11月2日で平年より19日早かった。成熟期の主茎長は平年よりやや長く、主茎節数は多く、分枝数は少なかった。稔実莢数は多く百粒重は平年並であり、子実重は22.4kg/a（平年比112）で平年より多収であった。（水田農業グループ資料から抜粋）。

エ カンキツ

3月の気温が高く推移したため、発芽期、開花期は平年より1～2週間ほど早くなった。着花量は多く、生理落果は平年並であったため、着果量は多かった。生育期間中の降水量が平年より少なかったため、小玉傾向であったが、果実品質（Brix）は高い傾向であった。病害虫については、サビダニの発生が多かった。

オ ブドウ

発芽期は平年よりも巨峰で10日、ピオーネで4日、デラウェアで5日、シャインマスカットで8日早かった。開花盛期はデラウェアは平年よりも7日早かったが、巨峰、ピオーネ、シャインマスカットではほぼ平年並みであった（巨峰-1日、ピオーネ±0日、シャインマスカット-2日）。巨峰の開花期となった5月中旬は比較的天候に恵まれたため、着果は良好であった。梅雨明けは平年並みで、以降は高温が続き夜温も高く推移したため、巨峰、ピオーネでは著しい着色不良となり、糖度もいずれの品種においてやや低くなった。果実肥大はいずれの品種も平年並であった。

カ ナシ

発芽期はいずれの品種も2～3日程度早くなった。3月上旬以降の高温傾向のため、開花盛期は幸水4月2日(平年比-9日)、豊水3月31日(-6日)、あきづき3月31日(-8日)、新高3月27日(-7日)といずれの品種も平年よりも早かった。梅雨明けは平年よりも6日遅い7月25日で、その後は高温傾向が継続したが、定期的にまとまった降雨もあり果実肥大は良好であった。果実品質は梅雨明けが遅く8月にかけて日照時間も少なめで推移したため幸水、豊水では糖度がやや低くなった。その後8月中旬から9月上旬にかけて好天が続いたことから、あきづき、新高では糖度は平年並みとなった。今年度は夏季の高温が顕著で降雨量も少なかったことからあきづきや新高で水浸果が見られるなどの高温障害が目立った。

キ 茶

本年の萌芽までの気温は、平年より概ね高く推移し、萌芽期は3月29日で前年、平年よりも3日早かった。一番茶の摘採日は4月27日で、前年より3日早く、平年より5日早かった。生葉収量は599kg/10aで平年対比114%であった。本年の梅雨入りは5月29日で平年より6日早く、降水量は平年より多かった。二番茶の摘採日は6月16日で前年、平年並となり、生葉収量は718kg/10aで平年比117%であった。

ク トマト

南西部では令和5年3月下旬から5月に定植が行われた。定植後は気温の低下もなく、概ね生育は順調であった。7月以降は高温・曇天による樹勢の低下が見受けられ、2段から3段の不着果が発生した。そのため、収量は例年の8割から9割程度であった。

西部では令和5年5月に定植が行われた。南西部と同様に定植後の生育は概ね順調であったが、6月末からの豪雨、曇天、酷暑により花とびが多く、9月以降は裂果が発生した。収量は例年の9割程度であった。

ケ 夏秋ピーマン(令和5年3月～10月)

定植は、中間地では令和5年3月中旬から4月中旬にかけて、山間地域では4月上旬から4月下旬にかけて行われた。前年度の栽培終了後の片付け対策や定植後の防除により、栽培期間を通してTSWVの発生が少なく、TSWVによる生育不良の株は少なかった。

コ ネギ(令和5年4月～令和6年3月)

平坦地の白ネギでは、7月の台風による風雨の影響で軟腐病の被害が拡大し、圃場によっては甚大な被害が見られた。また、期間を通してネギアザミウマの発生が見受けられた。

中山間地の白ネギでは、令和5年4月から5月にかけて定植が行われた。平坦地と同様に、7月の台風による軟腐病が発生し、株の枯死などの被害が見受けられた。

サ いちご(令和4年7月～令和5年5月)

育苗は令和4年6月上旬から9月上旬にかけて行われた。8月以降は高温が続いたものの、花芽分化は9月上中旬で確認され、花芽分化の遅れはなかった。定植は9月中旬から行われた。定植後は9月下旬から10月上旬にかけて平年より平均気温が高く、一部の圃場で第一次腋花房の分化の遅れが見受けられた。11月以降は平年より平均気温が高く、果実の着果もあり、株の消耗が見受けられた。

(8) 普通作物病害虫の発生及び防除状況

ア 普通作物病害虫発生程度別面積

病害虫名	栽培面積	発生程度別面積					発生面積率	実防除面積	延防除面積	被害面積	平年比	発生概評	平年発生面積	平年発生面積率
		少	中	多	甚	計								
水稻(育苗期)	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
苗立枯病	18,080	80	5	1	0	86	0.5	18,080	18,180	6	60.9	やや少	165.6	0.8
もみ枯細菌病	18,080	2	0	0	0	2	0.0	18,080	18,080	0	100.0	並	2.0	0
苗いもち	18,080	20	0	0	0	20	0.1	18,080	18,180	0	12.0	少	196.1	0.9
ばか苗病	18,080	50	1	0	0	51	0.3	18,080	18,080	1	7.7	少	788.6	3.7
水稻(本田)	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha				
葉いもち	18,080	10,000	600	80	1	10,681	59.1	18,080	19,888	81	105.4	並	11,801.2	56.1
穂いもち	18,080	3,500	50	5	1	3,556	19.7	18,080	19,888	56	92.9	並	4,464.7	21.2
紋枯病	18,080	7,000	200	10	1	7,211	39.9	13,560	16,272	211	84.1	並	9,919.0	47.4
白葉枯病	18,080	50	3	1	0	54	0.3	904	904	4	11.6	少	544.7	2.6
ばか苗病	18,080	30	3	0	0	33	0.2	0	0	3	4.6	少	845.5	4.0
心枯線虫病	18,080	30	0	0	0	30	0.2	0	0	0	3.7	少	944.2	4.5
ごま葉枯病	18,080	1,100	10	1	0	1,111	6.1	18,080	19,888	1	80.7	並	1,601.6	7.6
縞葉枯病	18,080	100	0	0	0	100	0.6	—	—	0	35.8	少	325.0	1.5
萎縮病	18,080	3	0	0	0	3	0.0	—	—	0	79.5	やや少	4.4	0.0
もみ枯細菌病	18,080	2,000	50	0	0	2,050	11.3	904	904	50	114.8	並	2,091.1	9.9
稲こうじ病	18,080	5,500	30	5	0	5,535	30.6	181	181	35	82.2	並	7,832.2	37.2
ニメイガ(1化)	18,080	30	0	0	0	30	0.2	18,080	18,080	0	58.5	少	60.4	0.3
ニメイガ(2化)	18,080	30	0	0	0	30	0.2	6,027	6,027	0	50.2	少	70.7	0.3
セジロウカ	18,080	40	0	0	0	40	0.2	18,080	18,080	0	0.9	少	5,476.0	25.8
トビイロウカ	18,080	50	5	2	0	57	0.3	18,080	27,120	2	1.3	少	5,074.6	23.8
ヒメトビウカ	18,080	200	10	0	0	210	1.2	18,080	18,080	0	21.3	少	1,171.0	5.4
ツマクロコバエ	18,080	100	0	0	0	100	0.6	18,080	18,080	0	4.4	少	2,696.0	12.6
イネミスジウメシ	18,080	500	10	0	0	510	2.8	18,080	18,080	0	13.4	少	4,495.0	21.1
斑点米カメシ類	18,080	4,500	100	20	0	4,620	25.6	16,272	17,899	20	84.6	並	6,326.0	30.2
イネツトムシ	18,080	100	1	0	0	101	0.6	6,027	6,027	0	3.7	少	3,192.0	15.1
フタトビコバエ	18,080	200	5	0	0	205	1.1	6,027	6,027	0	11.8	少	2,027.0	9.6
コブノメイガ	18,080	3,500	100	0	0	3,600	19.9	18,080	18,080	0	80.3	並	5,322.5	24.8
スクリンゴガイ	18,080	2,300	100	10	0	2,410	13.3	18,080	18,080	10	82.5	並	3,380.0	16.2

イ 普通期水稲主要病害虫の巡回調査結果

いもち病

	発生圃場率			発病度		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	30.6	25.4	23.1	2.3	1.7	2.4
8月上旬	47.5	38.9	40.0	5.8	4.5	3.2
8月中旬	45.0	46.3	47.5	4.7	4.2	7.0
9月中旬	15.4	14.2	18.4	0.7	0.6	0.9

紋枯病

	発生圃場率			発病度		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0.3	0	0.0	0.0	0.0
8月上旬	3	2.1	2.5	0.2	0.1	0.0
8月中旬	7.5	12.6	17.5	0.2	0.7	1.3
9月中旬	30.8	27.0	44.7	3.4	2.6	5.6

白葉枯病

	発生圃場率			発病度		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0.2	0	0	0.0	0
8月上旬	0	0.0	0	0	0.0	0
8月中旬	0	0.3	0	0	0.0	0
9月中旬	0	0.2	0	0	0.0	0

セジロウンカ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	7.6	0	0.01	0.3	0.01
8月上旬	0	18.5	0	0.01	0.6	0.01
8月中旬	0	24.2	0	0.06	0.9	0.02
9月中旬	0	3.0	0	0.01	0.2	0.03

トビイロウンカ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	3.4	0	0	0.00	0
8月上旬	0	0.3	0	0	0.03	0
8月中旬	0	38.7	0	0	0.15	0
9月中旬	5.1	13.8	0	0.6	4.01	0.03

ヒメトビウンカ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	3	0.0	0	0.10	0.03	0.05
8月上旬	0	0.5	0	0.13	0.07	0.06
8月中旬	0	0.2	0	0.12	0.08	0.13
9月中旬	3	0	0	0.13	0.03	0.08

ツマグロヨコバイ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	2.9	0	0.00	0.11	0.01
8月上旬	0	6.4	0	0.02	0.22	0.03
8月中旬	0	5.9	0	0.02	0.28	0.03
9月中旬	0	2.2	0	0.01	0.09	0.01

コブノメイガ

	発生圃場率			25株当たり被害苞数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	8.3	9.7	0	0.1	0.5	0
8月上旬	67.5	16.0	0	2.3	1.2	0
8月中旬	12.5	31.1	7.5	0.3	4.9	0.1
9月中旬	17.9	11.3	11	2.6	2.6	1.2

ウ 水稻すくい取り調査結果

(ア) 普通期水稻のウンカ・ヨコバイ類すくい取り調査結果 (2023年4月)

調査場所	調査 月日	ツマグロヨコバイ				ヒメトビウンカ				備 考
		成虫 (雄)	成虫 (雌)	幼虫	計	成虫 (雄)	成虫 (雌)	幼虫	計	
国東市安岐町中園	4/19				0				0	
	4/19				0				0	
速見郡日出町真那井	4/19				0				0	
	4/19				0				0	
杵築市新庄	4/19				0				0	
	4/19				0				0	ホソハリカメムシ2
大分市川添	4/17				0				0	
	4/17				0				0	
臼杵市家野	4/14				0				0	シラホシカメムシ類1
	4/14	1			1				0	
臼杵市野津町菅無田	4/14				0				0	
	4/14				0				0	
佐伯市弥生山梨子	4/14				0				0	
	4/14				0				0	
豊後大野市千歳町前田	4/19				0				0	
	4/19				0				0	ホソハリカメムシ2
豊後大野市三重町芦刈	4/14				0				0	
	4/14				0				0	
豊後大野市緒方町上自在	4/17				0				0	
	4/17				0				0	
竹田市倉木	4/17				0				0	
	4/17				0				0	
竹田市荻町政所	4/17				0				0	ホソハリカメムシ1
	4/17				0				0	
玖珠郡九重町恵良	4/17		1		1				0	シラホシカメムシ類1
	4/17				0				0	
玖珠郡玖珠町戸畑北山田	4/17				0				0	
	4/17				0				0	
日田市求来里	4/17				0				0	
	4/17				0				0	
豊後高田市払田	4/18				0				0	
	4/18				0				0	
中津市湯屋	4/18				0				0	イチモンジカメムシ1
	4/18				0				0	
宇佐市安心院町荘	4/18				0				0	ホソハリカメムシ1
	4/18				0				0	
宇佐市乙女	4/18				0				0	
	4/18				0				0	
宇佐市下矢部	4/18				0				0	
	4/18				0				0	
合 計	40	1	1	0	2	0	0	0	0	
平 均 (ほ場当り)		0.03	0.03	0	0.05	0	0	0	0	
平年値 (ほ場当り)		0.45	0.56	0.01	1.01	0.09	0.08	0.01	0.17	
前年値 (ほ場当り)		0.50	0.30	0	0.80	0	0	0	0	

(イ) 早期水稻の斑点米カメムシ類すくい取り調査結果 (2023年6月)

調査場所	調査 月日	クモヘリ カメムシ		ホソハリ カメムシ		シラホシ カメムシ類		その他	合計	備 考
		成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	アカシガシ カメ		
杵築市杵築									0	
									0	
国東市国東町原									0	
									0	
佐伯市木立	6/12								0	
	6/12								0	
佐伯市須留木	6/12			2		1			3	
	6/12			1					1	
宇佐市院内町香下									0	
									0	
合 計	4	0		3		1		0	4	
平 均		0.0		0.8		0.3		0.0	1.0	
平年値		1.4		0.7		0.1		6.6	2.2	
前年値		3		0.7		0.2		0	3.8	

※合計は「その他」を除く

(ウ) 普通期水稻の斑点米カメムシ類すくい取り調査結果 (2023年7~8月)

調査場所	調査 月日	クモヘリ カメムシ		ホソハリ カメムシ		シラホシ カメムシ類		ミナミアオ カメムシ		アカシジ カスミカメ	計		備 考
		成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫		成虫	幼虫	
国東市安岐町掛樋	8/3			3							3	0	
	8/3			1	1						1	1	
速見郡日出町真那井	8/3										0	0	
	8/3										0	0	
杵築市新庄	8/3			7		1	1				8	1	
	8/3			5	1		2			37	5	3	
大分市川添	8/3			1							1	0	
	8/3	4			1						4	1	ウズラカメムシ成虫1
臼杵市家野	8/2										0	0	
	8/2	9		3	1						12	1	
臼杵市野津町菅無田	8/2			1							1	0	
	8/2										0	0	
佐伯市弥生山梨子	7/31			2		3					5	0	
	7/31	11	3	9		1				1	21	3	
豊後大野市千歳町前田	7/31	3			1						3	1	
	7/31										0	0	
豊後大野市三重町芦刈	7/31	31		25	13					12	56	13	
	7/31	11		8							19	0	
豊後大野市緒方町上自在	7/31					1	1				1	1	
	7/31	6		9		2					17	0	
竹田市倉木	7/31										0	0	
	7/31										0	0	
竹田市荻町政所	7/31	19	4	3	4					1	22	8	
	7/31										0	0	
玖珠郡九重町恵良	8/2										0	0	
	8/2										0	0	
玖珠郡玖珠町戸畑北山田	8/2										0	0	
	8/2										0	0	
日田市求来里	8/2			2		1					3	0	
	8/2										0	0	
豊後高田市払田	8/2			6	1	3	2				9	3	
	8/2			8	5				1		8	6	
中津市湯屋	8/2			8		1	2			2	9	2	
	8/2			1							1	0	
宇佐市安心院町莊	8/2										0	0	
	8/2										0	0	
宇佐市乙女	8/2			1						15	1	0	
	8/2									3	0	0	
宇佐市下矢部	8/2			8	8	1	1			22	9	9	
	8/2			15	6	5	14			14	20	20	イネカメムシ成虫2
合 計	40	94	7	126	42	19	23	0	1	107	239	73	
平 均		2.4	0.2	3.2	1.1	0.5	0.6	0	0.025	2.7	6.0	1.8	
平年値		0.5	0.1	1.1	0.2	0.3	0.1	0.005	0.001	3.0	1.9	0.5	アカシジカスミカメ除く
前年値		0.4	0	3.1	0.4	0.9	0.2	0.025	0	1.4	4.4	0.6	

エ 普通作病害虫発生程度別面積（麦類）

病害虫名	栽培面積	発生程度別面積					発生面積率	実防除面積	延防除面積	被害面積	平年比	発生概評	平年発生面積	平年発生面積率
		少	中	多	甚	計								
大麦	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
小さび病	2,746	14	0	0	0	14	0.5	0	0	0	67.3	やや少	16.6	0.8
黄さび病	2,746	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	—	—	0	0
黒さび病	2,746	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	—	—	0	0
うどんこ病	2,746	70	5	0	0	75	2.7	0	0	0	88.8	並	67.8	3.1
赤かび病	2,746	100	5	0	0	105	3.8	2,746	4,119	5	22.4	少	376.4	17.1
斑葉病	2,746	30	0	0	0	30	1.1	0	0	0	18.4	少	129.0	5.9
裸黒穂病	2,746	45	0	0	0	45	1.6	—	—	0	62.8	やや少	57.0	2.6
黒節病	2,746	20	2	0	0	22	0.8	—	—	0	32.5	少	54.3	2.5
縞萎縮病	2,746	20	2	0	0	22	0.8	—	—	2	72.1	やや少	24.6	1.1
網斑病	2,746	450	30	5	0	485	17.7	500	500	35	123.4	やや多	321.4	14.3
アブラムシ類	2,746	100	5	0	0	105	3.8	1	1	5	17.3	少	483.5	22.1
ハエトリバエ類	2,746	20	0	0	0	20	0.7	0	0	0	44.0	少	36.0	1.7
小麦	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
赤さび病	2,868	65	1	0	0	66	2.3	0	0	1	93.1	並	66.6	2.5
黄さび病	2,868	10	0	0	0	10	0.3	0	0	0	—	—	0.1	0.0
黒さび病	2,868	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	—	—	0.0	0
うどんこ病	2,868	300	10	1	0	311	10.8	0	0	11	74.7	やや少	386.8	14.5
赤かび病	2,868	250	20	0	0	270	9.4	2,868	4,302	20	41.2	少	602.5	22.8
黄斑病	2,868	250	40	5	0	295	10.3	800	800	45	63.8	やや少	423.4	16.1
裸黒穂病	2,868	50	0	0	0	50	1.7	0	0	0	99.6	並	47.0	1.8
縞萎縮病	2,868	1	0	0	0	1	0.0	—	—	0	59.5	少	1.6	0.1
アブラムシ類	2,868	100	5	0	0	105	3.7	2	2	5	10.4	少	944.2	35.3
ハエトリバエ類	2,868	20	0	0	0	20	0.7	0	0	0	31.1	少	58.5	2.2
麦類	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
さび病類	5,614	89	1	0	0	90	1.6	0	0	1	94.3	並	83.3	1.7
うどんこ病	5,614	370	15	1	0	386	6.9	0	0	11	74.0	やや少	454.6	9.3
赤かび病	5,614	350	25	0	0	375	6.7	5,614	8,421	25	33.0	少	978.9	20.3
斑葉病	2,746	30	0	0	0	30	1.1	0	0	0	18.4	少	129.0	5.9
黒穂病類	5,614	95	0	0	0	95	1.7	0	0	0	79.4	やや少	104.0	2.1
黒節病	2,746	20	2	0	0	22	0.8	—	—	0	32.5	少	54.3	2.5
大麦縞萎縮病	2,746	20	2	0	0	22	0.8	—	—	2	72.1	やや少	24.6	1.1
大麦網斑病	2,746	450	30	5	0	485	17.7	500	500	35	123.4	やや多	321.4	14.3
小麦黄斑病	2,868	250	40	5	0	295	10.3	800	800	45	63.8	やや少	423.4	16.1
小麦縞萎縮病	2,868	1	0	0	0	1	0.0	—	—	0	59.5	少	1.6	0.1
アブラムシ類	5,614	200	10	0	0	210	3.7	3	3	10	12.7	少	1,427.7	29.5
ハエトリバエ類	5,614	40	0	0	0	40	0.7	0	0	0	36.1	少	94.5	2.0

オ 普通作病虫害発生程度別面積（大豆）

病虫害名	栽培面積	発生程度別面積					発生面積率	実防除面積	延防除面積	被害面積	平年比	発生概評	平年発生面積	平年発生面積率
		少	中	多	甚	計								
大豆	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha			ha	%
紫斑病	1,432						0.0	1,289	1,289	0	—	—	87.0	5.3
さび病	1,432	12	0	0	0	12	0.8	0	0	0	96.8	並	14.2	0.9
べと病	1,432	900	30	0	0	930	64.9	0	0	30	81.5	並	1,314.4	79.7
葉焼病	1,432	40	0	0	0	40	2.8	0	0	0	93.2	並	46.7	3.0
モザイク病	1,432	10	0	0	0	10	0.7	—	—	0	80.0	やや少	14.3	0.9
アブラムシ類	1,432	90	0	0	0	90	6.3	0	0	0	60.8	やや少	170.9	10.3
コカシムシ類	1,432	100	0	0	0	100	7.0	0	0	0	33.6	少	343.3	20.8
ハスモンヨトウ	1,432	600	20	5	0	625	43.6	1,432	1,432	25	61.4	やや少	1,180.0	71.1
ハダニ類	1,432	70	5	0	0	75	5.2	0	0	5	49.3	少	175.6	10.6
タバコイモトハエ	1,432	—	—	—	—	—	0.0	1,432	1,432	0	—	—	—	—
マメシクイカ	1,432	—	—	—	—	—	0.0	1,432	1,432	0	—	—	—	—
シロイモシクイカ	1,432	—	—	—	—	—	0.0	1,432	1,432	0	—	—	—	—
カメムシ類	1,432	250	20	0	0	270	18.9	1,432	1,575	20	67.4	やや少	460.6	28.0
ウコンノメイカ	1,432	10	0	0	0	10	0.7	1,432	1,432	0	9.3	少	123.3	7.5

(9) 果樹・茶病害虫の発生及び防除状況

ア 病害虫発生程度別面積 (2023年10月1日現在)

(ア) カンキツ

病害虫名	対象品種	栽培面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別面積割合 (%)					発生面積率			発生概評	被害面積 C-B	防除面積	延べ防除面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少 B	中	多	甚	計 C	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
そうか病	温州	693	ha	ha	ha	ha	ha	%	%	%	%	%	%	%	%	やや多い	45	821	1,642
	カボス	537																	
	計	1230	300	40	5	0	345	87.0	11.6	1.4	0	100	29.4	24.3	121.2				
かいよう病	カボス	537													やや少ない	10	376	1,504	
	夏ミカン	63																	
	ネーブル	6																	
計	606	85	5	5	0	95	89.5	5.3	5.3	0	100	17.7	22.7	77.9					
黒点病	全品種	1417	900	50	1	0	951	94.6	5.3	0.1	0	100	67.1	86.0	78.1	やや少ない	51	992	4,960
アブラムシ類	全品種	1417	280	5	1	0	286	97.9	1.7	0.3	0	100	20.2	23.0	87.8	平年並	6	425	2,126
ミカンハダニ	全品種	1417	850	50	5	0	905	93.9	5.5	0.6	0	100	63.9	66.7	95.7	平年並	55	425	2,126
ミカンサビダニ	全品種	1417	1,000	100	10	0	1,110	90.1	9.0	0.9	0	100	78.3	69.6	112.6	平年並	110	992	2,976
ミカンサビダニ	全品種	1417	35	1	0	0	36	97.2	2.8	0	0	100	2.5	3.7	68.2	やや少ない	1	992	2,480
チャノオザミマ	全品種	1417	50	1	0	0	51	98.0	2.0	0	0	100	3.6	4.1	88.1	平年並	1	425	638
カイガラムシ類	全品種	1417	300	20	3	0	323	92.9	6.2	0.9	0	100	22.8	24.1	94.7	平年並	23	992	1,488
果樹カメムシ類	全品種	1417	75	5	3	0	83	90.4	6.0	3.6	0	100	5.9	7.7	76.0	やや少ない	8	709	2,126

(イ) ナシ

病害虫名	対象品種	栽培面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別割合 (%)					発生面積率 (%)			発生概評	被害面積 C-B	防除面積	延べ防除面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少 B	中	多	甚	計	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
黒星病	全品種	349	170	10	0	0	180	94.4	5.6	0	0	100	51.6	64.2	80.3	平年並	10	349	3,839
赤星病	全品種	349	60	3	1	0	64	93.8	4.7	1.6	0	100	18.3	21.2	86.4	平年並	4	349	698
輪紋病	豊水 幸水	140	8	0	0	0	8	100	0	0	0	100	5.7	6.7	85.2	平年並	0	140	700
うどんこ病	全品種	349	18	0	0	0	18	100	0	0	0	100	5.2	6.3	81.6	平年並	0	349	698
アブラムシ類	全品種	349	140	5	1	0	146	95.9	3.4	0.7	0	100	41.8	35.3	118.4	平年並	6	279	558
ミカンサビダニ	全品種	349	70	2	1	1	74	94.6	2.7	1.4	1.4	100	21.2	17.0	124.5	やや多い	4	175	349
ナシハダニ	全品種	349	9	0	0	0	9	100	0	0	0	100	2.6	2.2	118.8	平年並	0	349	1,745
ハダニ類	全品種	349	295	15	1	0	311	94.9	4.8	0.3	0	100	89.1	75.0	118.8	平年並	16	349	772
果樹カメムシ類	全品種	349	70	5	1	0	76	92.1	6.6	1.3	0	100	21.8	31.7	68.6	やや少ない	6	349	1,158

(ウ) ブドウ

病害虫名	対象品種	栽培面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別割合 (%)					発生面積率 (%)			発生概評	被害面積 C-B	防除面積	延べ 防除面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少 B	中	多	甚	計 C	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
晩腐病	全品種	279	75	1	0	0	76	98.7	1.3	0	0	100	27.2	27.2	100.2	平年並	1	279	837
黒とう病	全品種	279	35	3	0	0	38	92.1	7.9	0	0	100	13.6	11.5	118.2	平年並	3	279	837
べと病	全品種	279	180	5	0	0	185	97.3	2.7	0	0	100	66.3	83.2	79.7	やや少ない	5	279	1,116
灰色かび病	全品種	279	18	0	0	0	18	100	0	0	0	100	6.5	7.8	82.3	平年並	0	279	279
褐斑病	全品種	279	130	2	1	0	133	97.7	1.5	0.8	0	100	47.7	60.0	79.5	やや少ない	3	279	837
うどんこ病	全品種	279	55	0	0	0	55	100	0	0	0	100	19.7	17.0	116.3	平年並	0	279	279
さび病	全品種	279	10	0	0	0	10	100	0	0	0	100	3.6	4.7	75.7	やや少ない	0	279	558
フザリウムコバエ	全品種	279	50	2	0	0	52	96.2	3.8	0	0	100	18.6	19.4	96.3	平年並	2	279	558
チャノイロサミマ	全品種	279	60	0	0	0	60	100	0	0	0	100	21.5	23.1	93.0	平年並	0	279	558
ハダニ類	全品種	279	60	2	0	0	62	96.8	3.2	0	0	100	22.2	21.2	104.6	平年並	2	28	42

(エ) チャ

病害虫名	対象品種	栽培面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別割合 (%)					発生面積率 (%)			発生概評	被害面積 C-B	防除面積	延べ 防除面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少 B	中	多	甚	計 C	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
炭疽病	全品種	492	168	36	24	12	240	70.0	15.0	10.0	5.0	100	48.8	50.1	97.3	平年並	72	295	886
もち病	全品種	492	30	10	0	0	40	75.0	25.0	0	0	100	8.1	8.4	96.9	平年並	10	246	246
輪斑病	全品種	492	80	0	0	0	80	100	0	0	0	100	16.3	15.6	104.2	平年並	0	246	246
チャノカクモンハマキ	全品種	492	40	20	0	0	60	66.7	33.3	0	0	100	12.2	15.6	77.9	やや少ない	20	295	354
チャノハマキ	全品種	492	10	2	0	0	12	83.3	16.7	0	0	100	2.4	3.4	70.7	やや少ない	2	295	351
チャノホソガ	全品種	492	210	30	0	0	240	87.5	12.5	0	0	100	48.8	41.0	119.0	平年並	30	344	585
チャノミドリヒメコバエ	全品種	492	200	50	15	0	265	75.5	18.9	5.7	0	100	53.9	49.9	107.9	平年並	65	394	708
チャノイロサミマ	全品種	492	160	50	0	0	210	76.2	23.8	0	0	100	42.7	44.5	95.9	平年並	50	394	708
カンザワハダニ	全品種	492	170	110	20	0	300	56.7	36.7	6.7	0	100	61.0	54.0	112.9	平年並	130	443	1,328
クワシカクシラミ	全品種	492	40	30	10	5	85	47.1	35.3	11.8	5.9	100	17.3	12.6	136.7	やや多い	45	98	108
チャノコナジラミ	全品種	492	250	160	30	10	450	55.6	35.6	6.7	2.2	100	91.5	81.6	112.1	平年並	200	344	861

注) カンキツ、ナシ、ブドウの面積は「平成30年大分の園芸」による。
 チャの栽培面積は、農林水産省の作況調査（令和2年産栽培面積）の数値による。

(10) 野菜病害虫の発生及び防除状況

ア 病害虫発生程度別面積 (2023年10月1日現在)

病害虫名	栽培面積	発生程度別面積					実防除面積	延防除面積	被害面積	発生面積率	平年面積率	平年対比	発生概評
		少	中	多	甚	計							
トマト													
球状腐病	152	5	0	0	0	5	-	-	0	3.3	4.0	81.5	平年並
青枯病	152	22	1	0	0	23	76	76	1	15.1	12.7	118.7	平年並
かいよう病	152	12	0	0	0	12	76	114	0	7.9	9.8	80.8	平年並
疫病	152	7	0	0	0	7	76	76	0	4.6	5.9	78.7	やや少
灰色かび病	152	22	1	0	0	23	152	608	1	15.1	14.7	102.9	平年並
葉かび病	152	14	1	0	0	15	152	608	1	9.9	11.8	83.6	平年並
すすかび病	152	90	20	10	0	120	152	760	30	78.9	62.3	126.8	やや多
うどんこ病	152	30	6	4	0	40	152	608	10	26.3	21.5	122.2	やや多
黄化葉巻病	152	3	0	0	0	3	-	-	0	2.0	1.9	103.2	平年並
アブラムシ類	152	4	0	0	0	4	152	304	0	2.6	2.9	89.3	平年並
アザミヤカ類	152	4	0	0	0	4	152	456	0	2.6	2.9	90.8	平年並
ハモグリバエ類	152	60	17	0	0	77	152	760	17	50.7	47.1	107.7	平年並
タバココナジラミ	152	14	1	0	0	15	152	760	1	9.9	8.7	113.9	平年並
オオタバコカ	152	5	0	0	0	5	95	190	0	3.3	3.9	85.3	平年並
ハモグリバエ類	152	45	2	0	0	47	152	456	2	30.9	41.5	74.4	やや少
ピーマン(夏秋)													
球状腐病	121	6	1	0	0	7	0	0	1	5.8	6.8	85.3	平年並
黄化えそ病	121	2	1	1	0	4	0	0	2	3.3	4.5	72.9	やや少
青枯病	121	20	3	1	0	24	80	80	4	19.8	16.2	122.2	やや多
斑点細菌病	121	6	0	0	0	6	10	20	0	5.0	7.1	69.5	やや少
軟腐病	121	5	0	0	0	5	121	242	0	4.1	4.6	90.3	平年並
うどんこ病	121	45	10	1	0	56	121	605	11	46.3	59.2	78.2	やや少
灰色かび病	121	5	0	0	0	5	15	30	0	4.1	4.1	100.4	平年並
菌核病	121	2	0	0	0	2	15	30	0	1.7	1.7	94.9	平年並
斑点病	121	80	10	1	0	91	121	605	11	75.2	61.5	122.2	やや多
アブラムシ類	121	40	10	0	0	50	121	242	10	41.3	37.0	111.6	平年並
タバコカ	121	20	1	0	0	21	121	363	1	17.4	21.4	81.2	平年並
ヒラズハナアザミヤカ	121	60	10	3	0	73	121	605	13	60.3	42.1	143.2	多
ミカンキイロアザミヤカ	121	15	7	1	0	23	121	363	8	19.0	22.1	86.1	平年並
タバココナジラミ	121	10	1	0	0	11	100	200	1	9.1	14.2	63.9	やや少
カメムシ類	121	15	0	0	0	15	100	200	0	12.4	14.7	84.3	平年並

病害虫名	栽培面積	発生程度別面積					実防除面積	延防除面積	被害面積	発生面積率	平年面積率	平年対比	発生概評
		少	中	多	甚	計							
ねぎ (秋冬)													
さび病	535	140	30	0	0	170	535	1070	30	31.8	46.6	68.2	やや少
黒斑病	535	160	40	3	0	203	535	1605	43	37.9	36.7	103.4	平年並
べと病	535	160	30	3	0	193	535	1605	33	36.1	59.1	61.0	やや少
小菌核腐敗病	535	50	10	0	0	60	535	1070	10	11.2	16.0	70.0	やや少
シロイモシヨウ	535	100	50	25	3	178	535	1605	78	33.3	39.2	85.0	平年並
アブラムシ類	535	15	0	0	0	15	50	50	0	2.8	3.4	82.5	平年並
ネギハモグリバエ	535	150	40	10	0	200	535	1605	50	37.4	61.1	61.2	やや少
ネギアザミヤ	535	300	100	30	5	435	535	1605	135	81.3	67.6	120.2	やや多
ハスモンヨウ	535	22	4	1	0	27	535	535	5	5.0	5.2	96.7	平年並
ネギコガ	535	70	10	0	0	80	535	535	10	15.0	20.0	74.8	やや少
いちご													
うどんこ病	66	17	2	1	0	20	66	264	3	30.3	32.8	92.3	平年並
灰色かび病	66	20	4	2	0	26	66	330	6	39.4	39.7	99.3	平年並
菌核病	66	2	0	0	0	2	22	22	0	3.0	3.2	93.4	平年並
萎黄病	66	7	1	1	0	9	66	66	2	13.6	15.8	86.1	平年並
炭疽病	66	8	3	1	0	12	66	462	4	18.2	19.0	95.5	平年並
アブラムシ類	66	15	3	0	0	18	66	132	3	27.3	34.0	80.2	平年並
ハスモンヨウ	66	12	1	0	0	13	66	66	1	19.7	23.5	83.9	平年並
ハダニ類	66	28	9	3	0	40	66	198	12	60.6	74.3	81.6	平年並
アザミヤ類	66	18	2	1	1	22	66	330	4	33.3	19.7	169.3	多
コナジラミ類	66	7	0	0	0	7	22	22	0	10.6	15.0	70.7	やや少

(11) 予察圃場等に関する調査

ア 水稻

(ア) 予察圃場の耕種概要

病害虫予察圃場の概要

圃場設置場所	豊後大野市三重町赤嶺 農業大学校ほ場
供試品種	ひとめぼれ、つや姫、ヒノヒカリ
種子消毒方法	5月19日 温湯消毒(60℃、10分)
浸種月日・条件	5月19日～5月24日 室内にて浸種
播種月日・播種量	5月24日、湿籾重 150g/箱
床土の種類	水稻培土(清新産業)
出芽条件	平置き出芽(太陽シート)
移植月日・移植方法	6月14日 稚苗機械植え
栽植密度	栽植密度 15.4株/m ²
施肥	
基肥	化成肥料 14-14-14 28.5kg/10a (成分量 N:4.0kg/10a、P ₂ O ₅ :4.0kg/10a、K ₂ O:4.0kg/10a) (6月14日)
追肥(穂肥)	化成肥料 16-0-16 16.0kg/10a 施用(8月7日)
中干し期間	—
出穂期	ひとめぼれ(8月15日)、つや姫(8月12日) ヒノヒカリ(8月22日)

(イ) 病害虫に関する調査成績

a いもち病

葉いもちは、‘ひとめぼれ’、‘ヒノヒカリ’で認められた。発病株率は8月下旬まで平年より高く推移し、発病度は8月上旬中旬まで平年より高く推移した。イネ葉いもち発生予測モデル(BLASTAM)によると各アメダス観測地点での葉いもち感染好適条件や準好適条件は、6月に県内の広い範囲(国見、中津、院内、杵築、日田、玖珠、湯布院、大分、犬飼、竹田、佐伯、宇目、蒲江)で複数回出現していた。

穂いもちの初発生は‘ひとめぼれ’で9月4日に確認し、‘ヒノヒカリ’で9月15日に確認された。

穂いもちの発病株率および発病穂率は、‘ひとめぼれ’で平年より高く推移した。

予察田におけるいもち病発生状況(2023)

いもち病		ひとめぼれ				つや姫				ヒノヒカリ			
		発生株率		発病度 発病穂率		発生株率		発病度 発病穂率		発生株率		発病度 発病穂率	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月	上旬	0	0.8	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0
	中旬	18.0	10.6	4.5	1.6	0	0	0	0	22.7	7.5	5.7	3.2
	下旬	82.0	37.8	20.5	13.4	0	0	0	0	50.7	36.0	12.7	8.5
8月	上旬	100	63.8	25	25.7	0	0	0	0	94.7	65.8	23.7	16.6
	中旬	96.0	62.2	24	18.6	0	0	0	0	90.7	54.0	22.7	23.9
	下旬	94.0	48.6	4.5	21.8	0	0	0	0	58.7	42.1	9.7	28.9
9月	上旬	8.0	9.4	4	0.6	0	0	0	0	0	2	0	0.2
	中旬	36.0	25.2	2.4	2.1	0	0	0	0	5.3	3.2	0.6	0.2
	下旬	70.0	22.8	6.9	2.6	0	0	0	0	20.0	21.6	1.4	1.5

※ 平年値は2013～2022年の平均値、‘つや姫’は2017年欠測

※ 8月下旬までは発病度、9月以降は発病穂率

b 紋枯病

紋枯病の初発生は‘ひとめぼれ’、‘つや姫’、‘ヒノヒカリ’では8月16日に確認された。発病株率は平年より高く推移し、病斑高率は平年より低く推移した。

予察田における紋枯病発生状況(2023)

紋枯病		ひとめぼれ				つや姫				ヒノヒカリ			
		発生株率		平均病斑高率		発生株率		平均病斑高率		発生株率		平均病斑高率	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月	上旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	下旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	上旬	0	0	0	0.2	0	0.4	0	0	0	0	0	0
	中旬	2.0	0.2	0.5	3.3	2.0	1.6	0.5	2.3	6.0	0.2	0.8	0
	下旬	4.0	2.4	0	9.2	8.0	3.3	3.4	16.0	0	3.0	0	4.4
9月	上旬	14.0	1.9	4.7	18.7	8.0	2.6	3.3	19.5	4.0	1.7	0.8	12.8
	中旬	14.0	6.4	4.9	31.4	32.0	7.6	4.9	25.0	12.0	4.1	4.1	16.8
	下旬	40.0	5.0	15.8	30.8	38.0	13.5	19.7	32.8	30.0	3.9	0.2	13.6

※ 平年値は2013～2022年の平均値、‘つや姫’は2017年欠測

c もみ枯細菌病、内穎褐変病

もみ枯細菌病は認められなかった。内穎褐変病は少発生が認められた。(データ省略)。

d セジロウンカ

予察田における初誘殺は7月9日(平年7月4日)で平年よりやや遅く、誘殺数は8月3半旬を除き平年より少なく推移した。巡回調査では、栽培期間中を通して平年より低く推移した。予察田での発生量は平年より少なく推移した。

予察田におけるセジロウンカの発生状況(2023)

		7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上	9月中	9月下	10月上旬
		7/5	7/14	7/25	8/4	8/16	8/25	9/4	9/15	9/25	10/5
本年	成虫	0	0	0.3	0	0.3	1.3	0.7	0	0.3	0.3
	幼虫	0	0	4.3	0.3	1.0	1.3	1.3	0	0	0.3
	計	0	0	4.7	0.3	1.3	2.7	2.0	0	0.3	0.7
平年	成虫	0	1.3	1.1	5.6	4.3	11.4	10.6	4.7	2.8	2.4
	幼虫	0	2.5	20.4	25.2	33.8	43.3	33.1	18.8	29.7	4.2
	計	0	3.9	21.5	30.8	38.2	54.7	39.3	23.6	32.6	6.6
平年比 (%)	成虫	#DIV/0!	0	29.4	0	7.7	11.7	6.3	0	11.8	14.1
	幼虫	#DIV/0!	0	21.3	1.3	3.0	3.1	4.0	0	0	7.9
	計	#DIV/0!	0	21.7	1.1	3.5	4.9	5.1	0	1.0	10.2

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2013～2022年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

e トビイロウンカ

予察灯における初誘殺は8月14日（平年7月29日）で平年より遅く、その後の誘殺は平年より少なく推移した。巡回調査では、早期水稻は発生が認められず、普通期水稻は9月中旬に初発生が確認され坪枯れの発生は県内数圃場で確認された。予察田では、8月中旬に初発生が確認されたが、その後は平年より少なく推移した。

予察田におけるトビイロウンカの発生状況（2023）

		7月上 7/5	7月中 7/14	7月下 7/25	8月上 8/4	8月中 8/16	8月下 8/25	9月上 9/4	9月中 9/15	9月下 9/25	10月上旬 10/5
本年	成虫	0	0	0	0	0.7	0.3	3.0	5.7	1.3	3.7
	幼虫	0	0	0	0	0.3	3.7	4.3	4.3	20.7	13.7
	計	0	0	0	0	1.0	4.0	7.3	10.0	22.0	17.3
平年	成虫	0	0.03	0	0.5	0.4	0.6	30.0	26.8	9.0	11.1
	幼虫	0	0	0.6	2.5	5.1	51.8	49.0	120.6	69.5	1333.3
	計	0	0.03	0.6	2.9	5.5	52.5	71.0	147.4	78.4	1344.4
平年比 (%)	成虫	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	166.7	52.6	10.0	21.1	14.8	32.9
	幼虫	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	6.5	7.1	8.9	3.6	29.8	1.0
	計	#DIV/0!	0	0	0	18.1	7.6	10.3	6.8	28.0	1.3

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2013～2022年の10年間平均値

3) 10月上旬の平年値については2017年の大量発生（11,982頭/25株）に伴う増加である

4) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

f ヒメトビウンカ

予察灯における初誘殺は6月10日（平年7月3日）で平年より早かった。巡回調査では、平年より多く推移した。予察田では、7月上旬から発生が確認され概ね平年より多かった。4月中旬に行ったすくい取り調査では確認されなかった。

予察田におけるヒメトビウンカの発生状況（2023）

		7月上 7/5	7月中 7/14	7月下 7/25	8月上 8/4	8月中 8/16	8月下 8/25	9月上 9/4	9月中 9/15	9月下 9/25	10月上旬 10/5
本年	成虫	0.3	1.5	1.3	3.0	3.3	3.0	6.7	4.3	2.3	1.3
	幼虫	0	0.5	13.7	10.7	3.0	14.0	11.7	12.0	6.0	7.3
	計	0.3	2.0	15.0	13.7	6.3	17.0	18.3	16.3	8.3	8.7
平年	成虫	0.2	0.5	0.4	1.4	2.7	2.5	2.0	5.0	1.4	1.4
	幼虫	0.03	4.3	7.0	13.0	15.4	17.4	10.7	13.3	9.3	5.6
	計	0.3	4.8	7.4	14.4	18.1	20.0	11.4	18.3	10.7	6.9
平年比 (%)	成虫	142.9	333.3	333.3	216.9	125.0	118.4	330.3	86.7	168.7	97.8
	幼虫	0	11.6	194.4	81.7	19.5	80.2	109.4	90.0	64.4	132.0
	計	125.0	42.1	201.9	94.7	35.0	85.1	160.6	89.1	77.9	125.2

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2013～2022年の10年間平均値

g ツマグロヨコバイ

予察灯における初誘殺は6月3日（平年6月3日）で平年並、総誘殺数は平年並であった。巡回調査では、発生圃場率は平年より低く、株当たり虫数も平年より少なかった。予察田では、平年より少なく推移した。4月中旬に行ったすくい取り調査では、発生量は平年並より少なかった。

予察田におけるツマグロヨコバイの発生状況（2023）

		7月上 7/5	7月中 7/14	7月下 7/25	8月上 8/4	8月中 8/16	8月下 8/25	9月上 9/4	9月中 9/15	9月下 9/25	10月上旬 10/5
本年	成虫	0	0.7	0.3	0	1.3	0.7	1.0	1.0	3.0	2.0
	幼虫	0	0.7	0.3	1.7	3.0	1.0	7.3	19.0	7.3	4.0
	計	0	1.3	0.7	1.7	4.3	1.7	8.3	20.0	10.3	6.0
平年	成虫	0	0	0.4	0.9	1.3	4.5	5.1	2.4	1.5	1.5
	幼虫	0.2	2.0	1.4	15.9	37.6	30.6	20.8	34.1	25.5	18.5
	計	0.2	2.0	1.7	16.8	38.9	35.1	23.3	36.5	27.0	20.1
平年比 (%)	成虫	#DIV/0!	#DIV/0!	90.9	0	106.6	14.8	19.8	41.4	197.8	129.1
	幼虫	0	33.1	24.3	10.5	8.0	3.3	35.3	55.7	28.8	21.6
	計	0	66.1	38.4	9.9	11.2	4.8	35.8	54.8	38.3	29.9

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2013～2022年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

h コブノメイガ

普通期水稻の巡回調査では、発生圃場率は8月中旬と9月中旬で平年より高く、25株当たり被害苞数は8月中旬で平年より多かったが、その他の時期については発生圃場率は平年より低く、25株当たり被害苞数は平年並か平年より少なかった。予察田では、7月下旬に初発生を確認し、期間を通して平年より少なかった。

予察田におけるコブノメイガの発生状況 (2023)

		7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上	9月中	9月下	10月上旬
		7/5	7/14	7/25	8/4	8/16	8/25	9/4	9/15	9/25	10/5
本年	苞数	0	0	1.3	1.3	0	0	0.3	0.7	0	0
平年	苞数	0.04	0.6	2.2	9.7	14.9	14.0	0.7	2.5	0	0
平年比(%)		0	0	62.0	13.7	0	0	48.7	26.7	#DIV/0!	#DIV/0!

注1) 数値は25株当たりの被害苞数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2013～2022年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

i フタオビコヤガ

予察灯では9月13日に1頭のみ誘殺された。巡回調査では期間を通して幼虫は確認されなかった。予察田では期間を通して幼虫は確認されなかった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況 (2023)

		7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上	9月中	9月下	10月上旬
		7/5	7/14	7/25	8/4	8/16	8/25	9/4	9/15	9/25	10/5
本年	幼虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平年	幼虫	0	0.3	0.2	1.7	2.6	1.8	0.2	0.3	0	0
平年比(%)		#DIV/0!	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2013～2022年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

j 斑点米カメムシ類

8月上旬に行ったすくい取り調査では、1か所あたり斑点米カメムシ類成幼虫計7.8頭で平年(2.4頭)と比較して多く、過去10年間で最も多かった。

予察灯における主要害虫の誘殺状況（2023）

豊後大野市三重町60w白熱灯

月	半旬	セジロウンカ				トビイロウンカ				ヒメトビウンカ				ツマグロヨコバイ				フタオビコヤガ		
		♂	♀	計	平年値	♂	♀	計	平年値	♂	♀	計	平年値	♂	♀	計	平年値	計	平年値	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	
	6	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.9	0	0	
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1.7	0	0	0	
	2	0	0	0	0.0	0	0	0	0	1	0	1	0.5	1	4	5	3.8	0	0.0	
	3	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.2	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1.5	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0.3	0	0	
	6	0	0	0	0.3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	
7	1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.4	0	0	0.2	
	2	0	1	1	0.5	0	0	0	0.8	0	1	1	0.2	0	0	0	0.4	0	0.1	
	3	0	0	0	1.8	0	0	0	0.7	0	0	0	0.0	1	0	1	0.4	0	0.3	
	4	0	0	0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0.9	0	0.2	
	5	0	1	1	1.0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.7	0	0	0	5.4	0	0.8	
	6	2	0	2	0.9	0	0	0	0.1	3	0	3	0.1	0	0	0	7.3	0	1.1	
8	1	0	0	0	0.8	0	0	0	1.2	0	0	0	0.5	0	0	0	7.4	0	4.6	
	2	0	0	0	1.1	0	0	0	1.1	0	0	0	0.2	0	0	0	6.8	0	9.4	
	3	32	72	104	1.3	0	1	1	0.6	1	1	2	0.4	6	3	9	16.1	0	15.3	
	4	0	0	0	1.2	0	0	0	0.4	0	0	0	0.5	1	2	3	11.1	0	7.7	
	5	2	3	5	5.4	0	0	0	1.2	0	0	0	1.0	1	1	2	11.9	0	6.7	
	6	0	0	0	9.8	0	0	0	5.3	0	0	0	1.2	0	0	0	20.9	0	2.5	
9	1	0	0	0	6.0	0	0	0	4.7	0	0	0	0.7	1	0	1	12.7	0	1.9	
	2	0	1	1	8.9	0	1	1	39.8	0	3	3	0.8	4	2	6	19.1	0	0.2	
	3	1	0	1	11.2	2	3	5	39.3	2	1	3	0.6	13	19	32	25.3	0	0.3	
	4	0	0	0	11.8	2	0	2	10.3	0	3	3	0.7	14	33	47	11.6	1	0.1	
	5	0	0	0	10.3	0	1	1	3.0	0	0	0	0.1	1	1	2	6.1	0	0	
	6	0	0	0	5.1	1	3	4	26.4	1	0	1	0	1	12	13	3.7	0	0.1	
10	1	1	0	1	4.6	2	0	2	29.4	0	0	0	1.0	9	11	20	3.6	0	0.1	
	2	1	0	1	1.5	0	0	0	20.3	0	1	1	0.4	2	2	4	1.1	0	0	
	3	0	0	0	0.3	0	1	1	66.6	0	1	1	0.2	1	0	1	0.4	0	0	
	4	0	0	0	0.2	0	2	2	5.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0.8	0	0	0	12.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0.1	0	0	0	2.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		39	78	117	86.4	7	12	19	272.0	9	11	20	10.6	58	95	153	184.8	1	51.6	

イ 麦類

(ア) 予察圃場の耕種概要

病害予察圃場の概要（麦類）

供試品種	裸麦：トヨノカゼ、ハルアカネ 大麦：サチホゴールドデン、ニシノホシ 小麦：チクゴイズミ、はるみずき、ミナミノカオリ
播種月日	令和4年11月21日
播種量	7.5g/m ² /1品種
播種方法	六条植
圃場面積	14m ² /1品種
施肥	令和4年11月10日化成肥料（14-14-14）40kg/10a
追肥	令和5年1月30日に化成肥料（16-0-16）15kg/10a
出穂期	トヨノカゼ：4月3日、ハルアカネ：4月4日 サチホゴールドデン：3月30日、ニシノホシ：4月1日 チクゴイズミ：4月8日、はるみずき：4月8日 ミナミノカオリ：4月8日

(イ) 病害虫に関する調査成績

- a 赤かび病
発生は認められなかった。
- b さび病類、うどんこ病
発生は認められなかった。
- c 網斑病、黄斑病
令和5年4月14日に‘トヨノカゼ’‘ハルアカネ’‘サチホゴールドデン’
‘ニシノホシ’で網斑病の初発生が認められた。
また、4月5日に‘チクゴイズミ’‘はるみずき’‘ミナミノカオリ’で
黄斑病の初発生が認められた。
- d 黒穂病類
発生は認められなかった。
- e アブラムシ類
‘サチホゴールドデン’‘チクゴイズミ’‘はるみずき’で発生が確認された。
期間を通じて少発生で推移した。
- f 斑葉病
発生は認められなかった。
- g その他の病害虫
発生は認められなかった。

県予察圃場における麦類病害虫発生状況（令和5年度、令和4年播種）

品種	麦種	出穂期	調査月日	赤かび病		赤さび病		うどんこ病		黒穂病類		網斑病・黄斑病		アブラムシ類		備考		
				発病粒率	発生程度	発病度	発生程度	発病度	発生程度	発病茎率	発生程度	発病度	発生程度	寄生程度	発生程度			
サチホゴールド	二条大麦	3月30日	4/5															
			4/14								0.7	微						
			4/24									5.0	少	1.0	少			
			5/8															赤かび病のみ調査
ニシノホシ	二条大麦	4月1日	4/5															
			4/14									3.3	少					
			4/24										20.0	少				
			5/8															赤かび病のみ調査
トヨノカゼ	裸麦	4月3日	4/5															
			4/14									2.7	少					
			4/24										15.7	少				
			5/8															赤かび病のみ調査
ハルアカネ	裸麦	4月4日	4/5															
			4/14									0.3	微					
			4/24										14.7	少				
			5/8															赤かび病のみ調査
チクゴイズミ	小麦	4月8日	4/5											0.3	微	1.0	少	
			4/14															
			4/24										2.3	少				
			5/8															赤かび病のみ調査
はるみずき	小麦	4月8日	4/5											0.3	微	1.0	少	
			4/14										1.3	少	1.0	少		
			4/24										5.7	少				
			5/8															赤かび病のみ調査
ミナミノカオリ	小麦	4月8日	4/5											3.7	少			
			4/14										4.0	少				
			4/24										5.7	少				
			5/8															赤かび病のみ調査

ウ 大豆

(ア) 予察ほ場の耕種概要

ほ場面積：2.8a (14m×20m)

品 種：フクユタカ

播 種：7月14日(手播)

栽植密度：条間70cm×株間20cm 2粒播種

施 肥：豆化成50kg/10a

種子消毒：クルーザーMAXX (8ml/kg) 6月28日

除草剤：ラクサー乳剤 (500ml/100L/10a) 播種直後

中耕培土：8月16日(歩行型管理機)

(イ) 病虫害発生状況調査

病虫害発生状況は、8月4日から10月16日までの間、概ね10日間隔でランダムに抽出した50株についてカメムシ類、ハスモンヨトウの生息虫数を見取りで調査した。ハスモンヨトウは農林水産研究指導センターの本館屋上に乾式トラップ(旧住化武田農薬株式会社製)を設置し、4～11月の間に雄成虫の誘殺数を調査した。大豆予察ほ場における子実の病虫害被害状況は、収穫時に圃場内10地点から1株ずつ(1株2茎)計20茎の子実を採取・分解し、病虫害別に被害粒率を算出した。

a カメムシ類

大豆予察ほ場では、イチモンジカメムシは8月25日に確認され平年より10日程度遅く、アオクサカメムシは9月15日に確認され、平年より30日程度遅かった。ホソヘリカメムシは年間を通して確認されなかった。カメムシ類は8月下旬を除き平年より少なく推移した。子実分解調査の結果、カメムシ類による被害粒率は9.3%(平年17.1%)で、平年に比べ被害が少なかった。

b ハスモンヨトウ

乾式フェロモントラップでは、4月1半旬に初誘殺を確認し、誘殺数は全期間を通して平年並か平年より少なく推移し、総誘殺数は平年より少なかった。

c シンクイムシ類

子実分解調査の結果、被害粒率30.0%(平年8.3%)であり、平年に比べ被害が多かった。

d 紫斑病

子実分解調査の結果、被害粒率5.4%(平年8.9%)であり、平年に比べ被害が少なかった。

e モザイク病(褐斑粒)

子実分解調査の結果、被害粒は認められなかった(平年の被害粒率1.1%)。

予察ほ場における害虫の発生調査結果(2023)

害虫名		8月上旬	8月中旬	8月下旬	9月上旬	9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬
		8月4日	8月16日	8月25日	9月4日	9月15日	9月25日	10月5日	10月16日
イチモンジカメムシ	幼虫	本年 0	0	0	0	0	0	0	0
	平年	0	0	0	0	0.1	0.1	1.5	6.0
	成虫	本年 0	0	4	1	1	1	0	0
	平年	0	0.0	0.8	1.6	2.5	0.7	0.7	0.2
アオクサカメムシ	幼虫	本年 0	0	0	0	0	0	0	1
	平年	0	0	0.2	0.3	1.1	1.5	7.6	2.7
	成虫	本年 0	0	0	0	2	1	3	1
	平年	0	0.0	0.6	1.3	1.4	3.6	1.0	1.2
ミナミアオカメムシ	幼虫	本年 0	0	0	0	0	0	0	0
	平年	0	0	0	0	0	0.6	1.8	0
	成虫	本年 0	0	0	0	0	0	0	0
	平年	0	0	0	0.2	0.1	0.9	0.2	0.3
ホソヘリカメムシ	幼虫	本年 0	0	0	0	0	0	0	0
	平年	0	0	0.1	0.1	0	1.0	1.0	0.3
	成虫	本年 0	0	0	0	0	0	0	0
	平年	0	0	0.3	0.6	0.6	1.2	0.4	0.5
カメムシ類計	幼虫	本年 0	0	0	0	0	0	0	1
	平年	0	0	0.3	0.4	1	3.2	11.9	9.0
	成虫	本年 0	0	4	1	3	2	3	1
	平年	0	0	1.7	3.7	4.6	6.4	2.3	2.2
ハスモンヨトウ	卵塊	本年 0	0	0	0	0	0	0	0
	平年	0	0	0	0	0.1	0.5	0	0
	幼虫	本年 0	1	1	1	2	6	0	0
	平年	0	0	0.6	1.9	116.7	55.2	13.1	0.5

注1) 数値は50株当たりの生息虫数

注2) 平年値は過去10カ年(2013~2022年)の豊後大野市三重町赤嶺のデータ

注3) 播種は7月14日

予察ほ場における子実分解調査結果(2023)

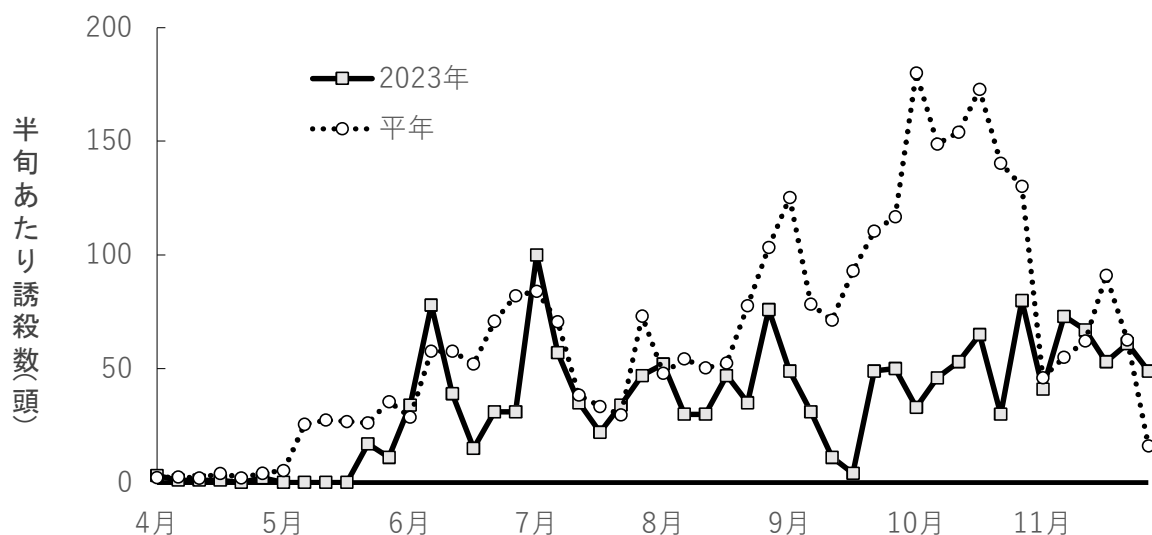
調査年	調査英数	調査粒数	健全粒数	被害		病害		紫斑病		褪斑粒		その他病害		害虫被害		カメムシ類		シクイムシ類		ハスモンヨトウ		アザミムシ		その他害虫		その他被害		ダイズサヤタマハエ被害	
				被害粒数	同率(%)	被害被害粒数	同率(%)	紫斑病	同率(%)	褪斑粒	同率(%)	その他病害	同率(%)	害虫被害粒数	同率(%)	カメムシ類	同率(%)	シクイムシ類	同率(%)	ハスモンヨトウ	同率(%)	アザミムシ	同率(%)	その他害虫	同率(%)	その他被害	同率(%)	ダイズサヤタマハエ被害	同率(%)
本年	35.0	48.9	39.0	9.9	20.2	0.2	0.3	0	0	0	0	0.2	0.3	8.3	17.0	4.6	9.3	2.7	5.4	0.1	0.2	0	0	1.0	2.0	1.4	2.9	0.9	2.6
前年	24.1	29.8	5.6	24.2	81.2	0.2	0.5	0.1	0.3	0	0	0.1	0.2	21.1	70.6	10.8	36.2	9.0	30.0	0	0	0	0	1.3	4.4	3.0	10.1	0.3	1.0
平年	72.9	81.6	43.7	37.8	46.4	13.0	16.0	1.4	1.8	1.1	1.3	10.5	12.9	24.4	29.9	13.9	17.1	7.2	8.9	0.4	0.5	2.2	2.7	0.6	0.8	0.4	0.5	2.6	3.6

備考: 数値は1茎当たりの平均値。調査英数は稔実英数。ダイズサヤタマハエは被害粒数ではなく被害英数。

乾式フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数（頭）（2023）

月	半旬	誘殺数		月	半旬	誘殺数		月	半旬	誘殺数	
		本年	平年			本年	平年			本年	平年
4	1	3	2.1	7	1	100	84.1	10	1	33	180.0
	2	1	2.4		2	57	70.6		2	46	148.8
	3	1	1.9		3	35	38.4		3	53	154.0
	4	1	3.9		4	22	33.4		4	65	172.8
	5	0	2.0		5	34	29.6		5	30	140.3
	6	2	4.0		6	47	73.1		6	80	130.3
5	1	0	5.2	8	1	52	47.9	11	1	41	46.0
	2	0	25.5		2	30	54.3		2	73	55.0
	3	0	27.4		3	30	50.3		3	67	62.1
	4	0	26.8		4	47	52.4		4	53	91.0
	5	17	26.1		5	35	77.7		5	61	62.6
	6	11	35.5		6	76	103.4		6	49	16.1
6	1	34	28.7	9	1	49	125.3	計		1674	3080.9
	2	78	57.6		2	31	78.3				
	3	39	57.7		3	11	71.3				
	4	15	52.0		4	4	93.0				
	5	31	70.8		5	49	110.4				
	6	31	82.0		6	50	116.8				

※平年値は2013年から2022年の豊後大野市三重町における10年間の平均データ



ハスモンヨトウ誘殺数の推移（2023）

エ 果樹

(ア) 予察圃場における発生状況

a 目的

果樹の主要病害虫の発生状況を調査し、定期的な予察情報を発表するとともに、状況に応じ注意報や防除技術情報等を的確かつ迅速に情報提供するための基礎資料とする。

b 調査方法

(a) 調査場所 果樹グループ内（宇佐市）ナシ、ブドウおよびウメ圃場

(b) 対象病害虫

【病害】 ナシ黒星病
ブドウべと病

【害虫】 ナシヒメシクイ、チャノコカクモンハマキ、チャノキイロアザミウマ

(c) 調査方法

【病害】

ナシ黒星病

無防除‘豊水’27年生において、芽基部病斑を約100芽基部（3反復）調査し、芽基部病斑率を算出した。

ブドウべと病

無防除‘巨峰’31年生において、6月以降10日間隔で100葉（3反復）について、発病の有無を調査した。

【害虫】 ナシヒメシクイはウメ園とナシ園内に、チャノコカクモンハマキはナシ園に粘着式フェロモントラップを各1基、チャノキイロアザミウマはブドウ園に粘着トラップ（ホリバー黄）を設置し、半旬ごとの誘殺数を調査した。なおルアーおよび粘着シートは1か月毎に交換した。

c 結果及び考察

【病害】

(a) ナシ黒星病の芽基部病斑率は4.3%で平年より多かった（表1）。また、幼果、葉の発病は4月3半旬から確認された。

(b) ブドウべと病の初発生は6月7日だった（データ略）。

【害虫】

(a) ナシヒメシクイはナシ園において4月上中旬、5月下旬～6月上旬、6月下旬～7月上旬と不明瞭であるが8～9月の4回ピークが認められた。全体としては平年並だったが、平年より遅くまで発生が続いた（図1）。ウメ園において4月上旬、5月下旬～6月上旬、8月中旬の3回ピークが認められ、10月以降は減少傾向であった（図2）。

(b) チャノコカクモンハマキは4月下旬、6月下旬、7月下旬、8月中下旬、9月下旬、10月中下旬にピークが認められ、ピーク時は平年を大きく上回った（図3）。

(c) チャノキイロアザミウマは初誘殺を5月6半旬に確認し、6月中下旬、7月中旬、8月上中旬にピークが認められた（図4）。

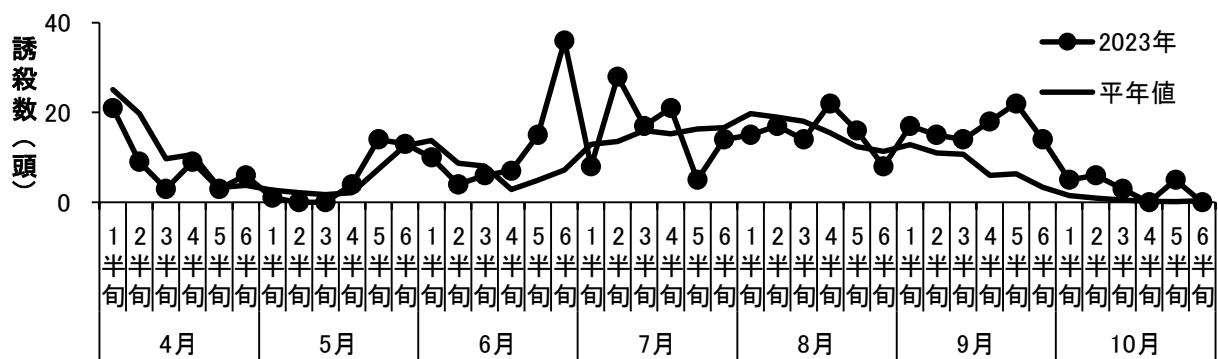


図1 ナシヒメシクイの発生消長（ナシ園）

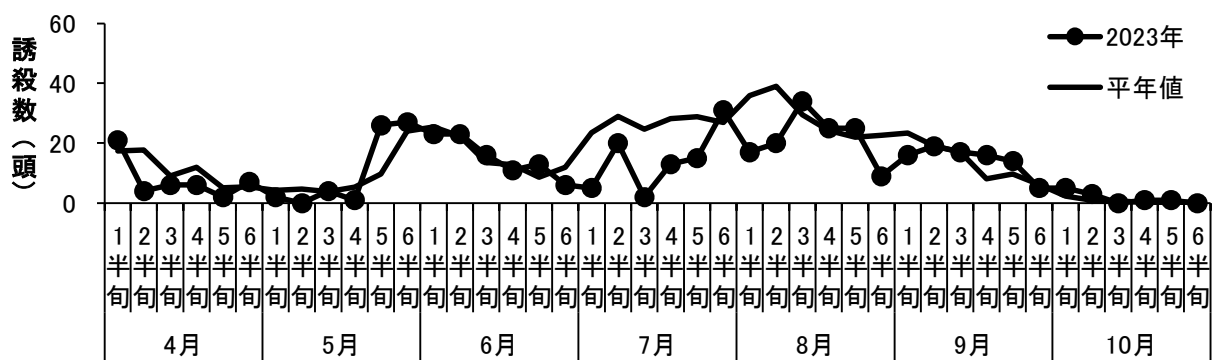


図2 ナシヒメシクイの発生消長（ウメ園）

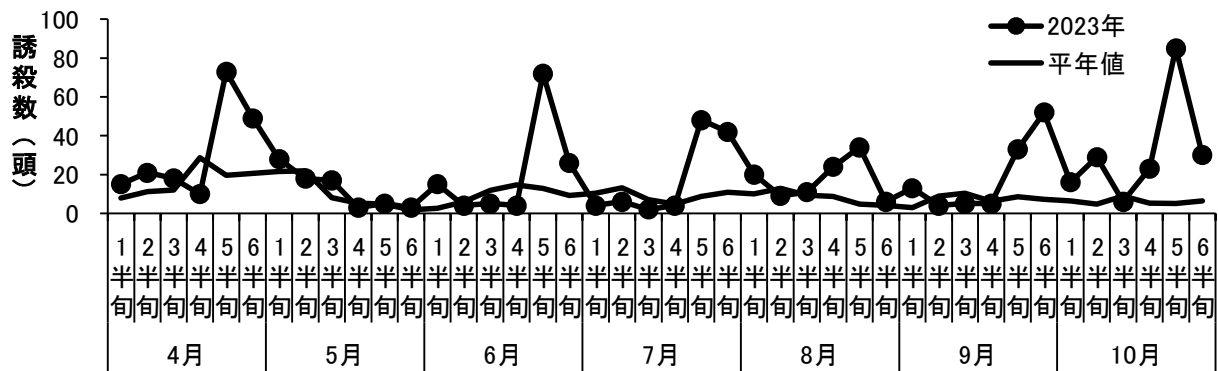


図3 チャノコクモンハマキの発生消長

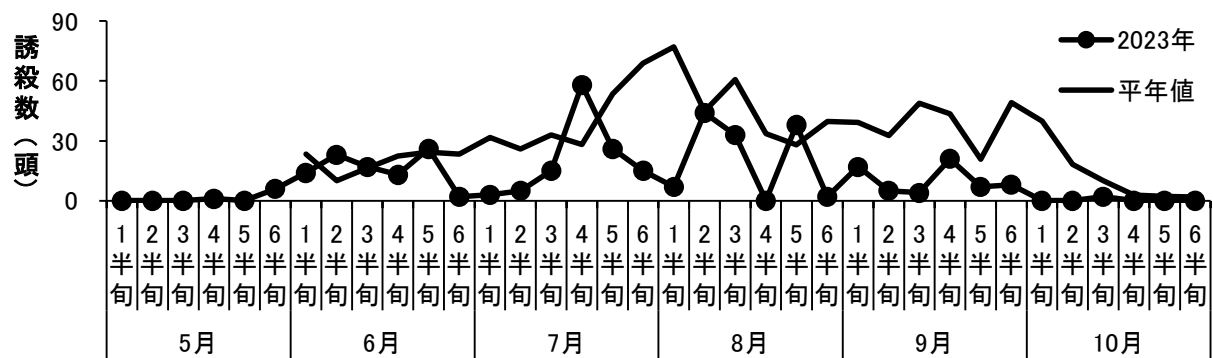


図4 チャノキロアザミウマの発生消長

表 1 無防除‘豊水’の満開日と黒星病発生状況

年	満開日	黒星病芽基部病斑		
		初確認日	調査日	病斑率(%)
2000	4/13	4/20	4/20	2.1
2001	4/10	4/17	4/27	5.9
2002	4/2	4/10	4/24	8.7
2003	4/11	4/9	4/24	12.0
2004	4/5	4/20	4/22	4.0
2005	4/11	4/14	4/21	3.3
2006	4/11	4/11	4/21	2.5
2007	4/4	4/9	4/20	1.0
2008	4/11	4/9	4/21	3.6
2009	3/30	4/20	4/20	0.5
2010	3/30	4/22	4/26	2.7
2011	4/11		4/20	0
2012	4/12	4/18	4/18	0.4
2013	4/3	4/16	4/26	4.8
2014	4/6		4/24	0.7
2015	4/6	4/20	5/1	10.3
2016	4/5	4/21	4/28	1.3
2017	4/14		4/28	0
2018	4/2		4/27	2.6
2019	4/5		4/26	0.3
2020	4/7		4/28	0
2021	3/29	4/21	4/21	6.5
2022	4/4		4/26	0
2023	4/1	4/12	4/28	4.3
平年	4/5	4/19		2.7

※平年値は最新年を除いた直近 10 年の平均。

(イ) 果樹カメムシ類の発生状況調査

越冬量調査

2023年1月に6地点、追加調査で2月に3地点で、チャバネアオカメムシ成虫の越冬量を調査した。調査は、1地点当たり1m²の落葉を3か所採取し、ビニール袋に入れて持ち帰り、20～23℃の部屋に静置した後、チャバネアオカメムシ成虫を計数した。

フェロモントラップ誘殺数調査

県果樹試験場3地点にフェロモントラップを設置し、4～10月の半旬ごとに誘殺された果樹カメムシ類を種別に調査した。トラップは、サンケイ化学コガネコール用誘引器（黄色）を使用し、フェロモンルアーは、約30日間隔で交換した。

ヒノキ毬果における口針鞘数調査

日田市、宇佐市において7月と8月の下旬に、ヒノキ毬果における口針鞘数を調査した。調査は、1地点当たり3樹、1樹当たり概ね5枝から採取した毬果のうち任意の20果を、酸性フクシン水溶液0.1%で染色した後、縫合部に形成された口針鞘を検鏡、計数した。

越冬世代成虫の発生状況

- ① 2023年1月に行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬量調査では、確認されなかった（図1）。
- ② 初誘殺は、3地点とも4月4～6半旬に認められ、平年並であった。
- ③ 誘殺数は、3地点とも平年よりも少なかった（図2）。

新世代虫の発生状況

- ① 主な餌となるスギ・ヒノキ毬果の着果量は地域間差が大きいですが、8月中旬以降のフェロモントラップへの誘殺数は、宇佐市、国東市、津久見市は平年より少なく推移した。（図2）。
- ② 新世代幼虫及び成虫によるヒノキ毬果の口針鞘は、7月下旬の調査結果では日田市（0.4）、宇佐市（3.7）であった。
7月下旬の口針鞘数から飛来予測時期を計算した結果、日田市は9月8日、宇佐市は9月2日であった（表1）。

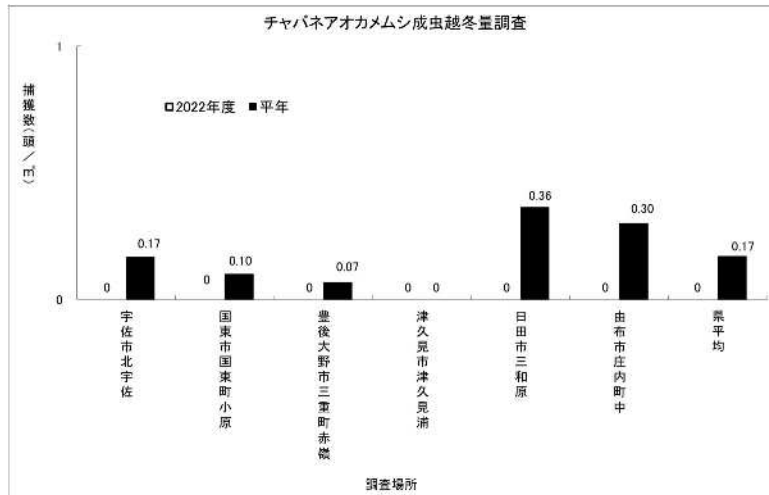


図1 果樹カメムシ類越冬量調査結果(2023年1月調査)

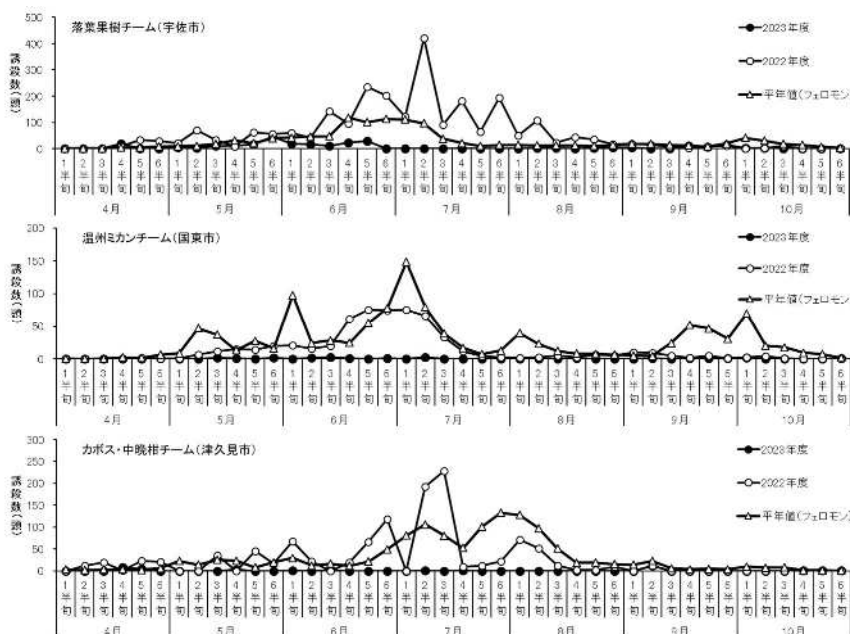


図2 果樹カメムシ類の誘殺状況(2023年度)

調査地点	7月	8月	飛来予測日
	下旬	下旬	(7月下旬)
日田市三和	0.4	1.2	9月8日
宇佐市北宇佐	3.7	5.7	9月2日

表1 ヒノキ毬果の口針鞘数の推移

※日田市7月18日及び8月18日調査、宇佐市7月24日及び8月22日調査

※園地飛来日の予測式

$$y = 54.17 - 3.776X + 0.01937X^2$$

(y: 7月下旬からの日数、X: 7月下旬の口針鞘数)

オ 茶

(ア) 主要病害虫の発生状況調査

a 目的

チャの主要病害虫に対する発生状況調査を行い、現地での効率的な防除が可能となるように防除情報を発信する。

b 調査方法

(a) 調査場所 大分県農林水産研究指導センター内（豊後大野市）茶栽培圃場

(b) 対象病害虫

【害虫】 チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ

(c) 調査方法

【害虫】 今年度から無防除園にて害虫の発生活消長を調査した。

フェロモントラップ誘殺数調査

センター内の茶栽培圃場に粘着式フェロモントラップを各1基設置し、3～11月の半旬ごとに誘殺されたチョウ目害虫を種別に調査した。ルアーは1ヶ月毎に交換し、粘着シートは誘殺数に応じて交換した。

黄色粘着トラップ誘殺数調査

センター内の茶栽培圃場に黄色粘着トラップを1基設置し、3～11月の半旬ごとに誘殺されたチャトゲコナジラミを調査した。粘着板は計数時に毎回交換した。

c 結果及び考察

【害虫】

(a) チャノホソガは、3月6半旬に441頭と越冬世代の誘殺数が多く、6月1半旬に771頭、7月1半旬に1,203頭誘殺された。夏期の気温が平年より高く、日中の気温が30℃を超える日が多かったため、夏期の発生数は一時的に減少したが、10月1半旬に1,863頭と年間で最も多い発生となった。10月下旬の秋整枝による秋芽の切り落とし及び気温の低下により、その後の発生数は少なかった（図1）。

(b) チャノコカクモンハマキは、越冬世代成虫が4月下旬に発生し、第1世代から第3世代まで100頭以上が誘殺された。防除を実施していないことから、平年と比較して発生量が増加したと考えられる。（図2）。

(c) チャハマキは、越冬世代の発生が4月4半旬に確認されたが、例年より梅雨入りが早かったことや台風6号の影響により、夏期に大きな発生のピークは見られなかった。9月以降は極端に降水量が少なかったため秋季の発生数が増加し、11月3半旬に57頭と年間で最も多い発生となった（図3）。

(d) 越冬世代の発生が、4月5半旬に1,364頭と一番茶摘採時期にピークとなった。その後は生育ステージのばらつきにより誘殺数は減少したが、第1世代から第3世代までの発生が確認された（図4）。

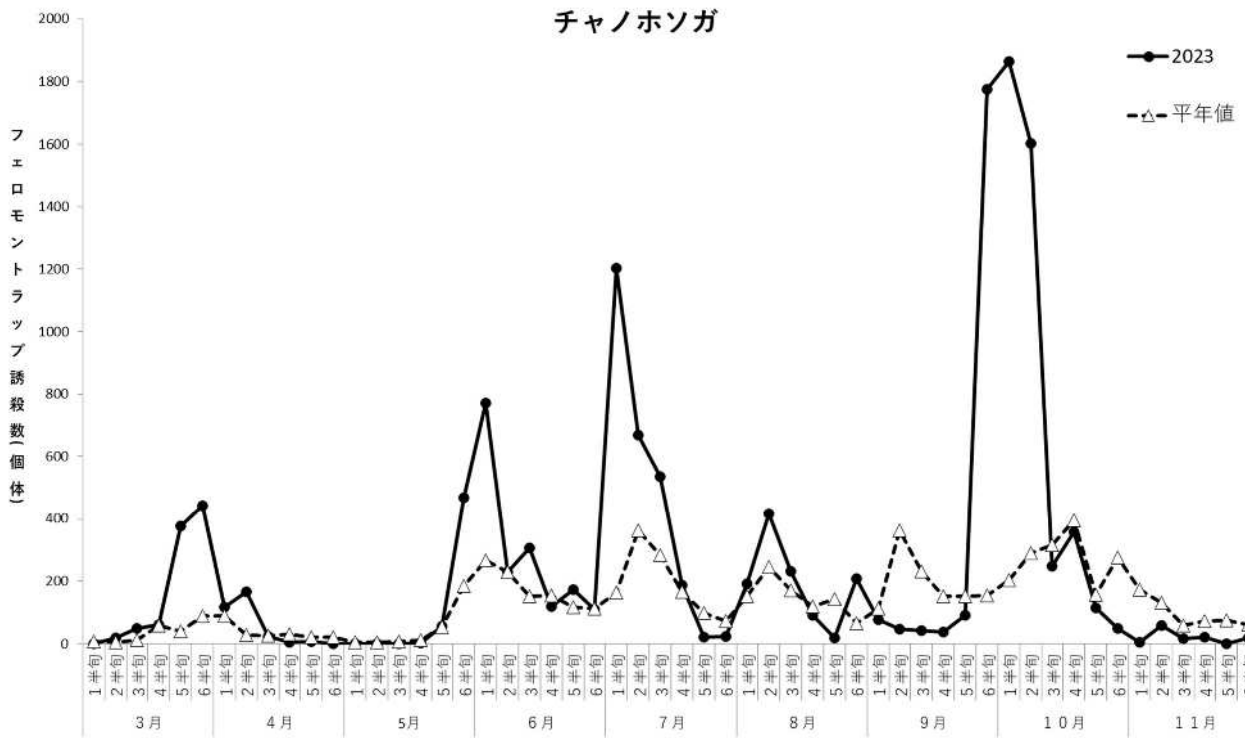


図1 チャノホソガの発発生消長

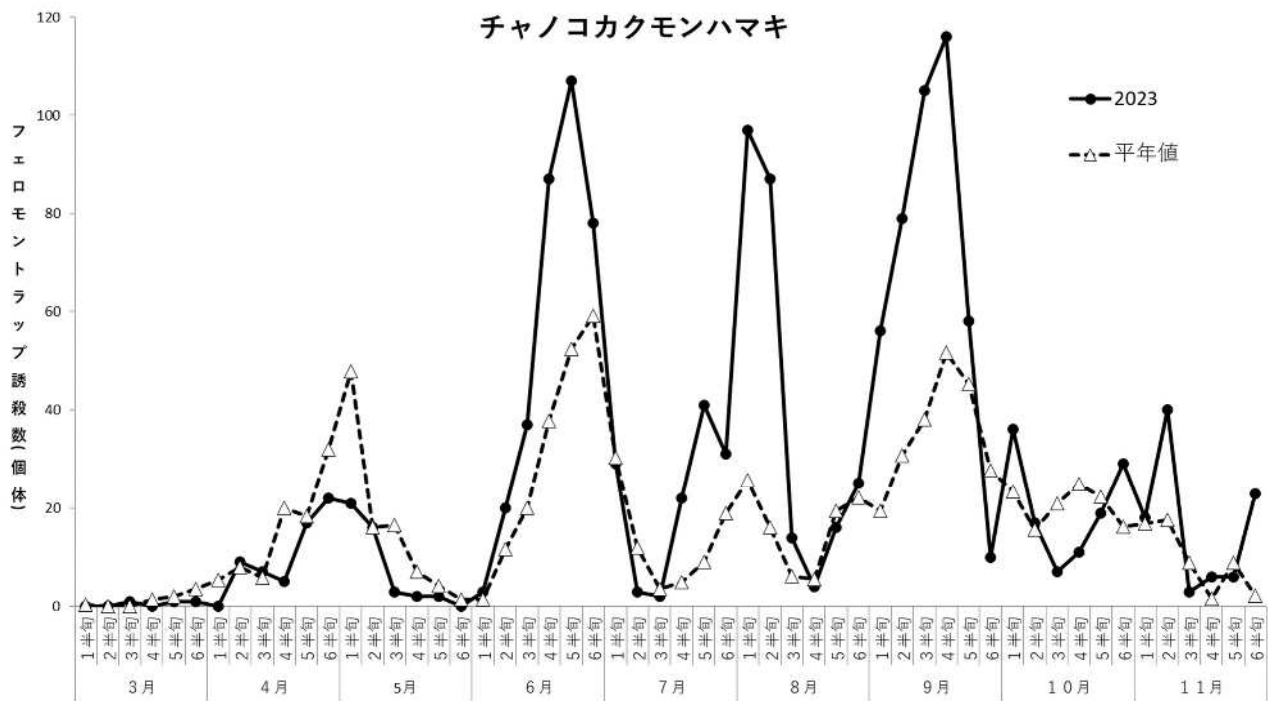


図2 チャノコカクモンハマキの発発生消長

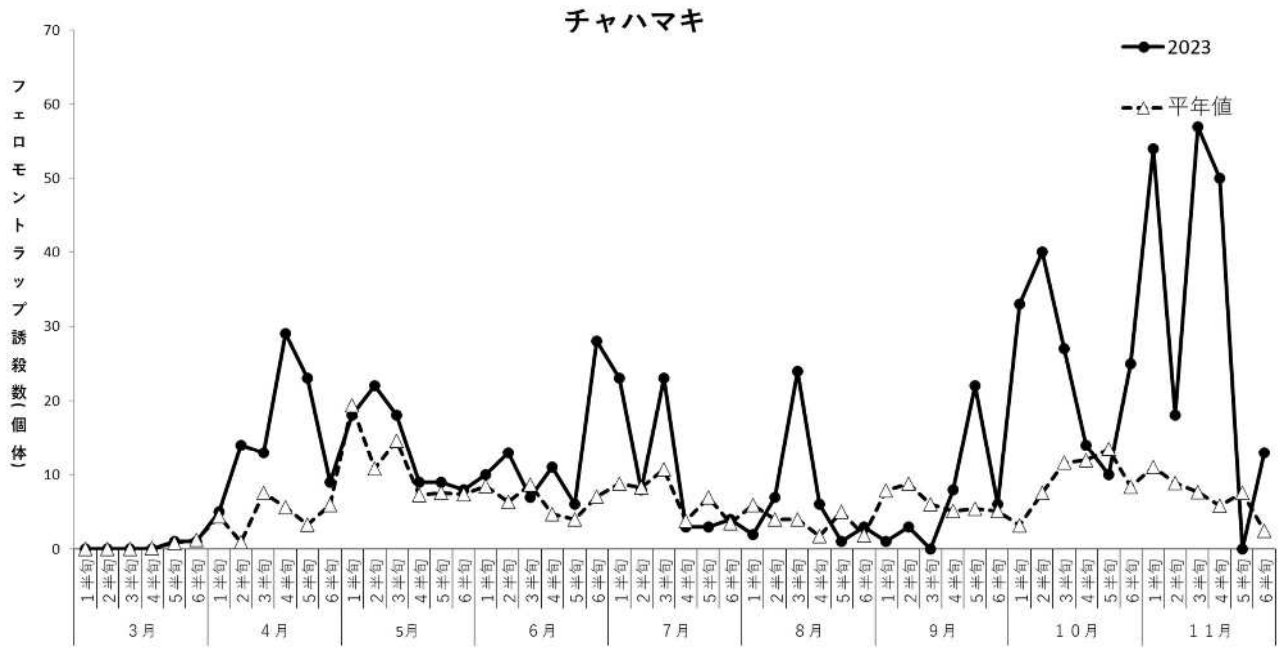


図3 チャハマキの発生消長

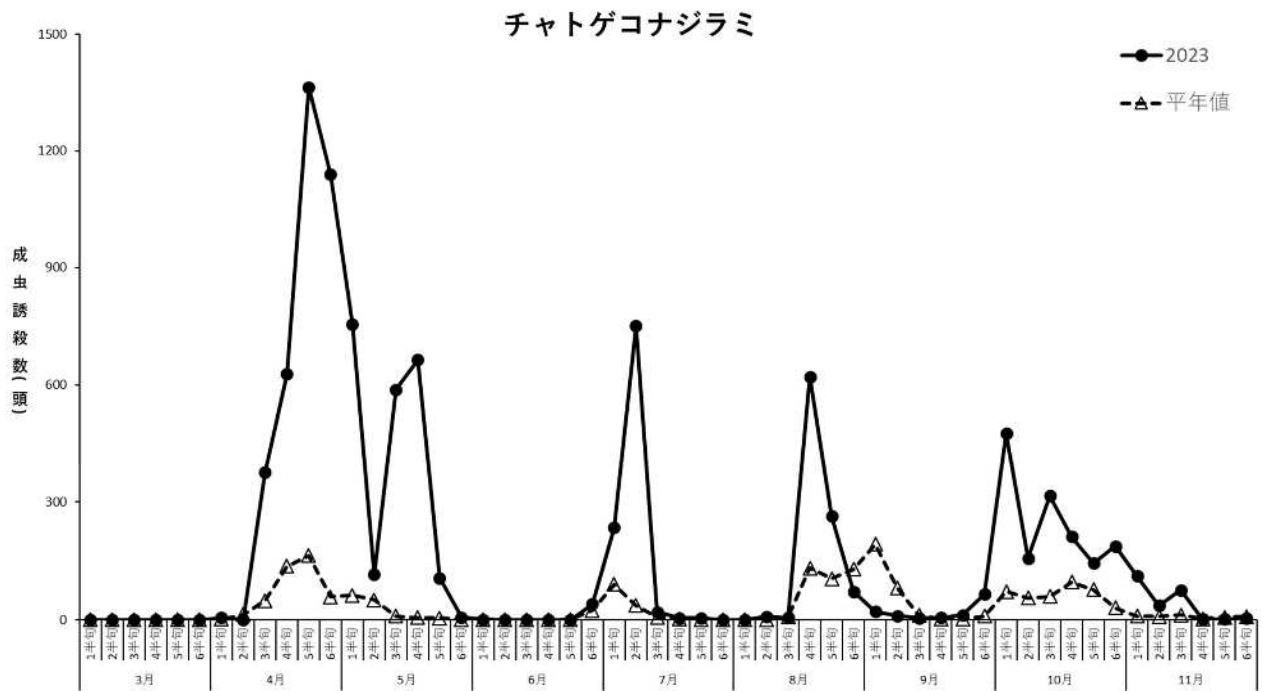


図4 チャトゲコナジラミの発生消長

3 侵入調査事業

植物防疫事業実施要綱に基づく侵入調査の対象となる有害動物又は有害植物の内 25 種について侵入調査を実施した。対象有害動物及び対象作物は下表のとおり。

No.	対象有害動物	対象作物	No.	対象有害動物	対象作物
1	ミカンコミバエ種群	カンキツ、 果菜類（うり類）	13	トマトキバガ	トマト
2	ウリミバエ		14	Meloidogyne enterolobii	
3	クインスランドミバエ		15	Columnnea latent viroid	
4	チチュウカイミバエ		16	Pepper chat fruit viroid	
5	アリモドキゾウムシ		17	トマト退緑萎縮ウイルス	
6	火傷病菌	なし	18	Tomato apical stunt viroid	
7	カンキツネモグリセンチュウ	かんきつ	19	Pepino mosaic virus	
8	カンキツグリーンング病菌		20	Tomato brown rugose fruit virus	
9	Spiroplasma citri		21	Tomato mottle mosaic virus	
10	Xylella fastidiosa		22	Tomato leaf curl New Delhi virus	
11	イネミイラ穂病菌、イネクキセンチュウ、 その他日本に産しない各種の検疫有害動物 物であってイネを害するもの		いね	23	
12	ウメ輪紋ウイルス	うめ	24	コロンビアネコブセンチュウ	
			25	ジャガイモやせいもウイルス	

(1) ミカンコミバエ種群、ウリミバエ、クインスランドミバエ、チチュウカイミバエ

ア 調査方法及日調査時期

調査はスタイナー型トラップにより、誘引剤としてユーゲルア D8（ミカンコミバエ種群、ウリミバエ、クインスランドミバエ対象）、メドフライコール（チチュウカイミバエ対象）を使用して誘殺状況を調査した。調査は令和 5 年 4～12 月まで毎月 2 回実施し、誘引剤は毎月 1 回取り替えた。

イ 調査場所及び調査結果

下表の 10 地点で調査した結果、対象害虫は調査期間を通じて誘殺されなかった。

対象作物	設置区分	No.	調査場所	調査期間の累計誘殺数（頭）			
				ミカンコミバエ	ウリミバエ	クインスランドミバエ	チチュウカイミバエ
共通 柑 橘	試験場	1	果樹グループ落葉果樹チーム（宇佐市北宇佐）	0	0	0	0
		2	果樹グループ温州ミカンチーム（国東市国東町小原）	0	0	0	0
	集出荷場	3	JAおおいた杵築柑橘選果場（杵築市杵築）	0	0	0	0
		4	JAべっふ日出柑橘選果場（日出町日出）	0	0	0	0
		5	JAおおいた柑橘選果場（大分市津守）	0	0	0	0
共通	市庁舎	6	佐伯市上浦振興局（佐伯市上浦津井浦）	0	0	0	0
		7	佐伯市米水津振興局（佐伯市米水津浦代浦）	0	0	0	0
	県庁舎	8	佐伯市蒲江振興局（佐伯市蒲江元猿）	0	0	0	0
		9	大分県豊肥振興局（竹田市竹田）	0	0	0	0
		10	大分県西部振興局（日田市城町）	0	0	0	0

(2) アリモドキゾウムシ

ア 調査方法及び調査時期

粘着板の簡易トラップに誘引剤としてアリモドキルアーII を使用して誘殺状況を調査した。

令和 5 年 9～11 月に毎月 1 回調査し、誘引剤は調査時に取り替えた。

イ 調査場所及び調査結果

下表の 2 地点で調査した結果、対象害虫は調査期間を通じて誘殺されなかった。

対象作物	設置区分	No.	調査場所	調査期間の累計確認数（頭）
				アリモドキゾウムシ
カンショ	集出荷場	1	JAおおいた大野野菜集荷場（豊後大野市大野町）	0
		2	JAおおいた野津野菜集荷場（臼杵市野津町）	0

(3) 火傷病菌

巡回調査時に調査圃場において、目視による調査を実施した。

ア 調査品目、調査場所及び調査時期

ナシ（品種：豊水）を対象として新梢伸長期及び果実肥大期にあたる 5，7，8 月に調査を実施した。

調査場所は以下のとおり。

火傷病菌

No.	調査場所	No.	調査場所
1	中津市是則	5	日田市美濃
2	日田市東有田	6	玖珠郡九重町恵良
3	日田市東有田	7	由布市庄内町小松台
4	日田市美濃	8	由布市庄内町小松台

- イ 調査結果
発生は確認されなかった。

(4) カンキツネモグリセンチュウ、カンキツグリーンング病、Spiroplasma citri、Xylella fastidiosa

巡回調査時に調査圃場において、目視による調査を実施した。

ア 調査品目、調査場所及び調査時期

温州ミカンの春・夏・秋芽の各伸長時期に当たる4，6，8月に調査を実施した。
調査場所は以下のとおり。

No.	調査場所	No.	調査場所
1	杵築市茅場	6	津久見市平岩
2	杵築市日野	7	佐伯市海崎
3	速見郡日出町川崎	8	佐伯市米水津色利浦
4	大分市大在	9	宇佐市宇佐
5	津久見市平岩	10	宇佐市和間

- イ 調査結果
発生は確認されなかった。

(5) イネミイラ穂病菌、イネクキセンチュウなど

ア 調査場所、調査方法、調査時期、調査結果等

7～9月の巡回調査時に調査圃場にて目視による調査を実施した。いずれも発生は確認されなかった。

調査場所は下表のとおり。

No.	調査場所
1	竹田市倉木
2	宇佐市下矢部

(6) ウメ輪紋ウイルス

ア 調査場所、調査時期及び調査方法

日田市に調査園を設定し（ウメ、スモモ各3園地）、令和5年6月7日に調査対象植物の目視調査を行った。また、1園あたり5樹から5葉ずつ葉を採取し、門司植物防疫所に送付して、イムノクロマト法による検定を依頼した。

イ 調査結果

下表のとおり調査した結果、疑義症状は認められなかった。門司植物防疫所の検定結果は全て陰性であった。

対象作物	設置区分	No.	調査場所	品種	症状	イムノクロマト法 検定結果
ウメ	栽培地	1	日田市大山町東大山	南高	無	(-)
スモモ	栽培地	2	日田市大山町西大山	大石早生	無	(-)

(7) トマトキバガ

令和5年5月に竹田市荻町において、フェロモントラップで1頭のトマトキバガが誘殺された。6月以降もフェロモントラップで誘殺が続いた。また、10月31日のトマト及びミニトマトの生産施設で本種による被害が確認された。

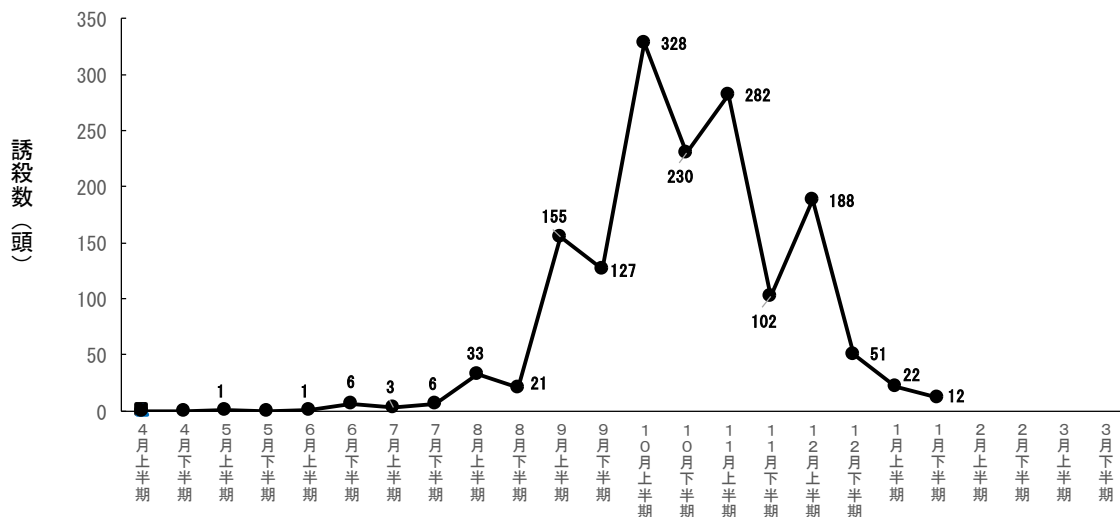
ア フェロモントラップによる調査方法

トマトキバガのフェロモンルアーを誘引剤として、ジャクソン型トラップを県内9か所に設置し、4月以降1か月に2回の間隔で誘殺状況を調査した。
 イ フェロモントラップの設置場所、調査期間、誘殺数

対象作物	No.	設置場所	設置区分	調査期間	誘殺数	備 考
夏秋トマト	1	豊後大野市三重町	試験場	令和5年4月～	136	県農林水産研究指導センター
	2	竹田市荻町①	育苗センター	令和5年4月～	93	JAおおいた
	3	竹田市荻町②	栽培施設	令和5年4月～	512	
	4	竹田市荻町③	栽培施設	令和5年4月～	539	
	5	竹田市久住町	栽培施設	令和5年4月～	36	
	6	玖珠郡九重町①	栽培施設	令和5年4月～	191	
	7	玖珠郡九重町②	栽培施設	令和5年4月～	38	
	8	玖珠郡九重町③	栽培施設	令和5年4月～	23	
	9	玖珠郡玖珠町	栽培施設	令和5年4月～	0	

※誘殺数は令和6年1月31日現在。

令和6年1月31日現在、9か所中8か所で1,568頭のトマトキバガが誘殺された。



トマトキバガのフェロモントラップによる誘殺数の推移 (2023年度)

ウ 圃場調査結果

10月31日から11月9日にかけてトマト、ミニトマトの夏秋栽培施設(簡易型ハウス)を97戸調査した結果、37%で発生を確認し、うち30%で被害が多かった。被害が多かった施設の中には果実への加害も確認されたものもあった。被害確認後、11月2日に病害虫発生予察注意報を発表し、11月28日にトマトキバガ防除対策会議を開催した。

(8) トマトにおけるトマトキバガ以外の侵入調査対象種

ア 調査対象有害動植物及び調査場所及び調査時期

トマトにおけるトマトキバガ以外の侵入調査対象種は12種で、いずれも巡回調査圃場10か所の調査圃場において、4～11月に目視による調査を実施した。

イ 調査結果

発生は確認されなかった。

IV 参考資料

1 令和5年気象概況

(1) 月別気象概況（大分地方気象台観測）

1月

上旬の天気は、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬の天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、前線や気圧の谷、湿った空気や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。下旬の天気は、寒気の影響を受ける日が多く、24日から25日にかけては強い冬型の気圧配置となり、西部、北部を中心に大雪となった。

2月

上旬及び中旬の天気は、周期的に変化した。下旬の天気は、期間の中頃は前線や気圧の谷等の影響で雨が降ったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

3月

上旬の天気は、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬の天気は、前半は高気圧に覆われて晴れる日が多く、後半は低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。下旬の天気は、前半は低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、21日は大雨となった所もあったが、後半は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

4月

上旬の天気は、期間の中頃は前線、気圧の谷や湿った空気の影響で雨が降ったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬及び下旬の天気は、短い周期で変化した。

5月

上旬の天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、期間の中頃は低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となり、6日から7日は大雨となった所があった。中旬の天気は、短い周期で変化した。下旬の天気は、前半は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。後半は梅雨前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、30日から31日は大雨となった。九州北部地方（山口県を含む）は、29日ごろに梅雨入りしたと見られる。

6月

上旬の天気は、低気圧や梅雨前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった所もあった。中旬の天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、梅雨前線、上空の寒気や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が多かった。下旬の天気は、低気圧や梅雨前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。

7月

上旬の天気は、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もあった。中旬の天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、梅雨前線、気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が多かった。下旬の天気は、気圧の谷や湿った空気、上空の寒気や日射の影響で曇りや雨、雷雨となる日もあり、大雨となった所もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。九州北部地方（山口県を含む）は、25日ごろに梅雨明けしたと見られる。

8月

上旬の天気は、前半は気圧の谷、湿った空気や日射の影響で、後半は台風第6号の影響で曇りや雨となり、大雨となった日もあった。中旬の天気は、低気圧や気圧の谷、湿った空気や日射の影響で曇りや雷雨となり、大雨となった日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。下旬の天気は、気圧の谷、湿った空気や日射の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

9月

上旬の天気は、気圧の谷や湿った空気、上空の寒気や日射などの影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬の天気は、前線、湿った空気や日射などの影響で曇りや雷雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。下旬の天気は、前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

10月

上旬の天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が多かった。中旬の天気は、前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。下旬の天気は、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

11月

上旬の天気は、後半は前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬の天気は、低気圧や前線、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。下旬の天気は、気圧の谷や寒気の影響を受ける日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

12月

上旬の天気は、気圧の谷、湿った空気や寒気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬及び下旬の天気は、前半は気圧の谷や寒気の影響で雨や雪の降る日が多かったが、後半は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

(2) 大分地方気象台における気象表

観測地点：大分市長浜町

平年値：1991～2020年

月	旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		相対湿度 (%)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	上	7.5	7.0	12.8	11.4	2.4	2.8	58	62	0	10.1	78.1	51.6
	中	9.8	6.6	13.7	10.6	6.0	2.7	75	63	19.0	20.0	28.0	45.6
	下	3.8	6.1	8.1	10.3	-0.4	2.2	64	63	26.5	19.7	51.5	52.3
	月間	7.0	6.6	11.5	10.8	2.7	2.6	66	63	45.5	49.8	157.6	149.5
2	上	7.4	6.4	11.8	10.7	3.1	2.3	72	62	33.0	14.5	40.5	54.0
	中	9.3	7.2	12.9	11.5	5.3	3.0	68	63	26.5	26.9	41.4	51.3
	下	7.5	8.2	11.6	12.6	4.0	4.0	67	65	10.5	22.7	45.8	43.8
	月間	8.1	7.3	12.1	11.6	4.1	3.1	69	63	70.0	64.1	127.7	149.1
3	上	10.6	9.0	16.4	13.4	5.1	4.9	66	64	0.5	33.2	81.5	55.1
	中	12.3	10.1	17.6	14.8	7.4	5.6	71	65	34.5	28.9	64.7	56.5
	下	14.0	11.3	18.1	15.7	10.6	7.1	76	65	73.0	37.2	41.3	63.3
	月間	12.3	10.1	17.4	14.6	7.7	5.9	71	65	108.0	99.3	187.5	174.9
4	上	15.4	13.2	20.2	18.0	10.7	8.7	65	65	40.5	38.1	74.4	61.5
	中	16.5	14.9	21.7	19.7	11.3	10.4	71	65	48.5	36.4	67.3	63.7
	下	16.2	16.3	20.7	21.3	12.0	11.7	66	66	39.5	45.2	57.2	64.9
	月間	16.0	14.8	20.9	19.7	11.3	10.3	67	65	128.5	119.7	198.9	190.1
5	上	18.2	18.4	23.3	23.2	13.0	13.9	64	68	70.0	38.7	73.9	63.2
	中	19.3	19.2	23.9	24.0	15.2	14.8	76	67	38.5	50.4	72.7	63.9
	下	21.2	20.4	25.7	25.0	17.5	16.1	74	69	84.0	44.4	63.5	67.4
	月間	19.6	19.3	24.3	24.1	15.2	14.9	71	68	192.5	133.5	210.1	194.5
6	上	20.7	21.4	24.3	25.7	17.6	17.7	83	73	133.0	53.6	39.4	54.8
	中	23.4	22.6	28.0	26.6	19.8	19.4	80	77	19.5	114.7	49.7	47.4
	下	25.0	23.7	28.9	27.4	22.5	20.9	84	81	224.0	145.3	35.0	33.6
	月間	23.0	22.6	27.1	26.6	20.0	19.3	82	77	376.5	313.6	124.1	135.8
7	上	25.6	25.5	29.8	29.4	22.8	22.5	89	80	171.0	140.2	40.7	46.0
	中	28.1	26.8	32.2	31.0	24.9	23.6	79	77	11.5	70.3	59.6	57.2
	下	28.2	27.9	33.1	32.3	24.8	24.5	79	75	69.0	50.8	87.1	77.5
	月間	27.3	26.7	31.7	30.9	24.2	23.5	82	77	251.5	261.3	187.4	180.7
8	上	28.7	28.2	32.6	32.8	26.2	24.7	82	74	165.5	63.9	46.8	70.5
	中	28.8	27.9	32.9	32.4	25.9	24.6	79	75	40.5	50.1	72.3	64.8
	下	28.0	27.1	32.1	31.5	24.7	23.7	81	75	70.5	51.6	67.6	67.6
	月間	28.5	27.7	32.5	32.2	25.6	24.3	81	75	276.5	165.6	186.7	202.9
9	上	27.5	25.9	31.3	30.1	24.3	22.5	74	75	2.5	72.6	74.8	54.7
	中	27.0	24.4	31.0	28.4	24.0	21.0	83	74	27.0	106.6	53.6	51.6
	下	25.5	22.5	29.3	26.2	22.6	19.1	77	74	6.5	76.1	47.7	45.3
	月間	26.7	24.3	30.5	28.2	23.6	20.9	78	74	36.0	255.3	176.1	151.6
10	上	21.3	21.1	25.1	25.1	18.1	17.4	68	72	39.0	43.1	40.3	51.1
	中	19.5	19.2	24.2	23.6	15.1	15.2	66	70	0.0	57.7	72.3	55.3
	下	17.1	17.3	22.8	21.6	12.2	13.3	63	69	0.0	44.1	96.3	57.8
	月間	19.3	19.2	24.0	23.4	15.1	15.3	66	70	39.0	144.9	208.9	164.2
11	上	18.1	15.7	23.8	20.1	13.2	11.4	73	70	8.5	26.0	68.4	52.1
	中	12.5	13.8	16.8	18.1	8.1	9.6	63	68	5.5	28.7	68.4	48.8
	下	12.8	11.9	18.0	16.3	7.7	7.6	66	68	0.0	18.3	66.7	47.2
	月間	14.5	13.8	19.5	18.2	9.7	9.5	67	69	14.0	73.0	203.5	148.1
12	上	10.2	9.9	15.5	14.3	5.2	5.8	70	66	1.0	20.0	58.3	48.5
	中	11.0	8.4	14.6	12.7	7.4	4.3	75	64	0.5	11.9	21.3	47.2
	下	6.7	7.8	11.9	12.2	2.5	3.7	68	63	20.0	15.2	68.0	55.4
	月間	9.3	8.7	14.0	13.1	5.0	4.6	71	64	21.5	47.1	147.6	151.1

備考) 月間の数値は気温・湿度については平均値、降水量・日照時間については積算値

(3) 農業研究部における半旬別気象表

観測地点：大分県豊後大野市三重町

平年値：1981～2010年

月	半旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			相対湿度 (%)			降水量 (mm)			日照時間 (h)		
		本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	比	本年	平年	比
1	1	3.5	4.5	-1.0	12.3	10.9	1.4	-3.4	-1.3	-2.1	65.4	75.3	-9.9	0.0	5.1	0.0	43.9	26.6	164.9
	2	5.9	4.3	1.6	13.5	10.5	3.0	-1.7	-1.4	-0.3	67.1	75.2	-8.1	1.5	6.3	23.7	36.8	25.9	141.9
	3	10.5	4.1	6.4	16.5	10.1	6.4	4.9	-1.5	6.4	85.3	75.7	9.6	24.5	7.6	322.8	11.9	24.4	48.9
	4	5.5	3.9	1.6	11.4	9.7	1.7	0	-1.6	1.6	74.1	75.8	-1.7	0.5	8.0	6.3	20.8	23.2	89.5
	5	1.7	3.7	-2.0	6.8	9.6	-2.8	-3.1	-1.8	-1.3	75.3	75.0	0.3	18.5	7.4	248.5	25.3	24.0	105.5
	6	1.3	3.6	-2.3	7.9	9.7	-1.8	-4.3	-2.0	-2.3	68.2	74.1	-5.9	4.0	8.2	48.8	32.6	31.4	103.9
	月間	4.7	4.0	0.7	11.4	10.1	1.3	-1.3	-1.6	0.4	72.6	75.2	-2.6	49.0	42.6	114.9	171.3	155.5	110.2
2	1	4.0	4.0	0.0	12.0	10.3	1.7	-2.5	-1.9	-0.6	74.5	74.2	0.3	0.0	6.7	0.0	28.2	28.2	99.9
	2	5.9	5.2	0.7	10.9	9.9	1.0	1.2	0.3	0.9	87.2	70.6	16.6	45.0	7.7	582.3	13.2	28.6	46.1
	3	7	5.7	1.3	11.6	10.5	1.1	2.2	0.7	1.5	78.8	71.2	7.6	34.0	11.0	308.0	15.9	29.7	53.6
	4	8.8	5.9	2.9	15.6	10.7	4.9	2.3	1.0	1.3	66.9	73.0	-6.1	0.5	14.2	3.5	30.3	28.8	105.1
	5	5.9	6.1	-0.2	10.6	10.8	-0.2	1.9	1.2	0.7	77.7	74.3	3.4	15.5	16.2	95.8	18	28.2	63.9
	6	5.1	6.3	-1.2	14.4	11.1	3.3	-2.6	1.4	-4.0	71.4	74.6	-3.2	0.5	10.5	4.8	28.8	17.1	168.6
	月間	6.1	5.5	0.6	12.5	10.6	2.0	0.4	0.5	-0.0	76.1	73.0	3.1	95.5	66.3	144.0	134.4	160.6	83.7
3	1	7.3	6.5	0.8	15.2	12.8	0.8	0.3	0.4	-0.1	69.1	75.5	-6.4	1.0	13.5	7.4	36.8	26.6	138.1
	2	10.6	7.1	3.5	20.6	13.6	0.8	1.4	0.8	0.6	70.4	75.0	-4.6	2.5	15.8	15.8	39.9	27.6	144.5
	3	10.9	7.9	3.0	19.5	14.3	1.0	1.7	1.5	0.2	68.5	75.5	-7.0	2.5	20.0	12.5	44.2	27.6	160.4
	4	11.1	8.6	2.5	17.9	14.9	0.6	5.0	2.3	2.7	81.6	76.2	5.4	28.5	22.1	128.7	20.9	26.9	77.8
	5	15.2	9.2	6.0	18.5	15.4	3.5	12.9	3.1	9.8	90.8	76.6	14.2	53.5	21.8	245.8	3.1	26.1	11.9
	6	11.1	9.9	1.2	18.2	16.3	4.7	4.4	3.8	0.6	71.4	75.6	-4.2	7.5	25.1	29.8	35.1	32.3	108.8
	月間	11.0	8.2	2.8	18.3	14.6	3.8	4.3	2.0	2.3	75.3	75.7	-0.4	95.5	118.3	80.7	180.0	167.1	107.7
4	1	14.3	11.1	3.2	21.3	17.7	3.6	7.6	4.6	3.0	67	74.1	-7.1	4.5	20.3	22.2	34.3	28.9	118.7
	2	13.9	12.2	1.7	20.4	18.9	1.5	7.4	5.7	1.7	68.8	73.6	-4.8	23.5	20.0	117.3	35.9	29.8	120.6
	3	14.7	13.1	1.6	21.5	19.7	1.8	7.3	6.6	0.7	77.3	73.5	3.8	40.0	20.0	200.0	27.6	29.9	92.4
	4	16.6	13.9	2.7	24	20.5	3.5	9.2	7.4	1.8	69.6	73.5	-3.9	2.0	20.5	9.7	38	30.0	126.7
	5	13.9	14.7	-0.8	19.6	21.4	-1.8	8.6	8.1	0.5	69.5	73.5	-4.0	13.0	21.2	61.4	24.4	30.2	80.9
	6	15.5	15.6	-0.1	21.9	22.2	-0.3	8	9.1	-1.1	74.7	74.4	0.3	15.0	22.5	66.8	26.0	29.7	87.6
	月間	14.8	13.4	1.4	21.5	20.1	1.4	8.0	6.9	1.1	71.2	73.8	-2.6	98.0	124.5	78.7	186.2	178.4	104.4
5	1	16.6	16.6	0.0	23.4	23.1	0.3	9.4	10.2	-0.8	67.9	75.5	-7.6	1.5	23.9	6.3	35.4	28.6	123.7
	2	16.9	17.3	-0.4	22.6	23.7	-1.1	11	11.0	0.0	73.1	75.9	-2.8	40.0	24.2	165.2	31.1	28.1	110.8
	3	17.5	17.6	-0.1	24	24.0	0.0	11.7	11.5	0.2	74	75.7	-1.7	20.5	24.3	84.3	35.5	27.6	128.6
	4	19.7	18.0	1.7	26.6	24.3	2.3	13.9	11.9	2.0	77.5	75.7	1.8	10.0	23.1	43.2	29.9	27.5	108.8
	5	18.9	18.5	0.4	26.3	24.8	1.5	11.7	12.5	-0.8	69.3	76.2	-6.9	9.0	22.3	40.4	40.6	27.6	147.4
	6	21.2	19.2	2.0	26.3	25.3	1.0	16.9	13.3	3.6	81.3	77.5	3.8	109.0	28.3	385.0	17.6	32.4	54.4
	月間	18.5	17.8	0.6	24.9	24.2	0.7	12.4	11.7	0.7	73.9	76.1	-2.2	190.0	146.1	130.0	190.1	171.7	110.7
6	1	20.8	19.9	0.9	26.4	25.9	0.5	15.5	14.2	1.3	78.0	78.9	-0.9	82.0	24.9	329.9	23.5	26.1	90.1
	2	19.1	20.5	-1.4	23.2	26.2	-3.0	16.1	15.2	0.9	89.8	80.4	9.4	82.0	29.9	274.5	13.3	24.0	55.4
	3	21.8	21.0	0.8	26.7	26.4	0.3	18.8	16.2	2.6	88.6	82.6	6.0	23.5	40.5	58.0	5.2	21.5	24.2
	4	23	21.7	1.3	29.9	26.7	3.2	17.1	17.4	-0.3	76.2	84.5	-8.3	0.0	52.6	0.0	36.3	19.7	183.9
	5	23.5	22.5	1.0	28	27.2	0.8	19.9	18.5	1.4	80.8	85.4	-4.6	13.0	62.1	20.9	16.1	18.2	88.3
	6	25.8	23.3	2.5	30.3	28.0	2.3	21.7	19.4	2.3	82.6	85.3	-2.7	58.0	66.6	87.1	16.7	18.3	91.4
	月間	22.3	21.5	0.9	27.4	26.7	0.7	18.2	16.8	1.4	82.7	82.9	-0.2	258.5	276.6	93.5	111.1	127.8	86.9

備考) 月間の数値は気温・湿度については平均値、降水量・日照時間については積算値

月	半旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			相対湿度 (%)			降水量 (mm)			日照時間 (h)		
		本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	比	本年	平年	比
7	1	24.6	24.1	0.5	29.0	28.9	0.1	21.4	20.0	1.4	90.1	84.7	5.4	98.0	64.2	152.6	12.2	20.5	59.5
	2	26.8	24.8	2.0	31.9	29.8	2.1	22.7	20.5	2.2	81.5	83.9	-2.4	9.0	55.0	16.4	19.5	22.6	86.4
	3	27	25.4	1.6	32.2	30.5	1.7	22.3	21.0	1.3	79.9	83.2	-3.3	34.5	45.8	75.3	18.1	23.9	75.8
	4	27.5	25.8	1.7	33.3	31.1	2.2	23.2	21.3	1.9	81	82.6	-1.6	8.0	42.2	18.9	35.2	26.1	134.7
	5	26.8	26.0	0.8	33	31.4	1.6	22.5	21.5	1.0	81.1	82.3	-1.2	2.0	44.5	4.5	33.0	28.4	116.0
	6	27.2	26.1	1.1	33.9	31.6	2.3	22.4	21.6	0.8	79.1	82.4	-3.3	28.5	56.0	50.9	44.7	35.5	125.9
	月間		26.7	25.3	1.3	32.2	30.6	1.7	22.4	21.0	1.4	82.1	83.2	-1.0	180.0	307.8	58.5	162.7	157.0
8	1	27.3	26.1	1.2	32.9	31.7	1.2	24.1	21.5	2.6	84.2	82.5	1.7	9.0	44.0	20.5	26.3	30.1	87.4
	2	26.8	26.0	0.8	30	31.6	-1.6	25.2	21.5	3.7	90.0	82.8	7.2	349.5	41.2	848.5	7.3	29.5	24.8
	3	28.0	25.9	2.1	33.8	31.4	2.4	23.6	21.5	2.1	78.0	83.1	-5.1	0.0	38.4	0.0	42.5	28.3	150.3
	4	27.0	25.7	1.3	32.4	31.2	1.2	23.9	21.3	2.6	86.6	83.1	3.5	73.5	35.5	206.9	19.4	28.4	68.4
	5	26.7	25.3	1.4	32.4	30.9	1.5	22.7	20.9	1.8	84.9	83.2	1.7	49.0	35.0	140.1	26.9	29.3	91.9
	6	26.3	24.9	1.4	31.6	30.4	1.2	22.6	20.4	2.2	83.6	83.5	0.1	109.5	44.9	244.1	36.3	34.7	104.6
	月間		27.0	25.6	1.4	32.2	31.2	1.0	23.7	21.2	2.5	84.6	83.0	1.5	590.5	238.9	247.1	158.7	180.2
9	1	26.3	26.1	0.2	31.7	31.7	0.0	22.6	21.5	1.1	82.5	82.5	-0.0	2.0	44.0	4.5	24.3	30.1	80.8
	2	25.2	26.0	-0.8	31.6	31.6	-0.0	21.0	21.5	-0.5	78.6	82.8	-4.2	0.0	41.2	0.0	34.8	29.5	118.1
	3	25.0	25.9	-0.9	30.9	31.4	-0.5	21.7	21.5	0.2	87.1	83.1	4.0	28.0	38.4	72.9	21.5	28.3	76.0
	4	26.3	25.7	0.6	33	31.2	1.8	22	21.3	0.7	83.5	83.1	0.4	9.0	35.5	25.3	34.6	28.4	121.9
	5	23.3	25.3	-2.0	27.1	30.9	-3.8	20.1	20.9	-0.8	84.8	83.2	1.6	39.0	35.0	111.5	15.1	29.3	51.6
	6	24.5	24.9	-0.4	30.9	30.4	0.5	19.9	20.4	-0.5	82.1	83.5	-1.4	0.5	44.9	1.1	37.6	34.7	108.4
	月間		25.1	25.6	-0.5	30.9	31.2	-0.3	21.2	21.2	-0.0	83.1	83.0	0.1	78.5	238.9	32.9	167.9	180.2
10	1	20.0	18.8	1.2	26.2	24.2	2.0	14.7	14.0	0.7	77.8	84.0	-6.2	0.0	29.2	0.0	23.1	24.8	93.0
	2	17.6	17.9	-0.3	22.1	23.5	-1.4	14	12.9	1.1	82.2	83.8	-1.6	23.0	25.5	90.2	21.0	25.9	81.2
	3	17.3	17.0	0.3	23.3	23.0	0.3	12.2	11.8	0.4	77.6	83.2	-5.6	0.5	24.6	2.0	33.4	28.0	119.3
	4	16.7	16.0	0.7	24.8	22.2	2.6	9.6	10.6	-1.0	77.3	82.6	-5.3	0.0	22.5	0.0	39.1	29.0	134.9
	5	14.7	14.9	-0.2	22.9	21.2	1.7	7.9	9.4	-1.5	72.5	82.3	-9.8	0.0	16.8	0.0	48.0	27.9	172.3
	6	14.0	14.0	-0.0	22.5	20.4	2.1	7.5	8.4	-0.9	73.4	82.7	-9.3	0.0	14.0	0.0	48.8	31.6	154.2
	月間		16.7	16.4	0.3	23.6	22.4	1.2	11.0	11.2	-0.2	76.8	83.1	-6.3	23.5	132.5	17.7	44.1	167.2
11	1	16	13.4	2.6	26.5	19.8	6.7	7.5	7.7	-0.2	73.5	83.0	-9.5	0.0	11.1	0.0	44.7	26.0	171.6
	2	15.8	12.8	3.0	21.9	19.0	0.0	10.3	7.1	3.2	82.3	82.5	-0.2	12.0	11.7	102.2	22.8	25.7	88.5
	3	10.3	11.7	-1.4	17.2	18.0	-0.8	3.7	6.1	-2.4	72.4	81.7	-9.3	0.5	10.6	4.7	34.4	25.1	136.8
	4	9.8	10.5	-0.7	15.4	16.9	-1.5	3.1	4.7	-1.6	73.4	81.2	-7.8	8.0	8.6	93.0	33.7	25.1	134.4
	5	10.8	9.5	1.3	19.6	16.0	3.6	2.5	3.6	-1.1	74.1	80.7	-6.6	0.0	8.6	0.0	42.4	24.9	170.4
	6	9.9	8.7	1.2	16.8	15.2	1.6	2.7	2.8	-0.1	75.5	79.8	-4.3	1.0	9.3	10.7	26.4	24.5	107.7
	月間		12.1	11.1	1.0	19.6	17.5	2.1	5.0	5.3	-0.4	75.2	81.5	-6.3	21.5	60.0	35.8	204.4	151.4
12	1	5.7	7.8	-2.1	12.6	14.3	-1.7	-0.2	1.8	-2.0	77.3	78.9	-1.6	10.0	8.6	116.9	23.3	25.2	92.3
	2	9.2	6.9	2.3	18.7	13.5	5.2	1.3	1.0	0.3	80.0	78.1	1.9	0.0	7.3	0.0	36.1	25.9	139.2
	3	13.1	6.2	6.9	17.9	12.7	5.2	7.2	0.4	6.8	89.1	77.4	11.7	18.5	6.3	293.2	13.4	25.5	52.6
	4	5.4	5.6	-0.2	9.8	12.0	-2.2	0.5	-0.2	0.7	72.4	77.8	-5.4	12.0	5.4	221.4	10.0	24.9	40.1
	5	1.8	5.3	-3.5	8.7	11.7	-3.0	-4.4	-0.6	-3.8	67.4	86.6	-19.2	0.0	4.7	0.0	26.7	25.5	104.8
	6	6.3	4.9	1.4	15	11.4	3.6	-1.0	-1.0	0.0	78.6	65.6	13.0	3.5	5.3	66.0	43.2	31.7	136.5
	月間		6.9	6.1	0.8	13.8	12.6	1.2	0.6	0.2	0.3	77.5	77.4	0.1	44.0	37.6	117.2	152.7	158.7

備考) 月間の数値は気温・湿度については平均値、降水量・日照時間については積算値

2 大分県における令和4年産主要作物の栽培面積

単位：ha

水陸稲			麦類				
水稲	陸稲	計	小麦	二条大麦	六条大麦	裸麦	計
18,300	0	18,300	2,960	1,870	9	842	5,680

かんしょ	大豆	小豆	らっかせい	そば	温州みかん	日本なし	ぶどう	キウイフルーツ
378	1,520	53	23	201	648	342	275	61

すもも	うめ	くり	びわ	茶	トマト	なす	ピーマン	いちご
66	247	393	45	471	183	106	124	65

きゅうり	すいか	かぼちゃ	はくさい	キャベツ	だいこん	ブロッコリー	レタス	スイートコーン
131	154	109	407	495	359	39	113	300

みつば	ねぎ	たまねぎ	にら	にんにく	アスパラガス	にんじん	ばれいしょ	さといも
61	1,080	102	59	50	13	134	144	242

ほうれんそう	ごぼう	切り花類	切り花類			牧草	青刈とうもろこし	ソルゴー
			きく	トルコギキョウ	アルストロメリア			
137	76	188	89	7	4	5,080	610	704

出典：令和4年度農林水産省作物統計（確報）

注1：水陸稲及び大豆は、令和5年産確報。

注2：麦類計と4麦の合計は一致しない。

注3：「きく」は「輪ぎく」「小ぎく」「スプレイぎく」の合計。

注4：「小豆」及び「らっかせい」は令和3年産確報。

注5：「かんしょ」及び「茶」は令和2年産確報。

令和5年度 植物防疫事業成績書（年報）

印 刷 令和6年3月
発 行 令和6年3月
編集・発行 大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チーム
大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8
TEL (0974) 28-2078
FAX (0974) 22-0940
